

二二 対中国借款善後策ニ関スル件 九三〇

月早々關係者ニ於テ吉会鉄道借款本契約案ヲ齋シ北京ニ赴ク予定ニ付右ヲ參照シ定ムルコト又關係者ハ右期日ニ本件諸鉄道借款本契約案ヲ支那側ニ提出シ交渉ニ着手スルコト

一、山東二鉄道ノ技術運輸等ノ実務ニ関スルコトハ東亞興業ニ於テ担任スルコト（從テ技師長運輸主任等ハ

東亞ヨリ夫々推薦スルコトナレハシ）

一、借款本契約案ニ付テハ四鄭鐵道借款契約ヲ標準トスルコト

一、滿蒙四鐵道中ニハ曩ニ正金銀行ト支那政府トノ間ニ契

約ニヨリ正金銀行ヨリ資金ヲ融通スルコトトナリ居レルニ付此ノ点ハ適當ノ措置ヲ講スルコト

（一、山東鐵道延長線ノ經營ニ付テハ山東鐵道ノ經營ト聯絡ヲ取り歩調ヲ一ニスルコト）

註 右文書ハ外務省ニ於テ事前ニ大藏省ト打合ノ上十二月二十日ノ本件關係者協議会ニ提出セラレタルモノナリ尚右別紙冒頭ニハ前掲附屬書一ノ別紙ニ附セラレタル附箋ト同文ノ附箋附セラレタリ

事項一三 中 国 内 政 関 係 雜 件

九三一 二月五日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛

一月二十四日馮大總統ノ時局談

一、時局ト日支親善トノ関係

馮總統ノ日中親善、南北妥協等時局ニ関スル
内話報告ノ件

附屬書

一月二十四日馮大總統ノ時局談

機密第五四号

（二月十二日接受）

大正七年二月五日

在支那

臨時代理公使 芳 沢 謙 吉（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

時局ニ関スル馮大統領内話報告ノ件

一月二十四日貴族院議員井上子爵（匡四郎）カ本官ノ紹介ニヨリ馮大總統ニ謁見ノ際西田通訳官ヲシテ同伴セシメタル處右謁見ノ會談中日支親善談ヨリ時局ニ及ヒタル趣ニテ馮大總統ノ内話ハ其意見ノ一端ヲ表示セシモノト被認候間参考ノ為メ時局情報トシテ同通訳官ヲシテ別紙提出セシメ候間御查閱相成度此段報告申進候也

（附屬書）

以テ迎ヘサルノミナラス北方段氏ニ関係アル人士ニテモ右企画ニ関係ナキモノハ時ニ好意ヲ以テ考量セサルヨリ兎角円満ナル進行ヲ見サルハ甚タ遺憾ナリ自分ハ段氏ノ政見中更ニヨリテ変更スヘカラサルモノト考ヘ殊ニ日支親善問題ニ関シテハ之ニ賛成スルハ勿論現当局者トシテハ時機ヲ見テ更ニ一層ノ親善企画ヲ実行セン考ニテ其時機ト方法ニ付熱量シ居レル次第ナリ云々

二、時局ト中央政府ノ態度及国会問題

馮大總統曰ク中央政府トシテハ南北ヲ区別シ難ク南方ノ擾乱モ北方ノ擾乱モ共ニ支那ノ擾乱ニシテ無益ノ内乱ニヨリ軍費ハ益增加シ人民ノ被害並ニ負担ハ益拡大シ商業ノ不振ヲ來スハ支那ノ一大不幸ナルニ付自分ハ初メヨリ対内政見トシテハ可成内乱ヲ釀成シムルノ政策ヲ避ケ平和的ニ時局ヲ解決セん方針ヲ取レリ蓋シ一党一派例へハ北洋派ノミニテ統一ヲ計ラントスルカ如キハ當國ノ実情ニ鑑ミ不可能ナルヲ以テナリ而シテ今尚其方針ヲ持続シ最近西南諸省ニ対シテハ湖南省長沙方面ヲ始メトシ四川省重慶方面並ニ広東

省汕頭潮州方面ニ於テ北方側ノ讓歩ヲ為シタル以上西南諸省ニ於テモ両広自主宣言ノ如キハ当然取消シテ妥協的態度ニ出テサルヘカラサルニ其取消ヲ為サ、ルノミナラス却テ中央擁護ヲ標榜セル竜濟光等ノ免職ヲ要求シ來リ西南勢力ノ拡張ヲ計リ妥協的態度ニ出デサルハ不都合ナリ要スルニ北方ノ武力解決策ト南方ノ護法主義トノ衝突ハ私見ニ基ク張モ彼等ノ勢力拡張ノロ実ニ過キス從ツテ南北双方ノ妥協モ其主要ナル国会問題ハ結局旧約法ニヨル新国会ヲ召集スルコト南北双方主張ノ折衷案ニシテ南北共ニ極端主張派ハ勿論反対スヘキモ大体ニ於テハ南北共ニ差シタル反対ナリニ付右条件ヲ以テ妥協ヲ計ルノ外ナシト思考ス尤モ西南諸省ニシテ飽迄此妥協条件ニ応セサル場合ハ參議院ニ於テ討議中ナル国会組織法及擇舉法議決ノ結果ヲ參酌シ之ニヨリ国会ヲ召集スル外ナシト考ヘ居レリ何分ニモ支那時局ハ南北共ニ種々複雜ナル事情アリ今後幾多ノ曲折アルヘキガ中央政府トシテハ其意見ヲ徹底的ニ直ニ実行シ難キ場合多ク大總統代理タル自分ノ地位ハ頗ル苦心ヲ要スル点諒察ヲ請フ云々

九三一 二月十六日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ

馮國璋王士珍派ニ武力圧迫ヲ加ヘントスル徐

樹錚ノ計画ニ関シ徐ノ河野ニ対スル内話報告
ノ件

第一九五号 極秘

(二月十六日接受)

二月十五日河野カ徐樹錚ヨリ極内密ニ聞キタル所ナリトテ船津ニ内話シタル所ニ拠レハ徐樹錚等予テノ計画ハ愈々之ヲ決行スルコト、ナリ先般來張作霖ノ手ニテ募集訓練中ナリシ三個師団ハ一部分ヲ奉天方面ニ残シ在来ノ旧軍隊ト混合シテ合計三個師団ノ兵數トナシ之ヲ三支隊ニ分チ一隊ハ豊台ニ、一隊ハ北京天津間ノ一地点ニ、一隊ハ山東ニ夫々分遣シ以テ一面北京ヲ抑ヘ且京漢津浦兩鐵道ノ交通路ヲ完全ニ保護シ他面曹鋗張敬堯等ヲシテ異心ヲ生セサラシムルト同時ニ彼等ヲシテ專心南方討伐ニ從事セシムル計画ナリ其ノ先発部隊ハ既ニ福建應援ノ名義ニテ昨日頃奉天ヨリ秦皇島ニ着シ汽船ニ乗込ミタルモ右ハ一旦出帆シタル後十九日頃日本ヨリ武器ノ到着スル頃ヲ見計ヒ再ヒ秦皇島ニ向キ返シ同所ニテ奉天ヨリ來着スヘキ後続部隊ト合シ新着ノ武

器彈薬ヲ受取リタル上夫々前述ノ如キ予定ノ地点ニ向ケ發進スル筈ナリ又徐樹錚ハ張作霖ト打合セノ為メ十九日頃当地出發奉天ヘ密行スベク今後右軍隊ノ配置終ルヲ待チ王總理ヲシテ辭職ノ余儀ナキニ至ラシメ更ニ進ンテ馮總統モ病氣ト称シテ隱退セシメタル上徐世昌其後ヲ引受クルニ至ルベク總理ハ段祺瑞之ニ当ルカ倪嗣冲之ヲ引受クルカ未定ナルモ政治家トシテノ手腕ハ倪ノ方優レリトノ説モアレバ若シ倪ガ總理トナル場合ハ段ハ出テ、倪ノ後任(長江巡閱使)ヲ引受クルト同時ニ江蘇督軍ヲ兼ネ長江一帯ヲ控制スルノ任務ニ当ルコト、ナルベシトノ事ナリ以上徐樹錚内話ノ密謀ハ先般來進捗シ居タルモノニテ今般愈々本邦ヘ注文ノ軍器統々秦皇島ニ到著シツ、アルタメ之ガ實行ニ著手シタルモノナルヘシ去リナガラ反対派タル馮國璋、王士珍側ニ於テモ現ニ疾クヨリ徐樹錚等ニ此種ノ陰謀アルコトヲ看破シ居タルモノ、如ク從テ王ノ如キハロニコソ辭職ノ希望ヲ表白シタルモ事實ニ於テ之ヲ實行セズ成ルベク段側ノ説ニ接近スルノ態度ニ出テ、事ノ窮迫ヲ防カントシタルモノ、如ク旁々馮、王側ニ於テモ段派ノ計画ニ対シテハ相當ノ準備有之モノト看做スヲ穩當トスベシ果シテ然リトセバ本件計

一三 中国内政関係雑件 九三三 九三四

九七四

画ガ予定ノ通り円満ニ進行スベキヤハ尚ホ聊カ断言ヲ憚カ
ラザルヲ得ス

天津、上海、漢口、南京、奉天へ転電セリ

九三三 二月十七日 在奉天赤塚總領事ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

秦皇島到着ノ武器彈薬ヲ奉天ニ輸送及三個師

団編成ノ旨並馮總統ニ対スル意向ニ付張作霖

内話ノ件

第五三号

(二月十七日接受)

張作霖曰ク秦皇島ニ著シタル銃器彈薬ハ七回ニ分チ当地ニ輸送セラル、筈ニテ其一回分ハ既ニ到着シタリ馮總統ハ右武器ヲ以テ自カラ有力ナル軍隊ヲ編成セントシタルヲ以テ段祺瑞、徐世昌ノ計ヒニテ之ヲ奉天ニ廻ハシ此地ニ於テ三個師団ヲ編成セシムルコト、ナリタリ右師団ノ編成ハ二ヶ月内ニ了ル予定ニテ其統率竝行動ハ一一段祺瑞ノ采配ニ俟ツコト、ナリ居レリ我党ハ馮總統ノ位置ヲ動カズノ意思ナキモ其意見ハ飽迄斥クル考ナリ王總理去ラバ陸徵祥一時總理ノ任ニ就クナラン且ツ李純ニシテ其態度ヲ改メザレバ其内討伐ヲ見ルニ至ルベシ尚ホ福州ニ向ヒタル援兵一千五百議ノ上可然御措置アリタシ

ケムトスル両国ノ方針ニ多大ノ障礙ヲ來ス所以ト思料セラルニ付此際馮國璋徐世昌段祺瑞等ノ間ニ十分意思ノ疏通ヲ図リ同心協力シテ此時局ニ處スルノ途ニ出テムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ右ニ對シ章公使ノ尽力ヲ依頼シ置キタリ尚馮國璋ニ對シテハ青木中將ヨリ段祺瑞ニ對シテハ坂西少將ヨリ夫々右ノ主旨ニテ勧告ヲ試ムル筈ニ付貴官ハ両官ト協議ノ上可然御措置アリタシ

九三五 二月二十三日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

徐樹錚ノ計画ニ關シ馮總統其他中國側ニ対シ
我方ヨリ適當ノ注意ヲ与フルコトシタル旨
報告ノ件

第一四三号

(支那政界動搖予防方)

貴電第九八号ニ關シ徐樹錚ノ計画ハ其後諸般ノ状況ニ徴スルニ蹉跌ヲ來シタルモノ、如ク且ツ軍器モ果シテ張作霖ノ許迄輸送セラレタルヤ未タ確報ニ接セザル次第ニモ有之旁々多分貴電御憂慮ノ如キ局面ノ現出ヲ見ルコトナカルベシト存セラル、処參謀本部ヨリモ斎藤少將宛ニテ同少將並青

(前電兵數七五〇ヲ更ニ倍加シタリト云フ) ハ二月十六日朝海路秦皇島ヲ出發シタリ

在支公使及閩東都督へ転電セリ

九三四 二月二十一日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

馮國璋徐世昌段祺瑞ノ協力方ニ付章公使ニ依
賴シ置キタル旨通報並青木中將及坂西少將ト

協議ノ上可然措置方訓令ノ件

第九八号

貴電第一九五号ニ關シ徐樹錚等ノ計画實行セラルニ於テハ北京ノ政界ハ渾沌ヲ極メ我對支政策上至大ノ障礙ヲ來スノ虞アルニ付本大臣ハ二月二十日章公使ヲ招キ私談トシテ各方面ノ情報ニ依レハ馮總統及王總理ヲ隠退セシメテ徐世昌段祺瑞等ヲシテ政權ノ地位ニ置カムトスル計画アル趣ノ處其ノ根本ノ目的ハ鞏固ナル中央政府ヲ樹立シテ支那ノ統一ヲ図ルニ在リトスルモ之カ為北京ノ政界ハ更ニ混亂ヲ來スヘク之ヲ世界政局ノ現状ニ鑑ミルモ將又之ヲ支那刻下ノ对外關係ニ顧ミルモ斷シテ機宜ノ措置ニ非スト信セラレ且支那ノ政界動搖シテ安定ヲ得サルコトハ日支提携ノ実ヲ挙

木中將及坂西少將ニ對シ電訓ノ次第モ有之タルニ付二十一日青木中將、斎藤少將來館協議ノ結果青木中將ヨリ同日馮總統ニ對シ又斎藤坂西兩少將ヨリモ夫々支那側ニ對シ適當ノ注意ヲ与フルコトニシ本官ニテモ御訓示ノ趣旨貫徹方適宜然ルヘク措置スルコト、致シタリ御含迄

九三六 二月二十四日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

徐樹錚ト張作霖トノ接衝ニ關スル情報報告ノ
件

第二五〇号

(二月二十四日接受)

往電第一四三号ニ關シ二月二十三日夜聞込タル所ニ依レハ徐樹錚ハ二十二日窃ニ奉天ニ赴キ且張作霖ノ軍隊ハ二十四日瀋州迄來ルコトトナリ居レル由右ノ其ノ出所確実ナル筋ニ付多分事実ト認メラル所果シテ然ラハ往電第一四三号前段ハ独リ本官ノミノ観測ニアラサルモ誤リ居リテ之ヲ取消ザルヲ得ザルヤモ計リ難シ何レ明二十四日之レヲ突止メタル上然ルヘク措置スルコトト致スヘシ

奉天、天津へ電報セリ

九三七 二月二十四日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
上原參謀総長宛（電報）

青木中将ト王士珍トノ会談ニ関シ報告ノ件

電報

二月廿四日午後八時二十分北京発
二月廿五日午前八時五分東京著

坂極秘電第九十二号

坂 西 少 将

青木中将ハ本日王士珍ニ会見シ昨日大總統ニ致セント同様ノ勧告ヲ為セシニ彼亦頗ル感謝シ昨日ノ大總統ト同様今現実ニ陰謀カ行ハレアルモノトハ信シ居ラス只先日奉天ヨリ福建ニ送レル軍隊後外一千余名ノ奉天兵政府ノ許可ヲモ経ス秦皇島ニ来レルヨリ種々ノ風説ヲ生シ又多少疑ハンキ点ナキニ非サルヲ以テ今陸軍部ヨリ人ヲ該方面ニ派シ実情取調中ナリト語リ彼モ段祺瑞ニ何等ノ異心アルモノトハ信シ居ラス仮令段ノ配下ノ策士連カ何カノ計画ヲ為シアルトシテモ隣邦ノ意図此ノ如クナル以上決シテ大事ニ至ラサルヘク尚十分注意シテ事ニ当ルヘケレハ安心ヲ乞フト語レリ各地済

九三八 二月二十四日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

往電第一五〇号ニ閲シ該情報ノ出所ハ曹汝霖ナルニ付二十日同人ニ会見詳細ニ亘リ事実ヲ問ヒ糺シタル所其ノ談ニヨレハ自分ハ先般永ラク入院治療ニ從事シ居リタルタメ其ノ間ニ於ケル政局ノ発展ハ十分之レヲ知悉セザルモ今回徐樹錚ノ奉天ニ赴キタルハ世評ノ如キ陰謀遂行ノ為メニアラズ全ク南方出兵ニ閑スル打合ノ為メニシテ間モナク帰京スベシ張作霖ノ軍隊ハ今朝頃瀋州ニ到着シタル筈ナルモ是亦御話ノ如ク大總統及其ノ一派ヲ威嚇セムガ為メニアラズシテ全ク南下ノ為メナリ多分結局徐州辺迄前進スペク過日秦皇島ヲ出發シタル福建行軍隊ト同ジク南方討伐ノ為メニ外ナラズ（福建行軍隊ハ慥ニ福建ニ赴クモノナリトノコトナリ）將又日本ヨリ購入シタル軍器ノ一部ハ多分張作霖ノ軍ニ於テ使用スペキモ決シテ全部ニアラズ世間ニテハ徐樹錚ノ計画ハ馮總統及王總理ヲ隠退セシメ段祺瑞ヲシテ政権ノ地位ニ置カントスルニアルモノノ如ク取沙汰セラルモ王総理ハ事実既ニ隠退シ又馮總統ニ就テハ成程是迄兎角段ヲ

排斥セムトシ両者ノ関係面白カラザルモノアリシハ事実ニテ現ニ自分カ兩三日前大總統ニ謁見シタル節參戰督弁ノ事務ハ仏國出兵ニ關聯セル事項ニ限ルトノ見解ヲ保持シ模範三個師團モ大總統自カラ編成スヘキ旨主張シ居タル次第ノ処其ノ後形勢ノ推移ニ顧テカ態度全ク一変シ昨日特ニ段ヲ引見シタル上參戰督弁ノ職ハ仏國出兵ニ關スル事項ノミニ限ラズ（不明）支那ガ今回ノ大戰ニ參加シタル結果トシテ生スベキ各事項ヲ處理スヘキモノナル旨ヲ申渡シタル後続イテ内閣員一同ヲ引見シテ段ニ対スルト同様參戰督弁ノ職務權限ヲ宣示シタリ右ハ段ハ元來西伯利亞ニ於ケル其ノ後ノ發展ニ顧ミ特ニ三個師團ヲ編成シテ之レヲ同方面ニ出スノ計画ヲ立テ居タルニ馮ハ最近迄之レニ反対ノ態度ヲ持シ居タル処十三日來俄然其ノ態度ヲ一変シ昨日ハ即チ段ニ対シ參戰督弁ノ職務範囲ヲ申渡シ其結果西伯利亞出兵ノ件モ段ノ希望通リ段ニ屬スルコトトナリタル次第ナリ換言スレハ大總統ノ態度ハ最近ニ至リ一変シ段ト歩調ヲ合ハスニ至リタルモノト謂フベク果シテ然ラバ馮總統ヲ隠退セシムル何等ノ理由ナキモノニシテ從テ政變ノ起ルヘキ懸念ナシト謂フベシ尚國務總理ノ後任ニ就テハ種々ノ談アリテ未ダ

決定セザルモ督軍連ノ希望ハ現農商總長田文烈ヲ後任トナスニアリテ本人カ果シテ之レヲ引受クルヤ否ヤハ未ダ判明セザルモ田ノ國務總理後任タルヘキハ只今ノ處最見込アリト謂フベシ云々

以上曹ノ談話ニヨリ察スルニ馮ハ聰明ナル人物故諸般ノ形勢ニ顧ミ最近ニ至リ遽ニ其ノ態度ヲ一変シテ段側ニ接近シ来リタルモノニテ其ノ結果徐樹錚ノ陰謀モ实行ノ必要ヲ認メザルニ至リタルモノニアラザルカ尚政界ノ雲行ニ注意ヲ怠タラザルモ往電第二四三号ノ觀察ハ之レヲ取消スノ必要之レナキモノノ如ク先以テ御憂慮ノ如キ局面ヲ頭出スルコト多分之レナキヤト存ズ尚青木中將ノ馮總統トノ會見ハ參謀本部ヘ電報済ニ付御取寄御閱覽相成度シ

奉天、天津ヘ転電セリ

九三九 二月二十六日 在南京高尾領事ヨリ

本野外務大臣宛

露獨單独休戦ニ伴フ中國國防ニ付田中參謀次長ヨリ李純ニ質問及李ノ回答ニ関シ報告ノ件

（三月五日接受）

在南京
領事 高尾 亨(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

田中参謀次長ヨリ李純ノ意見

問合ニ閑スル件

江蘇督軍顧問多賀大佐病氣帰國中一時代理トシテ当地ニ出

張中ノ磯谷大尉ニ対シ此程田中参謀次長ヨリ上海駐在武官

松井中佐ヲ経テ

「支那ノ内争已ニ久シクシテ人民ノ災害益々激シキカ如シ
其間歐州ノ大戦ハ歳月ト共ニ拡大シ遂ニ露国内ノ紛乱ヲ
惹起シ今ヤ收拾スヘカラサルノ情態ニ陥リ却テ敵国タル
独逸ノ傀儡トナリ惹テ「シベリヤ」北滿ノ無秩序トナリ
更ニ外蒙古、新疆方面ヲモ危殆ナラシメントシツツアリ
叙上獨露ノ行動ニ対スル防衛ハニ日本支那ノ協同ニ俟
タサルヘカラス然ルニ貴國々内ノ争乱ハ前述ノ如クニシ
テ今ヤ对外関係ヲ考慮スルモノナク國勢日ニ憂虞スヘキ
ノ悲運ニ推移セルニ似タリ蓋シ如何ニ自説ヲ逞クスル兄
弟モ屋宇ノ崩壊ニ堪ヘサルト同様如何ニ内政ニ論争スル
モ國家ノ危急ニ際シテハ翻然互ニ悟ルノ時ナリト信ス即

チ露独ニ対スル国家防衛ノ重要ナル原ヨリ内政ノ比ニ非
サルカ故ニ辺境ノ情態真ニ上述ノ如キ危急ナルノ事実ニ
鑑ミ此際内争ノ根本的解決ハ暫ク之ヲ他日ニ譲リ日本支
那協同以テ東亞ノ安全ヲ期スヘキ国防ノ大策ニ着手スル
ヲ目前ノ急務トセサルカ兎ニ角現下内外ノ情勢ニ対スル
閣下ノ高見ヲ拜聴ゼンコトヲ希望ス」
トノ趣旨ヲ李純ニ伝ヘ其意見ヲ聴取シ電報スヘキ旨ノ内命
アリタルニヨリ磯谷大尉ハ其取扱振ニ閑シ本官ノ配慮ヲ求
メ候間本官ハ帝国政府ノ方針トシテハ當國ノ時局ニ対シ今
尚未絶対不干涉ノ地位ニ在ルモノト信スルノ外ナキニヨリ
我政府官憲ノ名ニ於テハ個人タルト公人タルノ如何ヲ問ハ
斯苟モ時局ニ容喙スルノ嫌アル言動ハ之ヲ避クル方穩當ナ
リト思料セラルルノミナラス李純目下ノ境遇ニ於テハ到底
的確ノ意見ヲ言明シ難キモノト推察セラルニヨリ旁々本
件ノ取計ハ暫ク見合セ置ク方可然トハ考ヘラルモ由來田
中次長ヨリハ馮國璋当地在任ノ當時ヨリシテ多賀大佐ヲ通
シ屢々斯種ノ意見ヲ交換セラレタル事實モアリ本官サヘ分
別ヲ明ラカニシ置クニ於テハ格別ノ不都合モアラザルヘク
幸ニ何等参考トナルヘキ意見ヲ聽クコトヲ得ハ至極妙ナル

ヘシト答ヘ二月二十五日清野書記生ヲ随伴セシメテ同大尉
ヲ李純ニ紹介シ絶対ニ次長ノ個人ノ意向ナル旨ヲ前提トシ
テ前記ノ要旨ヲ伝ヘタルニ李ハ

「次長ノ言ハ實ニ赤誠ヨリ出ル所ニシテ感佩ニ勝ヘス当
國ノ内争ニ関シテハ予ハ最初ヨリ平和ヲ希望シ且ツ之ヲ
唱導シツツアリタル次第ニテ其理由ハ啻ニ救國救民ノ内

部的關係ノミニ止マラス一面ニ於テハ对外関係ヲモ顧慮
シタルガ為メナリ即チ歐州ノ戰亂カ近キ将来ニ於テ終熄
セル暁ニ於テハ白人ノ勢力ハ必スヤ東洋ニ殺到シ来ルヘ
ク然ルニ現在東洋ニ國ヲ為スモノハ日支兩國ノ外ナキニ
鑑ミ我國ノ内争ハ一日モ速ニ鎮定セシメ貴國ト提携シテ
是レカ準備ヲ為スノ必要ヲ感シ居ル次第ナリ殊ニ昨今露
國单独講和ノ事アリテ我カ邊境必シモ安穩ナラサルノ

時ニ於テオヤ次ニ我國ノ動亂ハ直ニ貴國ニ波及スルハ歴
史ノ證明スル所ニシテ我國亡ヒ貴國尚ホ安泰ナルヤ否ハ
疑問ナリ近來貴國ニ於テハ一二ノ有識者ニ止マラス大多
數ノ國民又両國ノ親善ヲ望ミ居ルハ誠ニ喜ハシキ次第ニ
シテ同時ニ我國民モ近頃漸ク覺醒シ来リ遠親ハ近隣ニ如
カストノ古諺ノ通りセハ同一ナル利權ニセヨ之ヲ歐米

ト答ヘタル趣ニテ体能ク実業ノ提携ニ話頭ヲ転シ政治問題
ヲ避ケタル次第ニ有之同人ノ立場トシテハ當然斯クアルヘ
キ儀ト存シ候何等御参考迄ニ及報告候尙ホ本信中ニハ幾分
機微ニ瓦リタル本官ノ言説等モ有之儀ニ付外部ニハ御渡ラ
シ無之様致度添ヘテ申進候 敬具

本信写送付先 駐支代理公使

九四〇 二月二十七日 (リ) 斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨ
上原參謀總長宛 (電報)

馮總統ノ態度一変シ段總理ト協調的トナレル

毛他面南北妥協ヲ策スル方針ナルニ付真相相

査中ナル件

(二月二十七日接受)

一三 中国内政関係雑件 九四一

九八〇

ヲ変シ去ル二十三日段祺瑞ヲ誘致シテ從来自己カ計画セシ

三師團ノ訓練ヲ全ク段ニ委任シ參戰ノ件ハニ一段ノ裁量ニ任スル旨ヲ言明シ又參戰督弁ノ權限ヲ拡張シ之ニ閏スル事務署組織会ヲ昨日大總統教令ニテ發布セリ又同日武穴ニ於

テ政府ノ命令ニ抗セシ馮玉祥ヲ免職シ曹錕ヲシテ查弁セシムルノ大總統令ヲ発セリ

以上ノ如キ情況ナルヲ以テ北洋派首領間ノ意思ハ之ニ依リテ融和セラレ先ツ以テ同派ノ分裂ヲ見ル日無カルヘク将来團結ヲ強固ナラシムルモノト認ム然ルニ馮總統ハ一方ニ於

テ露独媾和成立シ外交ノ急迫セル情況ヲ指摘シ之ヲ利用シテ南北ノ和議ヲ成立セシメントシ昨日曹錕、張敬堯、王占元等ニ一週間ノ停戦ノ命令ヲ発セントノ説アリ若シ果シテ然ランニハ之復矛盾ノ処置ニシテ一方ニハ南方派ノ感情ヲ刺戟シ他方面ニ停戦ヲ命シテ其準備ノ機会ヲ与フルコトトナルヘシ依テ右停戦ニ閔スル命令ノ真偽ニ就キ目下取調中

九四一 三月五日 在奉天赤塚總領事ヨリ 本野外務大臣宛(電報)
李純ノ西南派トノ和平策謀牽制ノ為ノ張作霖軍ノ南下問題ニ閔スル王郅隆ノ内話報告ノ件

第七六号
在支公使発本官宛電報(極秘)

第三五号
左ノ通リ大臣ヘ転電アリタシ

第三〇一号
三月五日王郅隆カ船津ニ語ル所ニヨレハ李純ハ相變ラス和議ヲ主張シ居ルノミナラス西南各派ト連絡ヲ取り種々ノ陰謀ヲ廻ラシ時局ヲシテ益々紛糾セシムル虞アルニ付此際彼自ラ進ンテ辞職スレハ兎モ角然ラサレハ武力ヲ以テ圧迫ヲ加ヘ遂ニ彼ヲシテ辞職ノ余儀無キニ至ラシムル計画ニテ張作霖ハ約二箇師團以上ノ軍隊ヲ南下セシムルコトナリ既ニ京奉線ノ車輛九十七輛ヲ抑留シ輸送準備中ナリ差当リ徐州迄南下スルナラン

益々困難トナリタルヲ感知シタル為メニヤ両三日前ヨリ辭

馮總統モ過般張作霖ノ武器横奪事件以來大ニ狼狽シ時局ノ

益々困難トナリタルヲ感知シタル為メニヤ両三日前ヨリ辭

第七四号

(三月六日接受)

張作霖ノ本日本官ニ語レル要領左ノ通り

奉天南下軍四箇旅團ハ第一線ハ徐州ニ第二線ハ咸寧ニ第三線ハ「ドチャ」(天津ヲ去ル十五支里)ニ第四線ハ郎房ニ

分派スル計画ニテ此計画ハ一面李純ヲ牽制シ他面馮總統ノ西南討伐ノ決意ヲ促ス魂胆ナリ段派ハ別ニ馮總統ヲ退クル

意思ナク其決意ヲ促シ段派ニ接近セシメン考案ニテ馮ニシテ断然西南討伐ノ決心ヲナスニ於テハ其地位(次期ノ選挙ニ於テモ)ハ安全ナル可シ、数日來馮總統ノ使者交々来リ

瀋州出兵ノ目的ヲ問ヒタルガ皆我等ノ他意ナキヲ了解シ北京ニ引返シタルヲ以テ馮モ我等ノ他意ナキヲ了解シタル事ト信ス

過般馮總統ヨリ来リタル北滿出兵命令ハ段祺瑞ト協議ノ結果ニアラサルカ如ク奉天ノ兵ヲ北ニ向ケ斯クシテ瀋州ノ兵ヲ奉天ニ引揚ゲシメン魂胆ナリシガ如シ

吉林省ノ兵一聯、大砲四門、機関銃四門本日満洲里ニ出發スル筈ナリ到着ノ上ハ満洲里ニ在ル支那兵ハ其數約三千五百トナル可シ云々在支公使及天津總領事ヘ電報セリ

九四二 三月六日 在奉天赤塚總領事ヨリ 本野外務大臣宛(電報)
李純ノ西南派トノ和平策謀牽制ノ為ノ張作霖軍ノ南下問題ニ閔スル王郅隆ノ内話報告ノ件

第七六号
在支公使発本官宛電報(極秘)

第三五号
左ノ通リ大臣ヘ転電アリタシ

第三〇一号
三月五日王郅隆カ船津ニ語ル所ニヨレハ李純ハ相變ラス和議ヲ主張シ居ルノミナラス西南各派ト連絡ヲ取り種々ノ陰謀ヲ廻ラシ時局ヲシテ益々紛糾セシムル虞アルニ付此際彼自ラ進ンテ辞職スレハ兎モ角然ラサレハ武力ヲ以テ圧迫ヲ加ヘ遂ニ彼ヲシテ辞職ノ余儀無キニ至ラシムル計画ニテ張作霖ハ約二箇師團以上ノ軍隊ヲ南下セシムルコトナリ既ニ京奉線ノ車輛九十七輛ヲ抑留シ輸送準備中ナリ差当リ徐州迄南下スルナラン

南京ヘ電報セリ

九四三 三月六日 上齋藤在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
馮總統ノ南北和議陰謀其他ニ付曹汝霖ノ内話

一一三 中国内政関係雑件 九四二 九四三

九八一

(三月七日接受)

本職ハ本日曹汝霖ト面談ノ際露独方面ノ情況ヲ陳述シ速ニ
支那ノ内乱ヲ鎮定シ南北両派及政党等ニ区別ナク國家ノ為

対外策ニ没頭スルヲ要スル旨ヲ勧告シタル所曹モ事実其必

要ナルハ無論ナリ然ルニ實際ノ情況ハ實ニ痛心ニ堪ヘス元

來馮總統ハ南京ヨリ北京ニ移ル以前段祺瑞トノ間ニ誓約ヲ

結ヘリ其要旨ハ(一)責任内閣ヲ造ルコト(二)互ニ南方民党ト通

セサルコト(三)倪嗣冲ヲ江蘇督軍トナスコト、然ルニ馮總統

ハ就任後之ヲ実行セス屢々其所説ヲ曖昧ニシ溢りニ南方派

ニ通シ且王天縱ニ旅費ヲ給シ地方ヲ擾亂セシメ最近馮玉祥

ノ行動及陝西ノ土匪蜂起ニ就テモ何レモ總統カ閏係シタル

証拠ノ歴然タルモノアリ現ニ陝西土匪ヲ教唆煽動シタル一

人ヲ陝西、山西等督軍ノ密告ニヨリ近頃北京ニテ捕縛スル

ヤ總統府ノ重要職員ハ警察総監ニ故ナク其放免ヲ強要セリ

其外長沙兵州ノ失敗原因ニ就テモ總統自ラ之ニ関係シ今又

岳州攻撃ヲ失敗ニ終ラシメントシ某ヲ派シ上海ニテハ復辟

説ヲ伝播シ暗ニ是レ徐世昌ノ煽動ニ因ルト伝ヘシメ殆ント

時局ノ紊乱ヲ事トシ軍隊ヲ翻弄ス其目的奈辺ニアルヤ殆ン

ト了解ニ苦ムモ徐世昌及段祺瑞ノ名声カ自己以上ナルヲ妬

人ヲ陝西、山西等督軍ノ密告ニヨリ近頃北京ニテ捕縛スル

ヤ總統府ノ重要職員ハ警察総監ニ故ナク其放免ヲ強要セリ

其外長沙兵州ノ失敗原因ニ就テモ總統自ラ之ニ関係シ今又

岳州攻撃ヲ失敗ニ終ラシメントシ某ヲ派シ上海ニテハ復辟

説ヲ伝播シ暗ニ是レ徐世昌ノ煽動ニ因ルト伝ヘシメ殆ント

時局ノ紊乱ヲ事トシ軍隊ヲ翻弄ス其目的奈辺ニアルヤ殆ン

ト了解ニ苦ムモ徐世昌及段祺瑞ノ名声カ自己以上ナルヲ妬

人ヲ陝西、山西等督軍ノ密告ニヨリ近頃北京ニテ捕縛スル

ヤ總統府ノ重要職員ハ警察総監ニ故ナク其放免ヲ強要セリ

其外長沙兵州ノ失敗原因ニ就テモ總統自ラ之ニ関係シ今又

岳州攻撃ヲ失敗ニ終ラシメントシ某ヲ派シ上海ニテハ復辟

説ヲ伝播シ暗ニ是レ徐世昌ノ煽動ニ因ルト伝ヘシメ殆ント

時局ノ紊乱ヲ事トシ軍隊ヲ翻弄ス其目的奈辺ニアルヤ殆ン

ト了解ニ苦ムモ徐世昌及段祺瑞ノ名声カ自己以上ナルヲ妬

人ヲ陝西、山西等督軍ノ密告ニヨリ近頃北京ニテ捕縛スル

ヤ總統府ノ重要職員ハ警察総監ニ故ナク其放免ヲ強要セリ

ミ之ヲ排斥シテ自己ノ地位ヲ鞏固ナラシメントスルニ過キ
サルカ如シ而モ徐段首メ何人モ總統ノ地位ヲ奪ハントスル
モノナシ

九四四 三月七日

上原參謀總長宛(電報)

奉天軍ノ南下ニ付張督軍ノ説明ヲ求メタル件

天電九五号

(三月八日接受)

奉天軍隊ノ京榆鐵道沿線ニ移駐ハ北京及旅順ヨリ通報ニ依
レハ支那政府ノ命令ニアラサル如ク當地列國司令官ノ意向
モ天電九三号ノ如クナルヲ以テ早晚物議ヲ釀ス虞アルヲ以
テ取り敢ヘス奉天菊地大佐宛左ノ電報ヲ發シ張督軍ヨリ説
明ヲ求ムルコトセリ

京榆間交通線ノ保持及此間貴國軍隊並ニ列國軍隊ノ權限
ニ就テハ一九〇一年ノ議定書及外交文書ニ明示シアルヲ
以テ勿論御承知ノ事ト信ス然ルニ該線ノ保持ニ任スル列
國軍憲ニ対シ何等ノ通告ナクシテ過日來多數ノ貴省軍隊
カ京榆沿線ニ移駐スルハ右議定書及外交公文書ノ規定ヲ
無視シ列國軍憲ノ權限ヲ侵犯スルモノト認メラル世上伝
フル所ニ依レハ右ノ行動ハ政府ノ命令ニ依ラサルモノノ

九四六 三月七日

石光天津軍司令官(電報)

英仏軍司令官ハ張作霖軍ノ京奉線上駐屯ヲ不

都合トスル意見ナル旨報告ノ件

天電九三号

(三月七日接受)

奉天軍隊ノ移駐ニ就キ仏國司令官ハ無断ニテ京奉線上ニ駐
屯スルハ不都合ナルヲ以テ既ニ八日前ニ北京仏國公使ニ宛
テ支那政府ニ警告スルコトヲ電報セリ又更ニ塘沽附近ニ增
派スル說アルヲ以テ同地ニ約一〇〇名ノ守備兵ヲ出シ万
ニ備フル準備ヲ為セリ今後ノ形勢ニ依リテハ更ニ警告ヲ与
フル必要アルヘシト、英國司令官ハ奉天軍ノ鐵道守備線内
ニ駐屯スルハ其目的如何ヲ問ハス穩當ナラサレハ此際撤退
セシムルヲ必要トス故ニ先任ノ石光少將ノ名ヲ以テ警告ヲ
与フルヲ可トスト述ヘタリ米國司令官ハ著任日淺キト奉天
軍ノ行動ヲ詳ニセサルヲ以テ自ラ意見ヲ述ヘストモ他ノ司
令官ノ意見ニ反対スルノ傾向ナシ

九四七 三月七日

上原參謀總長宛(電報)

奉天軍ノ閔内進出ニ賛成ノ各督軍通電ニ閱ス

支極秘第一三二号

(三月八日接受)

大倉組河野商用ニテ奉天ニ至リ本日帰来ス其談ニヨレハ張

作霖、徐樹錚等ニ面会シ情況ヲ聽取シタル處今回奉天軍ノ行動ニ關シ曹錕、王占元以下各省督軍（李純、陳光遠ヲ除ク）各都統護軍使竜濟光等ヨリ大賛成ノ電報ヲ寄セ又代表者ヲ派遣シ北洋派ノ團結ヲ鞏固ニシ支那ノ統一ヲ図ルニハ

此外ニ最適當ナル策ナシト申込ミ張文生等モ贊同ノ電報ヲ寄セタリト而シテ奉天ヨリ始メ全部ヲ終ルニハ約二週間ヲ要スト其輸送ハ五日夕ヨリ始メ全部ヲ終ルニハ約二週間ヲ要スト其派遣先ハ徐州独流鎮、郎房等ナルカ如シ

(各地済)

九四八 三月七日 在中国芳沢臨時代理公使（ヨリ）本野外務大臣宛

和蘭公使館ニ收容中ノ張勲ノ動靜ニ關シ報告

ノ件

秘密第八七号

大正七年三月七日

在支那

九四九 三月七日 在北京坂西陸軍少將（ヨリ）上原參謀總長宛（電報）

張作霖ノ行動及中國分裂ノ狀況ニ關シ王士珍

ノ青木中將ニ對スル談話報告ノ件

(三月十一日接受)

本日王士珍ガ青木中將ニ左ノ如ク語レリ

今回張作霖ノ暴動ハ徐樹錚ノ煽動ニ出テシモノニシテ天津督軍會議ノ議決ヲ主トシ武力ヲ以テ大總統ニ迫リ李純ノ免職ト段内閣ノ復興ヲ求メントスルモノナリ、彼レ督軍如何ニ暴ナリトモ大總統ノ更迭ヲ迫ル迄ニハ至ラサルヘシ先日本ヨリ購入ノ兵器強奪ハ大總統一派カ之ニ依リ其直屬軍隊ヲ編成スルノ意図アリシヲ知リ之ヲ妨ケ自己ノ首領タル

第三二八号

モ計リ難シト述ヘ暗ニ復辟又ハ支那分裂ノ避クヘカラサルヲ示スカ如ク見受ケラレタリ

九五〇 三月八日 在中国芳沢臨時代理公使（ヨリ）本野外務大臣宛（電報）

李純ノ交迭馮總統ノ圧迫ヲ策スル北方派將領ノ動向ハ暫ク觀望スル方得策ナル旨具申ノ件

第三二九号

往電第三〇一号ニ關シ河野久太郎數日前奉天ニ行キ七日当地ニ帰着シ其ノ内話スル所ニ拠レハ同人ハ奉天ニ於テ徐樹錚、張作霖及其ノ他ノ向ニモ會見シタルカ同地ニハ河南、四川、山西、黑龍江、浙江等ノ各督軍及張文生等ノ各代表者集合シ居リ王占元ヲ始メ其ノ他ヨリ今回ノ挙事ニハ主トシテ李純ノ交迭ヲ目的トスルモノニテ馮總統ニ付テハ馮自ラ辭職スレハ格別進シテ辭職セシムルカ如キコトナカルヘキ模様ニテ李純ニ付テモ愈々軍隊ノ配置ヲ終ルニ於テハ李純自ラ辭職スルニ至ルヘシト観測セラルトノコトナリ元來本件ニ付テハ先般貴電第九八号ヲ以テ御訓示ノ次第アリタル處右ハ徐樹錚等ノ計画カ馮總統ト王總理ノ交迭ヲ目的トスルモノニテ其ノ結果延イテ北京ノ政界ヲ動搖セシ

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

張勲ノ動靜ニ關スル件

臨時代理公使 芳沢謙吉（印）

和蘭公使館ニ收容中ノ張勲ハ近來漸ク其警戒緩和セラレタルニ乘シ秘カニ旧幕僚ト往復シツツアルヤノ風聞モ有之候ニ付三月六日本官和蘭公使ニ會見ノ序ヲ以テ同人昨今ノ動靜ニ就キ質問シタル處同公使ノ語ル處ニ拠レハ本人ハ近來史書ヲ耽読シ妾兒ト共ニ極メテ穩カナル生活ヲ嘗ミ居其使用人カ公使館区域外ト往復スルコトアルヘキモ本人カ旧幕僚ト會見スル如キハ全然無之トノ事ニ有之候尤モ御承知ノ通リ同公使ハ独壇側ト關係ヲ有スルカ如ク世間ヨリ疑ハレ且張勲ニ対シ頗ル同情ヲ有スル人物ニモ有之旁々同公使ノ所言ハ或ハ信ヲ措キ難キカト存候得共御参考迄ニ右不取敢及報告候也

メ不測ノ変ヲ起サン事ヲ御憂慮相成リタルモノト想像セラル処其後今日ニ至ル迄本件計画ノ変遷ヲ通観スルニ最初ハ主トシテ總統ト總理ヲ目的トシタルモ王總理ノ隠退ヨリ続テ馮總統ノ讓歩トナリタル為茲ニ其目的ヲ變シテ李純ヲ交迭セシメントスルニ至リタルモノト見受ケラル専處果シテ右ノ通リトセハ勿論馮總統ヲ始メ中央政界ニ多少不安ヲ与ヘ或ハ場合ニ依リ微細ナル波瀾ヲ起シ来ラザルヲ保シ難キモ大体ニ於テ中央ハ平穏ニ治マル可クト想像セラルノミナラス強テ段祺瑞馮國璋等ニ対シ勧告ガマシキ措置ニ出ツルモ別段ノ効果アル可シトモ見受ケラレサルニ付中央政界ニシテ多大ノ動搖ヲ來ササル限り此儘観望スル事ト致シ度ク支那ノ国民性トシテ陰謀党事ノ絶ユル事ナキハ今更本官ヨリ申上クル迄モ無之仮令我方ヨリノ勧告ニヨリ一時表面的平穏ヲ装フ事アルモ裏面ノ軋轢ヲ鎮定スル事ハ到底望ミ難キ處ニ有之今後張作霖、徐樹錚等ノ計画カ果シテ成功スル場合ニ於テモ支那全部ノ統一ハ先ツ以テ不可能ナル可ク我方ニ於テ非常ナル決心ヲ以テ調停若クハ干渉ヲ試ムニアラサレハ一片ノ勧告位ニテハ別段ノ効果モナカル可ク支那ノ政界ハ今後尚多年ニ互リ争乱絶ユル事ナキモノト認

九五一 三月八日 在北京坂西陸軍少將ヨリ

上原參謀總長宛(電報)

馮總統ノ辭意風示ニ関連スル政局ニ付陸宗輿

内話ノ件

坂極秘第百十号

昨今ノ時局ニ閑シ本日陸宗輿ノ言左ノ如シ

馮總統辭意ヲ仄カセルハ徐樹錚ヲ黒幕トスル張作霖ノ李純免職段内閣復活ヲ標榜スル脅迫運動ニ起因シ馮ハ北京ニ来ル際段ト倪ニ誓ヒタル三件ノ一ヲモ今日迄实行セス而シテ馮ハ李純トモ何等カノ密約アルヘキヲ以テ今邊ニ張作霖ノ言ヲ用ヒテ倪トノ約束ヲ履行スルコト能ハサル窮境ニ陥リ自ラ其責任ヲ負ハサル為辭意ヲ仄カシ既ニ其通電ヲ起草セシメタルナルベシ而モ今日ニ於テハ馮總統退職後現在約法上之ヲ繼承スルモノナク会々各省督軍等ノ決議ニ依リ徐ヤ段ヲ推選シタリトスルモノハ全ク革命的行為ニシテ茲ニ新ニ列国ノ承認ヲ経サルヘカラス徐、段共ニ等シクスル行動ニ依リテ頭位ヲ占ムルモ其運命ノ長カラサルヲ諒知シアルヘク馮ハ寧ロ此意中ヲ察シテ故意ニ辞意ヲ仄シ居ルモノト察セラル

メ不測ノ変ヲ起サン事ヲ御憂慮相成リタルモノト想像セラル処其後今日ニ至ル迄本件計画ノ変遷ヲ通観スルニ最初ハ主トシテ總統ト總理ヲ目的トシタルモ王總理ノ隠退ヨリ続テ馮總統ノ讓歩トナリタル為茲ニ其目的ヲ變シテ李純ヲ交迭セシメントスルニ至リタルモノト見受ケラル専處果シテ右ノ通リトセハ勿論馮總統ヲ始メ中央政界ニ多少不安ヲ与ヘ或ハ場合ニ依リ微細ナル波瀾ヲ起シ来ラザルヲ保シ難キモ大体ニ於テ中央ハ平穏ニ治マル可クト想像セラルノミナラス強テ段祺瑞馮國璋等ニ対シ勧告ガマシキ措置ニ出ツルモ別段ノ効果アル可シトモ見受ケラレサルニ付中央政界ニシテ多大ノ動搖ヲ來ササル限り此儘観望スル事ト致シ度ク支那ノ国民性トシテ陰謀党事ノ絶ユル事ナキハ今更本官ヨリ申上クル迄モ無之仮令我方ヨリノ勧告ニヨリ一時表面的平穏ヲ装フ事アルモ裏面ノ軋轢ヲ鎮定スル事ハ到底望ミ難キ處ニ有之今後張作霖、徐樹錚等ノ計画カ果シテ成功スル場合ニ於テモ支那全部ノ統一ハ先ツ以テ不可能ナル可ク我方ニ於テ非常ナル決心ヲ以テ調停若クハ干渉ヲ試ムニアラサレハ一片ノ勧告位ニテハ別段ノ効果モナカル可ク支那ノ政界ハ今後尚多年ニ互リ争乱絶ユル事ナキモノト認

奉天軍移動狀況ニ関シ報告ノ件

(三月九日接受)

天電九八号 昨七日奉天方面ヨリ輸送セラレタル兵力ハ概要歩兵約二營、騎兵一營、山砲兵二連、輜重兵一連ニシテ五列軍ニ分乗シ其内騎兵全部ハ二列軍ニテ郎房ニ赴キ歩兵約一營ト特科兵ハ二列軍ニテ独流鎮ニ至リ歩兵約一營ノ一列軍ハ軍糧城(天津ノ東方)ニ駐屯セリ又灤州ニアリシ部隊ハ約一小隊ヲ残シ他ハ全部二列軍ニテ独流鎮ニ向ヘリ

右輸送部隊ノ最後列車ハ今朝七時天津ヲ通過セリ又奉天軍ハ昨日午後秦皇島ニ歩兵一連(百余名)ヲ下車駐屯セシメタリ

(各地済)

メラルニ付帝国トシテハ進デ積極的ニ仲裁又ハ干渉ヲ試ムニアラサレハ微々タル小策ヲ弄スル事ヲ避ケ右争乱ノ間ニ處シテ専ラ我ガ利益ヲ伸張シ我地歩ヲ固ムル事ヲ努ムル事最得策ナリト思考ス御参考迄ニ

九五二 三月八日 石光天津軍司令官ヨリ

上原參謀總長宛(電報)

奉天軍移動狀況ニ関シ報告ノ件

(三月九日接受)

要スルニ段祺瑞、靳雲鵬初メ國務總長ノ大部カ今直ニ馮ヲ排斥スルヲ躊躇トスルハ法律上馮總統退位後ノ処置困難ニシテ却テ徐ト段ヲシテ列國ノ信用ヲ失ハシムル結果トナルヘキヲ憂慮シソシアルニ相違ナキモ敢テ自ラ進ンテ張作霖ノ行動牽束スルコトナキハ畢竟馮總統ヲシテ現位ニ置キツツ李純ヲ免職シ責任内閣ヲ確立スルコトヲ贊成スルカ為ニ外ナラス依テ今日ノ時局ヲ比較的の穩便ニ解決センニハ李純免職ヲ先決問題トシ倪ヲシテ江蘇督軍タラシメ段祺瑞ヲシテ内閣ヲ復活セシムル如キハ却テ反対者ヲ刺激シ紛擾ヲ増スノ嫌アルヲ知ツテ李純カ徐世昌ノ門下生タルヲ幸彼ヲテ一面馮ニ説キ一面李ヲ諭シテ其危機ヲ退カシメ李カ表面上唱フル如ク在上海盧永祥ヲシテ其後任者タラシムルヲ便法ナリトシ陸ハ今明日中ニ徐ニ会シテ右ノ意見ヲ述ヘ彼ノ元老的位置ヨリ其解決ヲ促進セシムル筈ナリ云云

九五三 三月八日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

奉天軍ノ行動ハ日本モ関係アルヤノ風説アル
ニ付帰任ノ途次張作霖ト会見セラレザル様林

第三一九号 林公使へ左ノ通御伝達ヲ乞フ

奉天督軍今回ノ挙事ニ対スル主要目的ハ内閣ノ改造（段内閣ノ組織ヲ意味ス）李純ノ免職及ヒ或ル程度迄南方討伐ヲ遂行スルコト等ニアル趣ノ処（段祺瑞徐世昌等ハ默認ヲ与ヘ居ルモノ如シ）軍器横奪以来今回ノ挙事ニ關聯シ世上種々ノ批難謡言アリテ一部ノ支那人中ニハ日本モ何等関係アルニアラサルヤヲ疑ヒ居ルヤニ見受ケラル節モアリ旁々此際出来得ル限り無益ノ臆説流言ヲ散布セシメサル為メ閣下御帰任ノ途次奉天ニ御立寄相成ルモ張督軍ニ御会見無之方可然カト存ス勿論其辯御如才ナキ事ナガラ心付キノ儘為念申上グ

九五四 三月八日 在上海有吉總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

張作霖ノ出兵、日本ノ援段方針ニ關スル等春
煊ノ談話報告ノ件

第四一号 （三月九日接受）
昨七日岑春煊ニ面談セル所彼ハ時局益々非ニシテ岳州方面ニテハ更ニ開戦セル旨ノ報道モアリ前途憂慮ニ堪エストナ

ハ政府カ從来ノ如ク飽迄段援助ノ方針ニ出テントスルモノナラサルヤヲ氣遣ヒタルニ付本官ハ我政府カ段個人ヲ援助スルカ如キ意志ノ初メヨリ之レ有ラサル次第ヲ例ニ依リ披陳シ特ニ徐樹錚カ其陰謀ヲ公使館ニ予告セリトノ説ニ対シテハ右ノ如キコトノアリ得ヘカラサル次第ヲ説明シ置キタリ岑ノ語ル処ニ拠レハ唐紹儀ハ本日当地着兩三日滯在彼トモ打合セノ上日本ニ赴ク筈ニテ其重ナル使命ハ南方ノ状況ト真意ヲ朝野ニ説明スルニアリトセリ

北京へ電報セリ

九五五 三月八日 在天津松平總領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

奉天軍ノ行動ニ關シ報告ノ件

（三月九日接受）

第二二号 往電第二〇號ニ閔シ

奉天軍隊ハ三月七日ヨリ八日ニ亘リ六回ノ臨時軍用列車ニテ当地ヲ通過シタルカ其兵數行先キ左ノ如シ

第二十七師騎兵四百二十余名、馬匹四百二十余頭ハ郎房ヘ（往電第二二号ノ分ヲ含ム）第二十七師歩兵約三千、砲兵一聯、機関銃隊一聯、輜重兵二聯、工兵二聯、山砲八門、

二三 中国内政関係雑件 九五五 九五六

シ事ノ斯ノ如クナルニ至リタルモノ日本ヨリノ軍器供給等其因ヲナセルヤ否ヤ疑フヘキ余地アリ右ハ南方討伐用ニ供セラレサル旨ノ条件ヲ附サレタリトノコトナルモ最近張作霖等ノ行動ニ見テ其事実ニ行ハレサルハ愈々明白トナリ独リ南方ニ禍スルノミナラス今ヤ北方ヲモ擾乱シ当初徐樹錚カ日本公使館ニ内報セリト聞ク彼等ノ陰謀ハ武器到着ト共ニ着々実現セラレツツアリ王総理既ニ倒レテ馮総統ノ地位今ヤ將ニ危カラントス軍器ノ供給カ段及其一派ニノミ氣勢ヲ添ヘ而カモ彼等カ今次支那擾亂ノ禍因タルニ於テ南方ノミニ限ラス広ク一般人民カ日本政策ニ対シテ遺憾ナキ能ハサルモ亦宜ナラスヤト慨シ調停ニ依リ時局ヲ平和ニ解決センコトハ南方ノ終始誠意ヲ以テ希望スル所ナルニ拘ラス今尚之レカ実現ヲ見サルモノニニ北方即チ主トシテ段一派カ自己ノ権勢ノ為メニ之ヲ妨クル結果ニ外ナラス日本政府ニシテ隣邦ノ為メ東洋和平ノ為メニ考量セラルニ於テハ旧国会ノ恢復ヲ条件トシテノ調停ニ尽力セラレンコト今尚ホ希望ニ堪ヘス禍首討伐ノ如キハ今更強テ主張スル處ニアラサルモ段祺瑞ノミハ将来ノ禍因ヲ除ク為メ飽迄之ヲ排斥セサルヘカラスト極言シ尚ホ頻リニ林公使ノ帰任ニ注意シ右地ニ移駐シタリ

在支公使及奉天濟南へ電報セリ
註 前掲三九六文書

九五六 三月十日 石光天津軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

奉天軍ノ京奉沿線ヨリノ撤退ニ關シ現地軍ノ交渉経過報告ノ件

（三月十一日接受）

天電第二〇四号

菊池大佐今朝來津會見シタルニ張作霖ハ軍隊ヲ京奉沿線ニ出兵スルニハ北清事變ニ関スル議定書ノ趣旨ヲ知ラサルニアラサリシモ既ニ軍隊派遣ニ関シ列國駐屯軍トハ北京ヨリ云ヒ居レリ又菊池ハ今回ノ張作霖陰謀事件カ单ニ徐樹錚一派ニ煽動セラレタルモノカ將タ段派全体ト北方派主ナル督

軍ト連絡シテ画策セラレタルモノナルヤ疑問ノ点アリ張作霖ハ少クトモ段派全体及現政府一部ノモノモ加担シ居ルモノト信シアルカ如シ其辺ノ真否ヲ確メ且ツ善後処置ヲ協議セル為今夕北京ニ赴カントス

本職ハ其陰謀計画カ奈辺ニアルトモ又張督軍カ如何ニ見解シアルトモ斎藤少将ヨリハ何等ノ通告モ無キニマラス駐屯軍ノ任務上条約ヲ無視シタル奉天軍隊ノ鉄道沿線ニ駐屯スルコト及ヒ今日直ニ撤退スルトシテモ今回マテノ行動タル全ク駐屯軍ノ面目ヲ蹂躪シタル処置ニ就テハ默認スルヲ得サル旨ヲ宣明シ置ケリ之レニ対シ菊池ハ奉天軍ノ目的ノ推察セラル故其レ迄撤退ヲ猶予セラレンコトヲ個人トシテ希望セルモ本職ハ列国司令官ノ意嚮モアルコトナレハ直ニ快諾シ能ハサル旨ヲ述ヘ置ケリ

九五七

三月十日 上石光天津軍司令官ヨリ

奉天軍ノ京奉線上駐屯ニ関連シ奉天北京間軍

用電話線架設実行ニ付請訓ノ件

天電第一〇五号 (三月十一日接受)

九五八 三月十日 上原參謀總長宛(電報)

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢代理公使宛(電報)

馮總統辭職通電ニ關スル政情ノ真相内探方訓

ノ誤解アリテ酌量スヘキ点ナキニアラサルモ軍隊ヲ無断ニ派遣シテ自由行動ヲ取レル奉天督軍ハ条約ヲ無視シ鉄道守備ニ任スル駐屯軍ノ權威ヲ蹂躪シタルノ責ヲ免カルル能ハサル所ナリ故ニ本職ハ斯ク奉天軍ニ脅威セラルハ畢竟奉天省トノ通信設備不備ナル為ナリトノ理由ヲ以テ山海関奉天間ニ軍用電線ヲ設置シ自衛ノ途ヲ講スルコトヲ張督軍ニ通告シ之ヲ実施スルノ企図ヲ有ス但シ此行為ハ張督軍カ自由ニ軍隊ヲ出動シテ駐屯軍ヲ侮辱シタルカ為ニシテ之レカ

為ニ奉天軍ノ注文ヲ承認ス蓋シ奉天軍ハ北京政府ノ命ニ依リ出動シタルニアラサレハ張督軍ニ交渉スルモ差支ナク特ニ今日支那ノ現状殆ンド無政府狀態ニアルカ故ニ之レカ為メニ外交上ノ問題ヲ惹起セシメサルヘシト信ス又電線架設ノ件ハ閏東都督府ニテモ予テ其口実ト機会ヲ得度ク希望セル様子ナレハ此際之レカ目的ヲ達セんニハ好機会カト思考ス御意図承知シタシ

第一四九号 令ノ件
新聞電報ニ依レハ馮總統ハ七日夜各省督軍ニ対シ遂ニ辞職ノ通電ヲ発シ又徐樹錚、張作霖、倪嗣冲等ハ又々李純ノミナラス馮總統ヲモ退職セシメ徐世昌ヲ推出シ段派ヲ中心トル新内閣ヲ組織セントスルノ武力的運動ヲ開始シ北京ハ為ニ動搖ヲ來セル趣ノ処右最近ノ真情御内探ノ上結果至急電報アリタシ
右為参考奉天上海天津南京ニ転電シ右各地ニ於テ聞込ノ事実當方竝貴館ヘ電報セシメラレ度シ

九五九 三月十一日 本野外務大臣ヨリ
在奉天赤塚総領事宛(電報)

内紛ヲ避クル様船津書記官ヲシテ徐樹錚ニ内密勧告セシムル様訓令ノ件

第三八号

左ノ通北京ヘ転電アリタシ

第一五二号

徐樹錚一派ノ陰謀ニ閔シテハ貴官竝坂西少将等ヨリ各方面ニ対シ措置ヲ執ラレタル結果一ト先ツ政変ノ起ルカ如キ懸

九六〇 三月十二日 斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
奉天軍南下ニ関連スル諸問題ニ付倪嗣冲及張作霖ノ表示シタル意見ニ關シ報告ノ件

一三 中国内政関係雑件 九五九 九六〇

九九一 (三月十三日接受)

本月上旬王克敏ト共ニ蚌埠ニ倪嗣冲ヲ訪ヒ次テ奉天ニ至リ今朝帰来セル王郅隆ノ談

王克敏ト共ニ倪嗣冲ニ面会セシ際王克敏ヨリ倪ニ張作霖出兵ノ件ニ就キ承知シアリヤト問ヒタルニ倪ハ右ハ自分ヨリ出兵援助ヲ要求シタルモノナリ予ノ理由ハ李純ハ馮玉祥ヲ武穴ニ駐メ張文生ト相応シテ予ヲ駆逐セントススクテハ自此対抗ノ態度ニ出テサルヲ得サルヲ以テナリト答ヘタリ王克敏ハ更ニ善後策ニ就キ問ヒタルニ倪ハ、一、速カニ李純ヲ免職シ南京ヲ去ラシムルコト、二、總統既ニ討伐令ヲ下シ督軍ノ多クハ又主戦ヲ主張スルニ拘ハラス王士珍ハ妥協ヲ主張スステハ將卒戦ハントスルモ能ハス依ツテ王総理ヲ免職スルコト、三、馮総統ノ地位ハ擁護スヘシト答ヘタリ、王克敏ハ倪ト連名ニテ張作霖ノ意向ヲ電問セシニ張ノ返電ハ鞏固ナル責任内閣ノ組織ヲ要求スル外李純ノ处分及郎房ニ軍隊ヲ派遣シタル件ニ就キテハ更ニ言及スル処ナシ是ニ於テ王克敏ハ北京ニ帰リ王郅隆ニ依嘱スルニ奉天ニ到リ張ノ意向ヲ問フヘキヲ以テセリ王郅隆ハ張作霖ニ面会シ其意向ヲ糺シタルニ張ハ予ハ段内閣ノ組織ヲ希望ス内閣鞏固ナレハ李純ノ免職ハ容易ナリ郎房ニ軍隊ヲ派遣セシハ元

曹錕力出兵援助要求ニ依ル予ハ京漢線ニ依リテ湖北ニ軍隊ヲ派遣スル為先ヅ豊台ニ一旅、郎房軍糧城ニ一ヶ旅ヲ張懷芝援助ノ為南方徐州及韓庄ニ各一旅ヲ派遣セントス然レドモ予カ直接總統ニ總理更迭ヲ要求スルハ督軍トシテ穩當ナラサルヲ以テ曹錕、張懷芝ト協議シ曹、張ヨリ總統ニ專ラ徐世昌ノ意嚮ニヨリ後任總理ヲ決定セシコトヲ要求セシムヘク既ニ協議済ナリ、津浦及京漢鉄道沿線ニ派遣セル軍隊統率ノ為メ總司令部ヲ軍糧城ニ置キ予自ラ總司令ニ徐樹錚ハ副司令ニ当ル管但シ軍隊ニハ嚴命ヲ下シ秋毫モ犯スコトナキハ予ノ保証スル処ナリ、馮総統ハ数回ノ電報ヲ送リ予ノ行動ヲ非常ニ賞揚シ何事ニテモ許容スヘシト云ヘルモ予ハ斯ノ如キ術策ヲ好マズ予ハ總統ノ地位ヲ動カサントスルノ意思ナシト述ヘタル由

**九六一 三月十二日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛（電報）**

李純免職ハ不可ナル旨及段ノ總理復活見込ナ

キ旨馮總統談話ノ件

坂極秘電第百十六号
(三月十三日接受)

本日大總統ニ会見ス其時局觀察左ノ如シ

岳州ニ對スル總攻撃八十日ヨリ開始セラレアルモ各方面トモ小衝突ノミ形勢ハ一般ニ北軍ニ有利ナリ岳州ヲ陥落スレハ何トカ茲ニ時局解決ノ端緒ヲ得ヘシト語リタルモ而カモ

確信アルモノト見ヘス又李純免職問題ニ就テ意見ヲ求メタルニ李純ハ張作霖ニ比スレハ遙カニ可ナリ第一張ノ如キモ

ノハ李ノ進退ヲ云々スル資格ナキニアラスヤトテ意氣軒昂張ノ要求如キニ耳ヲ傾クル氣色ナキノミナラス張作霖今回ノ行動ハ全ク段一派ノ陰謀ナリトテ頗ル憤慨シ小官ニ向ヒ

徐樹錚ヲ罵倒シ段祺瑞段芝貴ニ対スル不平ヲ漏セリ又日本大總統近侍ノ一軍事弁事員カ士肥原ニ語ル所ニヨレハ張作霖ノ要求ハ結局李純陳光遠等ノ免職ト責任内閣確立トノ二者ナルカ大總統ハ之ニ対シ李純ノ進退ハ全ク中央權限ナリ李純若シ張作霖ノ免職ヲ要求シ來レハ如何ニスヘキソ予ハ仮令其ノ職ヲ賭スルモ張等ノ要求ヲ聽ク能ハス但シ内閣問題ハ王士珍カ無期限休暇ナル故今日之ヲ改造シ合法的ノモノタラシムルハ必要ニシテ何等カ適良ノ方策ヲ講セサルヘカラスト決心シ段ノ復活ヲ試ミントスルモ段ハ已ニ昨日時局ニ関シ長電ノ通電ヲ發シ且ツ断シテ此際總理ニ復セサル旨ヲ宣言セル由ニテ總理ノ選択ニハ實際一大困難ヲ感シツ

右北京ニ転電アリタシ

**九六二 三月十三日 在奉天外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛（電報）**

張作霖ニ對シ内紛回避申入方訓令ノ件

第四一号

往電第三八号徐樹錚ニ對スル勸告ノ件ハ北京ニ於テ段祺瑞又ハ徐樹錚ニ申入レンムル咎ナルモ尚貴官ヨリモ張作霖ニ對シ同様ノ趣旨ヲ申入レ角立タサル様内密ニ其注意ヲ促シ置カレタシ

シ

**九六三 三月十三日 在奉天菊池陸軍大佐ヨリ
上原參謀總長宛（電報）**

内閣ノ新組織ニ關シ徐樹錚ノ意見報告ノ件

今十三日徐樹錚ト面談シタル處ニ依レハ彼カ意中ハ左ノ如

シ
一、直隸ニ進メタル軍ハ何處迄モ南伐軍ノ名ヲ以テシ張督軍自ラ之レカ總司令トナリ徐樹錚副司令トシテ実地ニ活動シ柔カニ馮大總統脅威ノ歩ヲ進メ徐世昌ト相談シテ可

成速ニ堅実ナル責任内閣ヲ組織スヘキヲ具申シ自然ニ段
祺瑞ヲ總理タラシメントス

二、直ニ李純ヲ圧迫スルコトハ督軍等ノ謗ヲ受クルニヨリ
内閣組織ノ上其命令ニ拠ラントス

三、林公使ニ面会シ同時若クハ其後直チニ天津ニ赴キ駐屯
軍司令官ニハ自ラ行キテ懇談スル處アラントス

都督府、天津軍司令官、斎藤少将濟

九六四 三月十三日 在北京坂西陸軍少將ヨリ

上原參謀總長宛（電報）

責任内閣ノ組織ニ依ル内紛解決ト張作霖ノ意
向ニ閔スル曹汝霖ノ内話報告ノ件

坂極秘電第一一七号

（三月十四日接受）

貴電第一七号啓承、本日曹汝霖ニ會見シ親シク最近政局ノ
現況ニ付糾シタルニ曹曰ク張作霖ノ主張ハ必シモ李純、
陳光遠等ノ免職ヲ要求セサルモ李ハ主和派ニシテ大總統力
明白ニ討伐令ヲ下シタル後モ依然妥協ヲ主張シアリテ吾人
ノ主義遂行ニ妨害アルモノト認ム依テ彼等ヲ一時現位置ヨ
リ避ケシムルノ要アリ平定後更ニ復任セシムルモ可ナリ
唯現下ノ如キ中央政府組織曖昧ナルハ不可ナリ故ニ此際鞏

九六五 三月十四日 在南京高尾領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

奉天軍ノ行動ニ対スル溫世珍ノ強硬ナル反対
並日本ノ張支援ノ風説ニ対スル対策ニ閔シ請
訓ノ件

第三六号

（三月十五日接受）

三月十四日督軍署顧問溫世珍本官ヲ來訪シ張作霖軍隊ノ行
動ハ愈々其歩ヲ進メ現ニ兩三日前濁流鎮ニ駐屯シツ、アル
同軍ヨリ使者ヲ徐州鎮守使張文生ノ許ニ遣ハシ近ク張軍ヲ
同地ニ進ムヘキ旨ヲ以テシ鎮守使ハ之ヲ拒絶セルモ何時如
何ナル態度ニ出テ來ルヤモ測リ難キニ依リ李純ハ昨日自己
ノ管轄ニ属スル江蘇省内全部ノ軍隊指揮官ヲ当地ニ召集シ
テ會議ヲ開キ余ハ飽迄馮大總統ヲ擁護シ江蘇ノ治安ヲ保ツ
ヲ以テ本旨トスヘク此目的ニ反スル者ハ之ヲ天下ノ公敵ト
看做シ断シテ仮借セス從テ余ハ大總統ノ命ニ依リ督軍ヲ免
セラル場合ヲ除ク外求メテ現職ヲ辞スルカ如キ愚ヲ為サ
ス昨今中央ノ状態ハ極メテ険惡ニシテ加フルニ張作霖ノ軍
隊ハ任意ノ行動ニ出テ甚タシキニ至リテハ當方面迄モ侵ス
ヘシト伝ヘラル其何ノ故タルヲ解スヘカラサルモ万一同軍

固有力ナル責任内閣ノ実ヲ挙クルコト絶対ニ必要ナリト云
フニアリ而シテ大總統ハ最近張ニ対シ今般ノ行為ハ決シテ
貴下ノ真意ニアラス多分他人ノ傀儡トナリタルニ過キサル
可シ鞏固有力ナル内閣組織ノ必要ナルコトハ予モ亦同感ナ
リ但シ其人選ニ苦ミシツアリテ貴感ヲ問フトノ電報ヲ發シ
タルニ張ハ徐世昌、段祺瑞何レカ一人ヲ以テ組織セシムル
ヲ要ス但シ徐、段共ニ自ラ謙讓シ出馬セサルヘキヲ慮リ各
省ニ通電シ其同意ヲ求メ輿論ヲ喚起シテ此目的ヲ達セント
ストノ返電ヲ寄セタリ又張ハ大總統ノ使者トシテ奉天ニ到
レル王郅隆ニ対シ予ハ大總統カ予ノ要求ヲ容レサル限り断
シテ郎坊ノ兵ヲ撤セサルヘシ予ハ馬賊ノ出身ナルヲ以テ万
已ムヲ得サレハ予カ本領ヲ發揮シ非常手段ニ出ツルコト無
キヲ保セスト語レリト因テ小官ハ此際裏面ニ如何ナル主張
アルニモセヨ張等ヲシテ中央ヲ騒擾セシムルカ如キコトア
ランカ反ツテ徐、段ノ信用ヲ失シ将来ノ行動ヲ掣肘スルノ
ミナラス外交緊急ナル時ニ於テ大事ヲ誤リ由々シキ事端ヲ
生スルノ恐アルヲ以テ慎マサル可カラス要ハ此際虚心坦懐
以テ専ラ馮、段両派ノ一致ヲ策シテ國家ノ危急ヲ救フニア
リト戒メ置キタリ

一三 中国内政関係雑件 九六六

モノアリ果シテ当レリヤ否ヤハ素ヨリ知リ難キモ日本ノ勧

告ニ依リ彼レノ行動ヲ遮リ得ヘキ事丈ハ疑ヲ容レス次ニ南

北ノ紛争ニ就テハ唐紹儀本日発ノ汽船ニテ上海ヨリ日本ニ

赴キ篤ト南方ノ実情ヲ貴国朝野ノ士ニ説明スル筈ナレハ公

平ナル見地ニ依リ此上トモ時局ノ收拾ニ援助ヲ与ヘラレタ

ク復辟ノ如キハ今日到底行ハレ得ルモノニアラストノ旨ヲ

反覆申述ヘ其口吻ニ依リテ察スルニ張作霖軍隊ノ行動ハ復

辟ヲ是ナリトスル日本側ノ使嗾ニ出テタルモノト解シ居ル

モノノ如ク時局甚タ好マシカラスト認メタルヲ以テ試ミ

ニ李純ニ於テモ同様ノ感想ヲ抱キ居ルヤト問ヒタルニ温ハ

然リト答ヘ結局本日ノ來訪ハ特ニ李純ノ内意ヲ受ケ張作霖

ヘノ勧告方ト唐紹儀ノ用向説明ノ為メト了解致シタルヲ以

テ張作霖ノ件ニ付テハ断シテ日本ノ閥知セサル処ナルヘキ

旨一応反駁シ置キタルモ今日ノ場合李純等ヲシテ斯カル誤

解ヲ出サシメ置クコトハ何レノ途好マシカラスト存スルニ

依リ本件ニ閥シテハ勿論他ニ何等御意ノ次第等モ有之ニ於

テハ本官直接李純へ申入ルヘキニ依リ何分ノ義御電訓ヲ請

フ

在支公使ニ転電シ上海ヘ郵報セリ

九九六

九六六 三月十五日

在中國芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

財政総長ニ対シ内紛收拾方説示ノ模様報告ノ件

第三五五号

(三月十五日接受)

往電第三五四号ニ關シ十四日財政總長ニ会見ノ序ヲ以テ支

那内政ノ紛糾ニ付テハ帝国政府ハ多大ノ懸念ヲ有シ現下ニ

於ケル不安定ノ状態カ曳イテ大總統ノ辞職ヨリ続イテ中央

政府ノ混亂ヲ來スカ如キハ帝国政府ノ最モ憂慮スル所ナル

旨説示シタル處總長ハ時局ハ然迄憂フルニ足ラス本日大統

統親カラ段祺瑞ヲ訪ヒ又一両日ノ後更ニ徐世昌ヲ訪問スル

皆ニテ時局ハ其ノ上ニテ一段落ヲ告クヘク目下郎坊豊台ニ

在ル奉天ノ軍隊ハ漢口ニ前往シ濁流鎮其他ニ在ル軍隊ハ徐

州ニ赴クコトナルヘキ旨語リタルニ付本官ハ絶エス国内

ノ紛争ニ鎗ヲ削ルカ如キハ如何ニモ國家ノ為メ憂慮スヘキ

事柄ナルカ故世界ノ形勢ニ顧ミ最早中止スルコト然ルヘキ

旨説キタル處中央政界ノ混亂ニ陥ルカ如キ懸念ハ断シテ之

レナク時局ハ決シテ憂慮スルニ足ラストテ極メテ樂觀的態

度ヲ装ヒ居タリ財政總長ハ大總統側ノ人物ナリ為念不取敢

其感ヲ同シウスル処ニ有之去リ乍ラ帝国政府ニシテ此方針

ヲ執ラルモノトセハ卑見ノ通り断乎タル決心ヲ以テ驅進

セラレ各派ノ間ニ立チ種々ノ困難ヲ排除シテ調停ヲ試ミ又

場合ニ依リテハ強力ヲ用ヒテ一種ノ干渉ニ出ツル事モ辞セ

不幸ニシテ右ノ決心ナク一旦此方針ヲ採リタル後何等故障

ノ為忽チ其ノ針路ヲ変更セラルカ如キコトアランカ信ヲ

各派ニ失シ收拾スヘカラサルニ至ラン現ニ段派ノ策士ハ今

日尚ホ帝国政府カ同派今回ノ挙事ニ同情ヲ有セラルカ如

キ感ヲ懷キ居リ是ト同時ニ其ノ反対派モ亦同様ノ誤想ニ陷

リ居レルノ実情ナルカ若シ帝国政府ノ方針ニシテ決シテ此

ノ如キモノナラサルコトヲ了知スルニ於テハ段ノ反対派ハ

手ヲ打チテ快哉ヲ叫フト同時ニ段派ハ非常ニ怨恨シテ帝国

政府ヲ以テ頼ムヘカラスト為シ其ノ結果我方ニ於テハ何等

得ル所ナキニ至ルヘシ以上ノ理由ニ因リ本官ハ帝国政府ニ

シテ現下支那政界ノ紛乱中止ニ著手セラルニ於テハ深ク

御決心ノ上馮段両派間ノ調停ハ勿論進ンテ南北ノ紛争ヲモ

終熄セシメンカ為場合ニ依リテハ干渉的措置ヲモ辞セサル

ノ決心ヲ以テ進マレンコトヲ希望セサルヲ得ズ幸ニ目下北

辺ニ閔スル日支共同動作ニ閔スル商議進行中ニ付此機會ヲ以テ右共同動作ニ閔スル協定ヲ完成シタル上更ニ着々両国間一層ノ親密關係ヲ結フノ途ニ出テラレンコトヲ切望ス

九六八 三月十五日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

張作霖ハ日本ノ真意ヲ誤解シ居ル旨具申ノ件

第八九号

(三月十五日接受)

三月十四日夜張作霖ヲ往訪シ貴電第四一号ノ趣旨内密ニ申入レタル處派兵ノ目的ハ討南ニアリ天下有事ノ際強固ナル内閣ノ出現ヲ望ム外他意ナク自ラ中央ニ何等野心無キハ勿論大總統ノ地位ヲ左右セントスルモノニモアラスト繰返スモ実ハ一日モ早ク段祺瑞ノ擡頭ヲ希ヒ段派ノ為メニ勢ヲ示サントスルニ外ナラサルコト固ヨリ毫モ疑ヲ容レス惟フニ張作霖今回ノ挙事タル一方ニ於テハ徐樹錚ヨリ健タカ吹キ込マレ功名ニ逸ル部下楊參謀長孫師長及張景惠張作相旅長等ノ武人ニ担カラタル結果ナルカ如ク而シテ寺内内閣並ニ林公使ヲ己ノ味方ト心得今次ノ企画ニ付テハ北京方面ニ於ケル我大官ト充分意思ノ疏通アリト少クトモ張ニ於テハ思料セル折柄本官突然ノ申出ニ際会セルコトトテ是レ果シテ

日本政府ノ真ノ意向ナリヤト疑ヒ頗ル怪訝ニ堪ヘサルモノノ如ク見受ケラレタリ蓋シ公使館方面ヨリノ勸告未タ徐ニ達シ居ラス縱令徐迄ハ達シ居ルモ未タ張ノ耳ニハ入レ居ラサルモノノ如シ兎ニ角明朝御通過ノ林公使ニ張自ラ若クハ徐樹錚面会ノ筈ニ付日本政府ノ御趣旨モ充分徹底スルニ至ルコトカト思考尚徐ハ明朝公使ト同行帰京スル由

北京へ電報セリ。

九六九 三月十五日 在奉天赤塚總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

段祺瑞總理出馬ノ意ナキ旨等船津書記官二対

第九一号

(三月十五日接受)

在支公使発本官宛第四〇号
外務大臣ヘ転電アリタシ

第三六四号

貴電第一五二号ニ閔シ

徐樹錚ハ今尚奉天ニ在リ北京奉天間ヲ往復シ居ル事實ナシ尤モ南下奉天軍隊ノ副司令官トシテ(總司令ハ張作霖)不日軍糧城ニ来リ事實上總司令ノ任ニ当ル筈ナル由(右總副

司令ノ名目モ中央ノ任命ニアラス張作霖ヨリ右ノ如ク取計タル旨中央政府へ電報セシ由ニテ軍器ノ横奪ト共ニ頗ル奇怪ナル行動ナリ)依テ不敢三月十四日船津ヲシテ段祺瑞ニ面会セシメ御電訓ノ趣旨ニ基キ然ルヘク伝ヘシメタル処段ハ今後内閣改組等ニ閔シ多少ノ曲折波瀾アルヲ免レサルヘキモサシタル紛擾ヲ惹起スル如キコトナカルヘシト思料ス張作霖ハ徐世昌ト自分ニ於テ内閣ヲ組織セムコトヲ要求シ居ルハ事実ナリ現ニ曹汝霖モ昨日來訪頻リニ余ノ出廬ヲ懇通セシモ此際自分ノ出ルコトハ自分ハ勿論國家ニ取リテモ不得策ナリト信ス如何トナレハ世間ニテハ張作霖今回ノ行動ヲ以テ自分ノ教唆ニ出デタルモノナリト疑ヒ居ルモノ渺カラサルヲ以テ若シ自分カ總理トナラハ愈々前述ノ如キ疑惑ヲ深クシ且之レガ為メ一層反対派ノ悪感ヲ刺戟シ大局ノ上ニ何等ノ利益ナシ自分ハ元來朝ニ在ルト野ニ在ルトヲ問ハス國家ノ為メニ蹇々ノ誠ヲ尽サムコト平生ノ願ナリサレハ自分トシテハ万已ムヲ得サル場合發生セサル限り寧ロ現今ノ如キ地位ニ在リテ側面ヨリ奔走尽悴スル方却テ国家ニ取り利益ナルヘシト信スルニ付旁此際内閣ノ首班ニ列スルコトハ絶対ニ避ケタキ所存ナリト述ヘタル由ニ付船津ハ

然ラハ何人カ總理トシテ適任ナルヤヲ問ヒシニ段ハ徐世昌モ断シテ出テサルヘキニ付今日ノ處先ツ田文烈位力最モ遜任ナラム同人ハ正直忠誠ノ君子ニテ政治上ノ經驗モアリ軍人連トノ折合モ良シ唯ダ少シク胆力ヲ欠クノミト答ヘタル由
船津ハ更ニ談話ヲ継続セムトシ居ル際馮総統突然ニ段ヲ來訪シタル為メ船津ハ已ムヲ得ス告別退去シタル趣ナリ

九七〇 三月十六日 在南京高尾領事宛(電報)

**馮徐段等ニ政界ノ紛乱ヲ惹起セザル様勧告セ
ル次第二付李純等ニ於テ誤解ナキ様説明方訓
令ノ件**

第一号

貴電第三六号ニ閔シ

曩ニ徐樹錚等ノ陰謀ニ閔スル情報ニ接スルヤ帝国政府ニ於テハ深ク之ヲ憂慮シ馮國璋、徐世昌、段祺瑞等ニ対シ相互ニ十分意思ノ疏通ヲ図リ協力シテ時局ニ處スルコトヲ希望スル旨申入レシメシカ其後奉天軍ノ南下秦皇島ニ於ケル器奪取事件等アリシヲ以テ最近内密徐樹錚及ヒ張作霖ニ對

シ政界ノ紛乱ヲ惹起スルカ如キ計画ハ時局ニ顧ミ日支協同ヲ必要トスル此際特ニ差控ユル様懇切ニ勧告方取計ハシメタル位ニ付右ノ次第御含ノ上李純等ニ於テモ帝国政府ノ真意ニ闇シ誤解無キ様然ルヘク説明シ置カレタシ

右在支公使ニ転電シ在上海総領事ニ郵報アリ度又貴電第三六号ト共ニ天津総領事ニ郵報スル様在支公使ヘ申添ヘラレ度シ

九七一 三月十六日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日英露公使會議ニテ奉天軍京奉線進出ニ警

告決定ニ関シ報告ノ件

第三六四号

三月十五日日、英、仏、露、公使會議ノ際仏國代理公使ハ在天津同國司令官ノ具申ニ基キ張作霖カ其ノ軍隊ヲ京奉線一帯ニ移駐セシメタルニ就テハ京津間ノ自由交通確保ノ見地ヨリシテ此際支那政府ニ警告ヲ与フルノ可否ニ付各同僚ノ意見ヲ求メタルニ付討議ノ結果客年復辟戦當時ニ於ケル先例ヲモ顧慮シ兎ニ角此際一応ノ警告ヲ与ヘ置ク方然ルヘシトノコトニ一決シ右公文案ハ仏國代理公使ニ於テ起草ノ

上更ニ首席公使ヨリ関係國公使ノ同意ヲ求メタル末外交総長ニ送致スルコトトナレリ不取敢
在天津總領事ヘ電報セリ

九七二 三月十六日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

日中軍事協定ノ締結南北妥協等ニ関シ馮総

ノ青木中将ヘノ談話報告ノ件

坂極秘第一二二号

(三月十七日接受)

青木中將ハ昨日大總統ニ会見シ今日ノ支那ニ於テ対内問題ハ固ヨリ重要ナレトモ大總統カ泰然トシテ其位ニ安シ公明ニ事ヲ處理サルニ於テハ自ラ解決ノ日有ルヘク對外問題ハ更ニ之ヨリ重要ニシテ党派的利害、個人的ノ感情ヲ捨テ和衷協同事ニ当ルノ要アルヲ前提トシ不日日本ノ委員ノ到着ヲ待ツテ開始セラルヘキ日支軍事協同規約ノ速ニ成立セシコトハ我軍事當局者ノ最モ希望スル所ナリ、支那側ニ於テモ充分ノ熱誠ヲ以テ事ニ当ラレンコトヲ望ムト述ヘシニ大總統モ大ニ之ニ同意ヲ表シ其直接ノ交渉ハ參戰督辦ニ一任シアルモ尚能ク注意ヲ与フヘク其解決敢テ難事ニアラサルヘシト答ヘタル上時事問題ニ移リ内閣改造ノコトハ張作

確執セス且李純ト倪嗣冲ノ間ニモ意思ノ了解ヲ得タルヲ以テ長江筋ニ於テモ別ニ何事モ起ラサルヘシトテ例ニ依リ案外樂觀的態度ヲ示シ居タリト

(各地 濟)

九七三 三月十八日 在中国林公使ヨリ

張作霖來訪シ京奉線沿線出兵ノ真意並段祺瑞

ノ南北妥協ト北方派内部ノ調整ニ関シ会談ノ

件

(三月十九日接受)

第三七二号

三月十五日夜半奉天着後深夜張督軍ハ徐樹錚ト同道本使ヲ來訪シ今回奉天軍隊ヲ南下セシメタル事情ニ関シ縷々説明スル處アリ其要点ハ目下種々ノ陰謀ヲ逞スルモノアリテ南征中ノ曹鋐、張懷芝、張敬堯等ノ軍隊ト雖或ハ同様異変ヲ來スカ如キコトナキヲ保シ難キニ付之等ニ対シテ後援ヲ与フルト同時ニ北方派ノ結束ヲ固クシテ以テ一日モ早ク南北統一ノ実ヲ挙ケント欲スルニ過キス、決シテ之ヲ以テ大總統ヲ威嚇シ或ハ大總統ヲ駆逐セントスル如キ意思ヨリ出テタルニアラストノ趣旨ニ外ナラサリシモ同人ノ語氣ヨリ察

スルニ帝国政府ノ警告ト過日石光司令官ヨリ提出シタル抗議ニ対シテハ尠カラス神経ヲ惱マシタルモノノ如ク或ハ帝國政府ハ彼等今回ノ挙事ニ反対シ居ルニアラスヤトノ疑ヲ懷キ居ルヤニ見受ケラレタルヲ以テ本使ハ帝国政府ノ警告モ露国政変ノ結果東亜復一層多事ナラントシ日支両国ハ協力シテ此際ニ處スルノ途ヲ講セサルヘカラザルノ秋ニ当リ徒ラニ内争ヲ事トスルハ支那自体ノ為メニ不利ナルノミナラス隣邦タル帝國ニ取リテ迷惑千万ナルヲ以テ成ルベク速カニ南北統一ノ実ヲ挙ケ鞏固ナル中央政府ノ樹立セラレシコトヲ希望スルニ外ナラス、石光司令官抗議ノ事情ハ未タ其詳細ヲ知ラサレドモ単ニ條約上ノ権利ヲ無視セラレタルノ理由ニ基キ抗議シタルモノナラン、何レ同司令官ヘハ本使ヨリ問合ス処アルヘキモ奉天軍隊ニ於テモ同沿線ニ於テ条約ノ規定ニ違背スル如キ行動ヲ避クル様注意サレタント答ヘ置ケリ

十七日本使ハ帰任ノ挨拶旁々段祺瑞ヲ往訪シタル処段ハ先ツ寺内首相ノ健康ヲ懇ロニ問ヒタルニ付本使ハ寺内首相ヨリノ伝言ヲ述ヘタルニ段ハ深ク之ヲ感謝シ且ツ本使帰朝中自分（段）ニ関連シ本使並ニ寺内首相ニ対スル世間ノ攻撃

派ノ結束サヘ鞏固ナレハ南北ノ統一ハ左マテ難事ニアラス湖南ノ失敗ハ決シテ南方ノ優勢ナリシ為メニアラス全ク北方内部ノ不調和ヨリ自ラ招キシ失敗ナリ故ニ時局ノ收拾ハ是非共先ツ北方派内部ニ蟠り居ル一部ノ腐敗分子ヲ駆除セサルベカラス今ヤ折角其実行中ナリ然シ大總統ノ地位ニ変動ヲ來ス如キコトハ種々ノ關係上不得策ナルコト云フ迄モ之ナキニ付キ絶対ニ之ヲ避クル積リナルモ只懸念スル処ハ馮總統ハ今日迄幾多ノ小策ヲ弄シタルモ何レモ失敗ニ終リタレハ之ニテ諦ムルトキハ先ツ安全ナルモ万一彼カ是迄ノ失敗ニ懲リス今後日暮途遠ノ感ヲ起シ倒行逆施のノ策ヲ弄スルコトトモナラハ或ハ如何ナル事態ヲ演出センモ測リ難キコト是レナリ尤モ其場合ニハ勿論全國ノ波乱ヲ免レサルヘキモ黎元洪ヲ復職セシメテ一時ヲ切抜クルコト出来サルニアラサルモ右ハ所謂万々ノ場合ヲ予想セルモノニテ先議ヲ通過シ大總統ノ認可ヲ得タリト云ヘリ

右後段ニ閔シ章公使ハ既ニ訓令ヲ受ケタリヤ否ヤ分明次第

情ヲ有スル者多キハ已ムヲ得サル次第ナリ其結果政府及自分等ヲ攻撃スルモノアルハ蓋シ免レサル處又反対党ニ於テハ此等ノ問題ヲ利用シテ故意ニ政府ヲ攻撃スルモノモ或ハ可有之モ要スルニ或ハ誤解ヨリ或ハ故意ニ出ツルモノナリ自分ハ所有機會ヲ利用シテ段氏ト雖モ決シテ徹頭徹尾武力ヲ以テ南方ヲ圧迫セントスルモノニアラス唯武力ヲ以テ中央ニ反対スルモノニ対シ已ムヲ得ス実力的制裁ヲ加ヘントスルニ過キズ相当ノ時機ニ至ラハ必ス南北ノ妥協ヲ計リ南方及南方有為ノ人物ニ対シテハ相當ノ名譽ト地位ヲ保障スルノ雅量アルハ自分ノ信スル所ナリトノ意味ニテ詳細弁明シ置キタレハ貴下ニ於テモ今後宜シク右ノ方針ヲ以テ遂行セラレシコトヲ切望スル次第ナリ殊ニ此際最モ注意スヘキハ南北ノ妥協未タ成立セサルニ早ク北方派ノ分裂ヲ來ス如キコトナキ様用心スルコト肝要ナリ又大總統ヲ排斥スル如キ過激ノ手段ハ絶対ニ避ケラルコト必要ナリ然ラサレハ南方ノ反感ハ益々激甚トナリ終ニ收拾スヘカラサルニ至ルヤモ測リ難シト述ヘタルニ段ハ至極同感ナリト前提シ北方

九七四 三月二十日 在中国林公使ヨリ

本野外務大臣宛（電報）

張作霖ノ行動其他時局問題ニ関シ馮總統ト会談シタルニ付報告ノ件

第三九二号

（三月二十一日接受）

三月十九日本使馮總統ヲ訪問シタル処總統ハ本使カ奉天ニテ張督軍ニ会見シタルコトヲ余程氣ニ懸ケ居リシト見エ寒暄ノ挨拶終ルヤ否ヤ奉天ニテ張督軍ト会見サレシトノコトナルガ事実ナルヤ又御差支ナクハ会談ノ模様ヲ承ルコトヲ得ヘキヤト問ヒタルニ付キ本使ハ事実ナリ去ル十五日午前零時半頃奉天ニ着スルヤ本使ハ深更ノコトニモアリ且ツ同地滞在ノ余裕モナキニ付キ今回ハ張督軍トノ会見ヲ見合ハスル積リナリシ处張督軍ヨリ旅館ニ來訪セラレタリ其際に使ハ近來新聞ノ伝フル所ニ依レハ奉天軍隊ノ突然南下シタル軍器横奪等ノ事件アリン為メ種々ノ謡言蜚語發生シ人亦動搖ノ傾アリテ奉天督軍ノ行動ニ対シ非難ノ声高シトノコトナルガ此内外多事ノ際余リ乱暴ナル行動ヲ避クル方然ルヘキ乎ト注意ヲ与ヘタル処張督軍ハ之ヨリ先帝國政府ヨリモ略前述ノ如キ意味合ノ警告ヲ受ケ非常ニ苦慮セシモ

ノト見エ熱心ニ今回軍隊南下ノ事情其他ニ関シ弁明スル処アリタリ其要旨ヲ簡単ニ云ヘハ目下対外関係益々紛糾セントル際ニ付テハ速カニ無益ノ内争ヲ止ムルコトハ何等異セシムルコトハ到底不可能ナリ左リトテ此儘ニ放任スルコトハ又到底堪エ難キ次第ナルヲ以テ西北方面時局ニ当ル準備トシテハ先ツ一日モ早ク内部ノ統一ヲ計ル必要アリ然ルニ内部統一策ノ第一歩タル湖南ノ討伐未タ開始セラレザルニ馮玉祥ノ如キ早既ニ李純、陳光遠、王占元等ニ氣脈ヲ通シテ主和ノ通電ヲ發シ中央ノ方針ト全然反対ノ態度ニ出テ之カ為メ長江一帯頗ル動搖ノ徵アリタルニ依リ張督軍ハスクノ如ク党中央党ヲ樹テ乱中又乱ヲ生スル様ニテハ支那ノ内乱ハ終ニ窮極スル所ナク日相提携シテ外敵ニ当ルナドハ思ヒモヨラヌ事ニテ到底望ミナキニ至ランコトヲ憂ヒ此際急ニ北方派ノ軍隊ノ結束ヲ固クスル為メ曹鋐、張懷芝、倪嗣冲等ト打合ノ上今回ノ如キ一時權宜ノ措置ニ出テタルモノナリ決シテ他意アルニアラストノ意味合ニ外ナラサリシ右張督軍ノ弁明果シテ事実ナリトスレバ一応尤モナルヤニ

次第ナレハ貴大總統ニ於テモ此精神ヲ以テ閣員ト同心協力之ヲ遂行セラレンコトヲ望ムト述ヘタルニ、總統ハ張作霖今回ノ行動ハ実ニ乱暴狼籍言語道断ニテ少シモ恕スヘキ点ナシ彼ハ事前ニ中央ト何等打合ヲナサス全然自由行動ニ出デタルモノニテ馮玉祥カ中央ノ意ニ反シ主和ノ通電ヲ發シタル如キ比ニアラス馮ニ対シテハ既ニ夫々免職其他適當ノ処分ヲ断行シテ十分中央ノ威信ヲ示スコトヲ得タルモ張ニ至リテハ若シ断然ノ処分ニ出テンカ忽チ全局ノ動搖ヲ惹起スルノ虞アルヨリ大局ノ為メ中央ハ懶忽自重彼ノ行動ニ対シテハ悉ク事後承認ヲ与ヘテ一時ヲ弥縫スルノ措置ニ出テシモ此ノ時ニ於ケル中央ノ苦衷ハ実ニ名状シ難キ程ナリシ元来中央ニテハ南方討伐ニ關シ既ニ一定ノ計画アリ露国ニ於ケル形勢漸次險悪トナリ支那トシテハ北満ニ於テ何時兵ヲ動カス必要生スルヤモ測リ難キニ付自分等ハ大局ノ上ヨリ打算シ南方討伐ハ専ラ閔内ニ於ケル軍隊ヲ以テ之ニ当ラシメ又右ニテ十分ナルヲ以テ閔外ニ於ケル奉天、吉林、黒竜江等ノ軍隊ハ全部北満有事ノ際ニ備フル計画ナリシ且ツ今回日本ヨリ購入シタル軍器ノ如キ參戰督辦タル段祺瑞ハ最初之ヲ仏國出兵ノ用ニ供スル考ニテ又督辦ノ權限ノ如キ

ヤニ存セラルルヲ以テ本使トシテハ此際南北ノ問題モ左ルコトナガラ北方同志内訌ヲ生スルカ如キコトアリテハ夫レセシムルコトハ到底不可能ナリ左リトテ此儘ニ放任スルコトハ又到底堪エ難キ次第ナルヲ以テ西北方面時局ニ当ル準備トシテハ先ツ一日モ早ク内部ノ統一ヲ計ル必要アリ然ルニ内部統一策ノ第一歩タル湖南ノ討伐未タ開始セラレザルニ馮玉祥ノ如キ早既ニ李純、陳光遠、王占元等ニ氣脈ヲ通シテ主和ノ通電ヲ發シ中央ノ方針ト全然反対ノ態度ニ出テ之カ為メ長江一帯頗ル動搖ノ徵アリタルニ依リ張督軍ハスクノ如ク党中央党ヲ樹テ乱中又乱ヲ生スル様ニテハ支那ノ内乱ハ終ニ窮極スル所ナク日相提携シテ外敵ニ当ルナドハ思ヒモヨラヌ事ニテ到底望ミナキニ至ランコトヲ憂ヒ此際急ニ北方派ノ軍隊ノ結束ヲ固クスル為メ曹鋐、張懷芝、倪嗣冲等ト打合ノ上今回ノ如キ一時權宜ノ措置ニ出テタルモノナリ決シテ他意アルニアラストノ意味合ニ外ナラサリシ右張督軍ノ弁明果シテ事実ナリトスレバ一応尤モナルヤニ

感セラルル節モアリテ余リ深ク追窮スルノ必要ナカルヘキヤニ存セラルルヲ以テ本使トシテハ此際南北ノ問題モ左ルコトナガラ北方同志内訌ヲ生スルカ如キコトアリテハ夫レセシムルコトハ到底不可能ナリ左リトテ此儘ニ放任スルコトハ又到底堪エ難キ次第ナルヲ以テ西北方面時局ニ当ル準備トシテハ先ツ一日モ早ク内部ノ統一ヲ計ル必要アリ然ルニ内部統一策ノ第一歩タル湖南ノ討伐未タ開始セラレザルニ馮玉祥ノ如キ早既ニ李純、陳光遠、王占元等ニ氣脈ヲ通シテ主和ノ通電ヲ發シ中央ノ方針ト全然反対ノ態度ニ出テ之カ為メ長江一帯頗ル動搖ノ徵アリタルニ依リ張督軍ハスクノ如ク党中央党ヲ樹テ乱中又乱ヲ生スル様ニテハ支那ノ内乱ハ終ニ窮極スル所ナク日相提携シテ外敵ニ当ルナドハ思ヒモヨラヌ事ニテ到底望ミナキニ至ランコトヲ憂ヒ此際急ニ北方派ノ軍隊ノ結束ヲ固クスル為メ曹鋐、張懷芝、倪嗣冲等ト打合ノ上今回ノ如キ一時權宜ノ措置ニ出テタルモノナリ決シテ他意アルニアラストノ意味合ニ外ナラサリシ右張督軍ノ弁明果シテ事実ナリトスレバ一応尤モナルヤニ

コソ一大事ニテ時局ハ益々紛糾ヲ來シ容易ニ收拾ノ見込ナキニ至ル虞アルニ付今日ノ場合北方派ハ区々タル感情ヲ去リ又互ニ陰謀小策ヲ弄スルコトヲ止メ誠心誠意協同一致シテ時局ノ收拾ニ努メ以テ先ツ内部ノ統一ヲ計ルコト肝要ナリ若シ中央当局ニ於テ初メヨリ此精神ヲ以テ毅然進行シタランニハ湖南討伐ノ如キハ王占元陳光遠李純等ノ軍隊ノミニテ充分其功ヲ奏シ得ヘク從テ北方各省ヨリ大軍ヲ派シ徒ラニ国裕ヲ靡費スル如キ愚ヲ演セスシテ済ミシ筈ナリ今ヤ幸ニシテ岳州モ既ニ奪回シタリトノコトナレハ此勢ニ乘シテ長沙ヲ回復シ或ル程度迄中央ノ威力ヲ示シタル上直ニ南北妥協ノ相談ヲ始メ從来ノ如キ感情論体面論ヲ全然打破シ讓ルヘキハ思切リテ之ヲ讓リ南方派ノ人材ニシテ用ユヘキハ格ヲ破リテ之ヲ用ヒ反対党ニモ相当ノ名譽ト地位ヲ与ヘテ飽迄寛容ノ態度ヲ示スコトトセハ時局ノ收拾ハ決シテ困難ナラサルヘシ此ノ如クニシテ挙国一致ノ実ヲ挙グルコト支那ノ為メニハ勿論東洋大局ノ為メ切望ノ至リニ堪ヘサル

タリ

モ仏國出兵事務ニ局限スル積リナリシ処自分ハ予テヨリ露國及北満力終ニ今日ノ如キ状態ト為ルヤモ測リ難キヲ懸念シ居リタル為メ第一參戰督辦ノ權限ハ北満ニ於ケル動員ノ事迄包含スル様之ヲ拡張セシメ且ツ軍器モ此方面ニ應用シ得ル様備へ置カンコトヲ主張シタル結果何レモ其通リニ変更決定シ居リタル処張今回ノ行動アリタル結果日本ヨリ協同動作ノ提議ニ接シテモ忽チ軍隊及軍器ノ不足ヲ来シ非常ナル支障ヲ生シタル様ノ始末ナリ要スルニ張ハ中央カ大局ノ上ヨリ諸般ノ計画ヲ立テ居ルコトヲ知ラス今回ノ如キ無法ナル行動ヲ敢テシタルモノニテ之カ為メ引イテ大局ニ甚タシキ悪影響ヲ及ホシタリ

外間ニテハ自分カ大總統ノ地位ニ恋々タル為メ種々ノ陰謀ヲ運ラシ居ル如ク思惟スル向アル由ナルモ決シテ然ラス自分ハ適當ノ候補者アリテ之ヲ引受クル者アラハ何時ニテモ大總統ヲ讓リタキ所存ナリ後繼者ナキニ遽カニ其職ヲ離レシカ無政府同様即チ露国ノ現状ト同様ノ轍ヲ踏ムニ至ル虞アルヲ以テ已ムヲ得ス此難局ニ當リ居ル次第ナリト述ヘ統ハ張作霖今回ノ行動ニ対シ非常ニ憤慨シ居ル模様ヲ裝ヒ

尚總統ハ総理後任問題ニ関シ自分（馮）ハ理想トシテ責任内閣制ヲ贊成スルモノナルカ客年末湖南ニテ傳良佐失敗ノ際段總理ハ人ヲ觀ルノ明ナキ責ヲ負フテ引退シタル為メ

王士珍一時署理總理ニ任セラルニ至リ自分ハ已ムヲ得ス大小ノ政務ニ参与スルコトトナリ其後王士珍去リ錢内務總

長兼任總理トナルヤ一層自分ニ於テ責任ヲ分タサルヲ得サル羽目ニ陥リ今ヤ恰モ袁總統時代ノ状態トナリシハ決シテ

自分ノ本意ニアラス適當ナル總理任命セラルニ至ラハ再ヒ全責任ヲ總理ニ一任シ自分ハ一切関与セサル積リナリ張作霖其他二三督軍ヨリ有力内閣組織ノ為メ段祺瑞ノ出盧ヲ懇請シ来リ自分モ親シク之ヲ懇意シ更ニ徐世昌ニ依頼シテ其出盧ヲ勧告シタルモ段ハ過去二回ノ失敗アリシ關係ニ顧ミ今尚固辞シテ承諾ヲ与ヘス之カ為時局渾沌トシテ人心不安ノ状アルハ甚タ遺憾トスル所ナルモ之カ為何等危険ナル

事態発生スルカ如キハ断シテ之レ無キヲ信ス兎ニ角湖南一帶ノ形勢今少シク北方ニ取リ有利ニ發展シ来ラハ段モ總理ヲ引受クルコトトナルヘシト思料スト述ヘ其他各種ノ問題

ニ閔シ約二時間余ニ亘リ談話ヲ交エタルカ孰レモ馮一流ノ出鱈目ヲ竝ベ今日ノ如キ時局ヲ釀シタル責任ヲ全然他ニ推

第三九四号 九七五 三月二十日 在中国林公使ヨリ
譲セントスルノ意言語ノ間ニ歴々タルモノアリシ
林長民來訪シテ訪日目的ニ關シ談話ノ件
（三月二十一日接受）
三月二十日林長民來訪ノ節同人渡日ノ目的ニ閔シ元來進歩党一部官僚派又ハ軍人派ノ如ク專制的ナラス又国民党派ノ如ク過激ニ走ラス善良ト認ムル軍人派ト協同シ順序ヲ逐フテ支那ヲ開發シタル上日支親善ヲ実現セシメムトスルモノニテ最穩健主義ヲ持セル次第ナルカ今回ノ日本視察ノ傍可成朝野ノ有力者ニモ会見シ示教ヲ仰グト共ニ意見ヲモ交換シタキ希望ナル旨語リ居タリ、御含迄ニ

九七六 三月二十一日 本野外務大臣宛（電報）
段ノ出馬ニ付徐世昌トノ会談内容ニ關シ報告
ノ件

第三九五号 九七七 三月二十日 上原參謀總長宛（電報）
（三月二十一日接受）
三月二十日本使ハ徐世昌ヲ訪ヒ本使ノ時局ニ閔スル推測談トシテ馮總統カ頻リニ段祺瑞ノ出盧ヲ勧誘シ居ル由ナルモ

右ハ馮ノ誠意ヨリ出テタルニアラサル為メ段ハ今猶之ヲ拒絶シ居ルトノコトナルカ本使ノ見ル所ニ依レハ馮總統ニ向ヒテ誠意アルヲ期待スルハ到底其望ナキモノナレハ縱令形式丈ケニセヨ幸彼ヨリ總理就任ヲ希望シ来ルニ之ヲ受クル方得策ナル可シ又段氏ハ從米武断一方ニテ何等政治的手腕無キモノノ如ク誤解セラレ居レルニ反シ平和乃至妥協論ハ常ニ馮總統一派ヨリ提唱セラレ此点ニ於テ南方一般ノ段氏ニ対スル声望ハ馮總統ニ比シ一籌ヲ輸シ居ルヤノ感アルニ付今後北軍カ長沙ヲ克復シ各般ノ形勢北方ニ有利ニ發展スル頃ヲ見計ヒ段氏ハ宜シク進シテ南北妥協ノ提議ヲ為シ条件ノ如キモ極メテ公正寛大ニシテ西南ニ於ケル重要人物ノ名譽ト地位ヲ保障スルノ手段ニ出テタランニハ国内ノ統一必スシモ難事ニアラサル可シト思料セラル又其場合ニハ閣下ノ如キ元老ハ極力段氏ニ援助ヲ与ヘラルコトヲ切望ス

ル所ナリト述ヘタルニ徐ハ本使ノ所説ハ全然自分ノ意見ト一致スル旨ヲ前提シ過日王總理ヲ辭シ北京ヲ引揚クルニ先立チ今後ノ措置ニ閔シ自分ノ意見ヲ求メタル際全ク貴公使ト同様ノ意見ヲ述ヘタルコトアリ目下段君カ出盧ヲ躊躇シ居ルハ全ク貴公使御推察ノ通リニシテ馮總統ノ誠意ナキ為メ

メナルモ本日有力ナル各督軍連ヨリ電報ニテ自分ニ宛テ段氏出盧勧告方懇願シ来レルニ付早速右電報写ヲ馮總統ニ送附スルト同時ニ段氏ヘモ之ヲ送附シ置キタレバ段氏モ遠力ラス總理ノ任ヲ引受クルコトトナル可シ其上ハ是非貴公使御意見ノ通り實行方勧告シ且自分モ背後ヨリ出来得ル限り援助ヲ与フル積リナリト答ヘタリ

天津電一二六
奉天軍ノ京奉線沿線出動及列車臨檢ニ關スル
徐樹錚ノ弁明ニ付報告ノ件
(三月二十一日接受)

一昨十八日徐樹錚來訪シ奉天軍今回ノ行動ニ閔シ左ノ如ク弁明セリ
今回奉天軍ノ行動ハ事前ニ於テハ極メテ秘密ヲ要シタル為メ軍隊輸送ニ先チ予メ列國駐屯軍ノ承認ヲ得置クノ余裕ヲ有セサリシコトヲ遺憾トス然レ共毫モ條約ヲ蔑視シ列國軍ヲ無視スルカ如キ意志ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ之ヲ諒恕セラレンコトヲ請フ列車ノ臨檢ノ如キハ軍隊トシテ毫モ其必要ナク去ル十六日予ノ奉天征南軍副司令ニ就任以来

ハ断シテ此事ナキヲ信ス若シ尚之ヲ続行スルモノアレハ直ニ之ヲ停止セシムヘシ但シ軍隊ノ鉄道沿線ノ駐劄ハ輸送ノ関係上上下車ニ便利ナルヲ顧慮シテ設定シタルモノニシテ毫モ列国守備軍ノ任務ヲ妨害スルモノニアラサルヲ以テ現状ノ虚黙認セラルコトヲ希望ス尚列国司令官ニ対シテハ貴官ヨリ然ルヘク御執成シヲ願ヒタシ云々

依テ本職ハ列車臨検ハ断然停止スルコト極メテ必要ナリ鉄道沿線支那軍隊ノ駐劄默認ニ就テハ各國司令官ノ意向モアルコト故予一個ニ於テハ取計ヒ兼マルヲ以テ各國司令官ノ意見ヲ徵シタル上回答スヘシ、予ハ日支親善ノ主旨ニ鑑ミ衷心ヨリ貴國ノ為ニ便宜ヲ計ルニ咨カナラスト雖モ今回奉天軍ノ行動ノ手続ハ余リニ乱暴ナリ且ツ一步ヲ誤ラハ北洋派ノ分裂ヲ來シ益々時局紛糾ヲ招クノ憂ナシトセス此ノ如難キヲ遺憾トスト述ヘシニ彼ハ左ノ如ク答ヘタリ

「今回ノ行動ハ決シテ日本ノ意思ヲ無視シタルモノニアラサルハ勿論日本政府トノ間ニ充分ナル諒解アルコトト信ス現ニ林公使カ俄ニ北京ニ帰任シタルカ如キ予等ヨリ現状ヲ通知シ其帰任ヲ促シタル結果ニ外ナラス云々」ト恰モ今回

奉天軍ノ行動ハ日本政府ト予メ默契アルカ如キ口吻ヲ洩シニ依リ強制的ニ馮国璋及段祺瑞ノ結束ヲ強固ナラシメ北洋派ノ結合ヨリ南北統一ノ実ヲ上ケント欲スル目的ニ出テタルモノナリ而シテ現ニ其効果ヲ實現シツツアルカ如キ其証拠ナクハ人ヲ通シテ段ノ出廬ヲ強要シツツアルカ如キ其証拠ナリ云々」各地済

九七八 三月二十一日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
上原參謀長宛（電報）

時局安定ノ見込ニ付馮總統ノ青木中將ニ對ス

ル談話報告ノ件

坂極秘電第一三三二号
(三月二十二日接受)

馮總統ノ本日青木中將ニ時局問題ニ閲シ語レル所左ノ如シ世間ニテハ長江筋ノ形勢ヲ頗ル重大視シアル模様ナレドモ今ヤ張作霖ハ李純ニ対シテ他意ナキヲ宣言シ李純モ亦同様ノ態度ニ在ルヲ以テ彼等ノ衝突スルカ如キハ万之レナカルヘク馮玉祥ト倪嗣冲トノ間モ亦同様ナリト樂觀シ而シテ今後長沙ヲ陥レ新ニ赴任スヘキ督軍省長等カ安全ニ長沙ニ居

住シ得ルニ至ラハ南北妥協ノ途茲ニ開クヘク此時機到ラハ段祺瑞モ更ニ國務總理ニ就任シ次第ニ平和ノ曙光ヲ見ルニ至ルヘシト語レリ

九七九 三月二十四日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

王士珍ノ免職段祺瑞ノ總理任命発令ノ件

第四一〇号

國務總理代理王士珍ヲ願ニ依リ其職ヲ免ジ段祺瑞ヲ國務總理ニ任スル旨ヲ大總統令三月二十三日附ニテ公布セラル

九八〇 三月二十四日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

段總理復活ト各督軍ノ右復活支持ノ真相ニ關

シ報告ノ件

第四一二号

今回張作霖出兵ノ目的ガ那邊ニ在ルニセヨ又其成功タルト失敗タルトハ暫ク措キテ之ヲ論セストスルモ先般來潰裂収拾シ難キヤノ感ヲ呈シタル北洋派ヲシテ兎ニ角表面上一時的ニセヨ再ヒ團結セシムルノ効アリタルハ否認シ難キ事實ナリトス馮總統ハ張ノ露骨ナル遺ロニ対シ尠カラス憤慨シ

一三 中国内政関係雑件 九八一

一〇一〇

ノ上査弁セシムルコトトナリタルニ拘ラス其後更ニ旅長ニ

留任シタル儘曹鋤節制ニ帰スヘキ旨ノ大總統令公布セラレ

タル次第ニテ右ハ馮玉祥ノ不都合ニ対シ鬼ニ角一応ノ处罚

論起リタル際馮カ大總統及王士珍ノ内命ニ依リ和議主張ノ

通電ヲ發シタル裏面ノ事情ニ顧ミ王ハ馮ノ免職ニ不同意ナ

リシヨリ大總統ハ馮一人位ヲ犠牲トナスハ已ムヲ得サル次

第ナル旨ヲ言明シタルコトアリ（王ハ結果馮事件ノ為メ隠

退スルニ至リタリ）此事馮ノ耳ニ入り馮ハ尠カラス感情ヲ

害シタルヨリ段派ハ其間ニ運動スル所アリテ其結果馮ハ旅

長ニ留任シタル儘曹鋤ノ節制ニ帰スルモノトナリタルモノ

ノ如ク段派ハ即チ馮ヲ其葉籠中ニ収メタルモノナリ

以上ハ本使帰任後徐世昌、段祺瑞、段芝貴、曹汝霖等トノ

会見並其他ノ見聞ニ由リ得タル印象ニシテ大体誤リナカル

ベシト信ス即チ李純ノ如キハ其地位ニ保証ヲ得タルヨリ段

ノ推薦ヲ為スニ至リタルモノニシテ其結果北洋派督軍ニハ

段ノ復活ニ異存アルモノナキニ至リタル次第ナリ從テ段ノ

國務總理復活ハ大体右ノ如キ途行ニテ實行セラレタルモノ

ト見ルヲ穩当トスヘク換言スレハ段派ニ於テハ既ニ南方側

一部ノ向キ妥協ノ端緒ヲ得タルモノト觀測スルモ差支ナ

カラソ不取敢御参考迄ニ

九八一 三月二十七日 在中國林公使ヨリ

段祺瑞ノ總理就任迄ノ内情及閣員銓考事情ニ

閥シ王郅隆ノ船津ニ對スル内話報告ノ件

第四二三号 (三月二十八日接受)

三月二十七日王郅隆カ船津ニ内話シタル要領左ノ如シ

今回段總理ノ就任突然決定スルニ至リタル事情ニ閥シ外間

種々ノ風説アリ或ハ奉天軍隊カ豐台ニ出動シ北京ニ迫ラン

トスル氣勢ヲ主シタルカ為ナリ杯ノ説モアルカ右ハ真相ニ

アラス実ハ去二十一日田農商總長カ徐世昌ノ使トシテ各省

督軍ノ段總理就職勧告ノ電報ヲ携ヘ馮總統ニ謁スルヤ總統

ハ長沙ノ陥落モ間モナキコト故、總理任命問題ハ夫迄見合

ハスヘシト答ヘタルニ依リ徐世昌ハ馮ノ誠意ナキハ能ク承

知シ居ルモ彼ハ態々徐ヲ來訪シテ段ノ出廬勧告ヲ懇請シナ

ガラ右ノ如キ挨拶ラナスハ甚タ不都合ナリトモ大ニ憤慨シ

タル由ニテ馮ハ之ヲ聞キ甚タ不安ヲ感シ居ル際二十二日ニ

至リ有力ナル督軍連ヨリ大總統ニシテ誠心誠意段ノ出廬ヲ

希望セラルル儀ナラハ單ニ口頭ヲ以テ勧告スルヨリモ先ツ

段總理任命ノ命令ヲ發布セラレ其ノ誠意ヲ示サレタシ其ノ
上ニテ段尚之ニ応セサル場合ニハ更メテ他ノ方法ヲ講セラ
レタント電報シ来リタルヨリ旁馮モ今ハ他ニ適当ノ辞柄ナ
キニ至リ終ニ二十三日段ノ任命ヲ見ルニ至リタル次第ナリ
蓋シ馮ノ意ニ任セ荏苒時日ヲ経過セハ其ノ間ニ馮カ再ビ如
何ナル術策ヲ弄シテ時局ヲ紛糾セシムルヤモ計リ難キ為督
軍連カ前述ノ如キ手段ニ出テ馮ヲシテ最早進退ノ余地ナキ
羽目ニ陷ラシメタル次第ナリ。

二十五日段ガ國務院ニ於テ就任ノ挨拶ヲ為スヤ他ノ閣員ハ
全部（司法ハ疾ニ辭表ヲ提出シ居レリ）辭表ヲ提出シタル

モ段總理ハ悉ク之ヲ却下シテ留任ヲ勧告シタル處財政總長
ハ再ヒ辭表ヲ提出シ固ク辭意ヲ表シタル由ニ付キ財政司法
丈ヶハ早晚更迭ヲ見ルベシ財政ハ梁士詒其候補者ニ擬セラ
レ居ルモ梁ハ閣員ニ列スレハ活動ノ範囲ヲ局限セラルニ

付寧ロ局外ニ在リテ十分政府ヲ援助スル方政府ノ為メニモ
得策ナリトテ之ヲ固辞シタルニ付多分曹交通總長之ヲ兼任

スルコトナルベシ而シテ財政次長ニハ梁ノ子分タル國務
院參議造幣總廠監督吳鼎昌ヲ任命シ事實上ノ財政總長タラ

九八二 四月十一日 在奉天田村總領事代理ヨリ

二対スル談話報告ノ件

四月十日夜張作霖ノ坂東ニ語ル所左ノ通

一三 中国内政関係雑件 九八二

一一〇一

一、対露問題ニ関シテハ日支両國共同一致ノ行動ヲ執ルコトニ北京ニ於テ打合セラシタルモ詳細ハ秘密ニシテ知ル能ハス然モ有事ノ際用兵作戦統率ノコトハ全部日本之ニ当リ支那ハ主トシテ後方勤務ニ服スルニ至ルヘン

二、内閣改造ノ説アルモニ三閣員ノ交迭ニ過キサルヘク段芝貴陸軍ヲ去リ田中玉之ニ代リ財政ハ或ハ周自齊ノ出現ヲ見ルヘキカ梁士詒説ニハ反対多シ

三、対西南問題ニ就テハ南軍中既ニ内訌アリ又軍器ニ欠乏シ湖南將ニ平定セラレントシテ南北調和説頻リニ唱ヘラレツツアルモ調停ノ任ニ当ルヘキ人物ナク聞ク所ニ拠レハ南方ハ人ヲ派シテ林公使ニ調停ヲ申入レタリトノコトナルガ条件如何ニ依リテハ和ヲ見ルヘキモ国会回復ノ如キ申出テアランカ調和覚束ナシ、四川方面ハ劉存厚再ヒ吉報ヲ伝ヘツツアリ是レカ援助ノ為メ奉省ノ入漢兵中三旅ヲ陝西ノ漢中ニ向ハシムルノ議アルモソハ十二日来奉スヘキ徐樹錚ノ到着ヲ俟ツテ決定スヘシ

四、段秘書上京ノ要件ハ主トシテ參衆両議員ノ選挙ニ関スルモノニシテ我党側ノ意見トシテハ次期大總統ニ徐世昌ヲ挙クル予定ニテ議員選挙ニ臨ム考ナリト

在支公使ヘ電報セリ

九八三 四月十一日 在北京坂西陸軍少将ヨリ

上原參謀總長宛(電報)

徐樹錚ノ新陰謀ニ対シ外交団筋ヨリ警告方ニ付大總統ヨリ青木中將ニ持掛けタル件

坂極秘電第百六十一号

(四月十二日接受)

青木中將電、本日大總統ニ会見ノ際先方ヨリ突然徐樹錚ノ新ナル陰謀ヲ知ルヤト問ヒシ故知ラスト答ヘシニ彼ハ語ヲ次テ曰ク、徐樹錚ハ今ヤ王揖唐ト協謀シ臨時參議院ニ国会ノ權能ヲ附与シ次期大副總統ノ選挙ヲ為サシメント計画シツツアリ此ノ事ノ不合理ナルハ勿論現ニ政府ノ予定計画トモ相異セルヲ以テ斯ノ如キ事ヲ為スニ於テハ一般ノ反対ヲ招キ新ニ争議ノ種トナルノミナラズ直接政府トモ衝突ヲ起スニ至ルヘク此ノ上支那ノ内争ヲ拡大スル惧アリ如何ニモ患フヘキコトニ付何トカ外交団辺ヨリ相当ノ注意ヲ彼等ニ与ヘ之レヲ未前ニ予防スル法ナキヤト語レル故吾林公使ニ之ヲ伝ヘテ宜シキヤト反問シ宜シトノ返答ヲ得タルヲ以テ其意味ヲ林公使ニ伝ヘ置ケリ

九八四 四月十二日 在中國國務大臣宛(電報)
本野外務大臣宛(電報)

湖南廣東二省ノ平定コソ南北妥協ニ必要ナリ

トノ曹汝霖ノ意見ニ付稟申ノ件

第五十六号 極秘

四月十一日曹汝霖他用ヲ以テ來訪ノ節對西南問題ニ談及シ

国民党側ニ別段眼中ニ置クノ価値ナク目下ノ問題ハ陸榮

廷、唐繼堯側ノ処分如何ニアル次第ナルカ陸、唐等ト妥協

ヲ遂クルコトニ付テハ中央政府当局ニ於テモ何人モ異存ナ

キ所ナルカ自分等ノ見ル所ヲ以テスルニ有絡ノ妥協ヲ遂ケ

ントセハ先ツ宜シク湖南廣東ノ二省ヲ平定スルノ必要アリ

然ラサレハ一旦妥協成立スルモ永続スヘシトモ見受ケラレ

ス旁観ニ角右二省ノ平定ヲ圖ルコト刻下ノ急務ナルカ之力

為大体四五ヶ月位ヲ要スヘク然ル後始メテ真実ノ妥協ニ入

ルヲ得ヘシト思考スル旨述ヘタリ右ハ事情拠ロナク且適切

ノ意見ニテ本使ニ於テモ右以外ニ実行シ得ヘキ考案モ無之

様思考セラル次第ナルカ帝国政府ニ於テモ一応熟考ヲ重

ネラルニ於テハ蓋同一結論ニ達セラルコトト存ス就テ

ハ内閣総理大臣トモ御内議相成、相成ヘクハ外交調査会ニ

一三 中国内政関係雑件 九八四 九八五

モ御附議シ上帝國政府トシテ右ノ如キ対西南政策ヲ是認セラルニ至ランコトヲ希望ス

九八五 四月十二日 蒼藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ

上原參謀總長宛(電報)

國內統一ノ為廣東及四川平定ヲ必要トスル旨

並其為ノ軍費借款ニ關シ倪嗣沖談話報告ノ件

支極秘二〇八

(四月十三日接受)

本日倪嗣沖ニ面会独塊勢力ノ東漸及露國ノ状態ヲ説明シ速

ニ国内ノ統一ヲ圖リ对外協同動作ヲ為スノ切要ナルヲ説明

シタル處倪ハ對外事情切迫セルコトハ充分承知シアリ然レ

トモ國內ノ統一ハ焦眉ノ急ニシテ徒ラニ空言ヲ弄スルモ其

効果ナク唇齒ノ關係上隣國ノ援助ヲ受クルハ可ナルモ支那

自ラ統一ノ方法ヲ決定シ之ヲ實行スルニ非サレハ援助スル

モ亦施スニ途ナキ次第ナリ而シテ統一ノ為ニハ速ニ廣東ヲ

占領スルコト絶対ニ必要ニシテ次テ四川ニ及ハサルヘカラ

ス若シ姑息ノ手段ヲ以テ弥縫ヲ事トスルトキハ國費ヲ徒費

シ而カモ効果ヲ収ムルコト能ハサレハ的確ナル部署ヲ定メ

之ニ要スル經費ヲ精算シ其ノ出途ヲ定メ然ル上ニテ軍隊ヲ

督励スルヲ要ス目下之カ經費ヲ計算中ナルカ廣東、四川ヲ

平定スルニ約三千五百万元（邦貨約五千万円）ヲ要スルナ
ラン右精算出来ノ上政府ヨリ日本ノ援助ヲ請フ筈其ノ他段
総理ノ躬ラ漢口ニ至リ諸将ヲ督励シ目前方略ヲ授クルコト
切要ナリ自分ノ上京シタル趣旨ハ此ノ方針ヲ決定センカ為
ニシテ段総理ハ既ニ自己ノ意見ヲ容レ數日中ニ漢口ニ向フ
筈ナリ目下竜済光軍ヲ救済スルコト必要ニシテ福建、江西、
湖南三方面就中江西方面ノ第二路ヲ速ニ前進セシムル方針
ナリ福建ニハ浙江ヨリ一師團ヲ増派スル筈然レ共竜軍ニ直
接援助ヲ与フルモノハ江西方面ヨリスル第二路ニ期待シア

リ目下ノ情況ニ於テ此ノ儘ニ継続セハ南方ニハ米國ノ勢力
加ハリ広東方面ニ於テ其ノ立脚地ヲ構成スル惧有リ吾人ハ
以上ノ方策ヲ定メテ更ニ日本ノ援助ヲ請フ筈ナレハ快諾セ
ラレンコトヲ希望ス、小銃弾薬ハ漢口、德県、上海ノ三兵
工廠ニテ一ヶ月約七百万發ヲ製造シ得、概ネ所要ヲ充シ得
ル計算ナリ予ハ本日以上ノ方針ヲ決定シ明日病氣靜養ノ為
湯山温泉ニ到リ一兩日滯在帰京ノ上帰任スル筈ナリ徐樹錚
ハ現ニ当地ニ來リ予ト同住シアリ云々以上ノ談話ニ依ツテ
見レハ何レ借款ヲ申来ルナラント思考サルニ付坂西少將
等トモ打合セラヌヘキカ尚貴方ニ於テモ大体ノ考慮ヲ廻

等トモ打合セラヌヘキカ尚貴方ニ於テモ大体ノ考慮ヲ廻

ラシ置カレンコトヲ、卑見ニヨレハ此際為シ得レハ海蘭線
ニ手ヲ着ケ斯カル好都合ノ機会ニ於テ我希望スル而モ最モ
切要ナル利權ヲ收ムルコト必要ナリト信ス

尚両三日前倪ハ林公使ヲ訪問ノ際目下津浦線上徐州禹城、
濁流鎮ニ各一混成旅ヲ配置シテ南京ヲ監視シ京漢線上孝感
県及信陽ニ各一混成旅ヲ輸送中ナリ追テハ津浦線上ノ一旅
ヲ之ニ加ヘ四川方面ニ使用スル筈ナリト語リシ由

九八六 四月十二日 在北京坂西陸軍少將ヨリ

上原參謀總長宛（電報）

内争ノ平和的解決策ニ付大總統ノ青木中將二

対スル談話報告ノ件

坂極秘電第一六四号

（四月十三日接受）
青木中將ハ昨日大總統ト會見ノ際現政府ノ對西南方針ハ絶
対的武力解決ニ決シアルカ如シ充分成功ノ見込アルヤ如何
ト尋ネシニ總統ハ之ニ答ヘテ曰ク多數ノ時日ト人命ト莫大
ノ經費ヲ惜マストスレハ或ハ成功スヘキモ第一軍費ノ出所
ナキト現時ノ外交關係徒ニ内争ノ延長ヲ許ササルヲ如何セ
ントテ依然トシテ平和解決ニ賛成ノ意ヲ洩セルヲ以テ然ラ
ハ如何ニシテ其解決ヲ得ヘキヤト反問セシニ双方ヨリ公然

妥協条件ヲ提出セシメ之ヲ取捨シテ決定ヲ求ムルカ如キハ

双方ノ体面ニ関係シ到底行ハレサルヲ以テ梁士詒ノ主張ノ

如ク仲介者ヲシテ暗々裡ニ双方ノ希望ト折合フヘキ程度ヲ

確メ政府ノ体面上之ヲ許ス範囲ニ於テ他方ノ要求ヲ容レ命

令ヲ以テ之ヲ發布スルノ方針ニ出ツルノ外ナシ彼等ノ要求

スル所多クハ体面ト權利トニ過キサルヲ以テ例ヘハ陸榮廷

唐繼堯ニ對シテハ両広及雲貴川ノ巡閱使ノ職ヲ与へ且部下

軍隊ノ維持費ヲ政府ニテ担当スルヲ約シ孫文、岑春煊ノ如

キハ元老院カ又ハ其他ノ名譽職ニ就カシムカ如キ方針ニ出

ツレハ平和解決モ強チ六ヶ敷事ニアラサルヘシトノ意見ヲ

洩セリ依テ更ニ問題ヲ転シ絶対武力解決ニ依ルモノトセハ

世上種々ノ評アル曹鋐、張懷芝カ果シテ廣東又ハ其他ノ遠

隔セル地方ニ迄出征ヲ肯スヘキヤト質問セシニ右兩人ハ固

ヨリ張敬堯モ恐ラク之ニ応セサルヘク李純王占元陳光遠亦

然ラント答ヘタリ依テ思フニ馮總統ハ對内閣問題ニ就キ責

任内閣タル現内閣ノ主張ニ鑑ミ現今敢テ干渉ケ間敷拳動ヲ

ナササルモ其心中ニ於テハ武力解決ニ賛成シアラサルコト
確実ナリト認ム御参考迄

九八七 四月二十三日 中支那派遣隊司令官ヨリ

上原參謀總長死（電報）

軍費支給ニ關シ段総理ノ各督軍ニ対スル説明

二付 報告ノ件

中支情報第百四十六号

（四月二十四日接受）

段祺瑞ハ二十二日正午ヨリ第二回會議ヲ開キタリ其内容左

ノ如シ

曲同豊先ツ日支交渉ノ經過ニ就テ説明シテ曰ク今次日支協
約条文ハ總統、總理及閣員全体數回討論ノ後日本政府ニ向

テ商議セシモノニシテ其目的ハ外ハ協同シテ獨露ニ当リ内

ハ經濟ノ整理ヲ期シ内乱ヲ治メ陸海軍及警察ノ教練ヲ實行

セントスルニ外ナラス決シテ誤解ナキヲ望ムト次テ段総理

ハ南西各省ニ支給セシ軍費ニ厚薄ヲ生セシカ如キ嫌アリタ

リトセハ中央財政ノ困難ニ原因スルモノニシテ何等親疎ヲ

分チタルニアラスト述ヘ財政次長ヲシテ中央財政困難殊ニ

軍費支出ノ苦衷ヲ説明セシメタリ蓋シ曹、張、王等間ニ軍

費ニ関シ不平アリタレハナリ、次ニ段祺瑞云フ今後ノ討南

局部命令ノ發布及軍事計画ノ籌備等ニ關シ意見ヲ徵シタル

ニ一同默シテ賛否ヲ云ハス只徐樹錚独リ四川廣東ヲ奪取セ

ハ雲貴広西ハ孤立シ全国ノ肅靜容易ナルヲ主張セシノミニ
テ午後三時散会セリ

會議ニ出席セシ各督軍代表左ノ如シ

江蘇 ナオジ トウ 安徽倪道烺、江西冉紹雍、山西 デンオウコウ 、陝西 テウ

奉天徐樹冲

湖南及山東蔣雁行、右ノ外列席者ハ曹錕、王占元、趙倜及
段ノ重要ナル隨行員ナリ

九八八 四月二十七日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

西南討伐ノ見通及平和的妥協ノ困難ニ付馮總

統青木中将ニ談話ノ件

坂極秘第一八二号

(四月二十八日接受)

本日青木中将ハ大總統ト左ノ問答ヲナセリ
一、過日段総理ノ南下ハ其主張タル武力圧迫主義ニ付前敵
將士ト商議ノ為ナラン彼等ハ果シテ之ヲ承諾セシヤ否ヤ
トノ間ニ対シ大總統ハ曰ク會議ノ結果ハ未タ知ラサルモ
予ハ段ノ出發前ニ武力ヲ以テ絶対ニ廣東ヲ圧迫スルハ好
マシカラス單ニ北兵ヲ廣東境内ニ進メ廣東兵トノ連絡ヲ
計リテ李耀漢ヲ蹶起セシメ其力ヲ以テ廣東省ヲ征服スル

会ヲ見ル迄妥協開始ノ見込ナシト慨嘆セリ

九八九 五月一日 後藤外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

段新内閣出現後ノ中國内政ノ動向ニ關シ通報
ノ件

第二三九号

(一)段総理就任後間モナク三月二十六日南軍ハ長沙ヲ撤退シ

同方面ニ於ケル北軍ノ勢威稍振フニ至レル結果從來調停
側ニ立チ居タル王占元(湖北)陳光遠(江西)李純(江
蘇)ノ三督軍ハ北方ノ節制ニ服スルノ態度ヲ示スニ至リ
同時ニ段ハ張作霖倪嗣冲徐樹錚等ノ主戦説ニ傾キ先ツ四
川及廣東ヲ平定シ其上ニテ真ノ妥協ヲ試ミント決心スル
ニ至リタルカ如シ然ルニ曹錕、張懷芝ノ両司令ハ兎角ニ
討伐政策ノ徹底的遂行ヲ喜ハス主和ヲ主張シタル為段ハ

四月二十日北京ヲ発シ漢口ニ到リ曹錕、王占元、張懷

芝、吳光新、徐樹錚其他中支各省代表者等ト會議ヲ開キ
討議ノ結果対西南策ニ關シテハ先ツ湖南湖北ヲ掃討スル

コトトシ若シ西南諸省ニシテ依然反抗ヲ止メサルトキハ
更ニ攻撃ヲ続行スルコトニ決シ、國會問題ニ關シテハ新

二三 中國內政関係雑件 九八九 九九〇

ノ態度ニ止メンコトヲ勧メタルニ段モ略ホ之レニ同意セ
シカ若シ此ノ意味ニ於テ前敵將士ニ説キタリトセハ彼等
ニ於テモ異存ナカリシナラン若シ更ニ進シテ北兵ニ依リ
テ湖北ニ進出スルハ殆ンド不可能ノコトナリ依ツテ之ニ
対シテハ暫ク監視的態度ヲ採ルニ止メ廣東方面一度平定
セハ四川ノ方面ハ自然ニ平定ニ帰スヘク其内ニハ國会ヲ
モ開キ得ヘク約本年八月頃迄ニ國內ヲ統一スルコトヲ得
ハ幸ナリト語レリ

南北妥協ハ固ヨリ望ム所ナルモ如何セン南方ニ誠意ナク
又其代表的人物ナキタメ今直ニ手ノ着ケ様ナシ先キニ段
総理カ職ヲ去リシ時ノ如キ最モ適當ノ時ナリニモ當時ノ
仲介者タリシ岑春煊ノヤリロハ南方ニ偏シ南北交渉中岳
州攻撃トナリ次テ武漢ヲ窺ハントスルノ模様ヲ知リシ為
メ中央政府トシテ面目上止ムヲ得ス兵ヲ進メサルヘカラ
サルニ至リ岳州、長沙已ニ恢復スルモ湖南南部ニ於テ更
ニ反抗ノ態度ヲ改メサルノ現状ニ於テハ更ニ何等カノ機
ノ

国会ハ来ル六月二十日迄ニ選舉ヲ終了スヘキ筈ナレトモ
七月ノ大總統選舉迄ニハ召集或ハ間ニ合ハサルヘキニ付
臨時參議院ニ於テ右選舉ヲ代行スル様各省ヨリ中央ニ電
請スルコトニ打合セ又外交問題ニ關シ段ハ外敵防禦ノ為
日支提携ノ必要ヲ説キ大体会議ノ同意ヲ得タル趣ナリ右

會議終了後段ハ四月二十五日漢口ヲ発シテ下江シ九江ニ
於テ陳光遠ト又南京ニ於テ李純ト会談ヲ遂ケ二十八日帰
京セリ

(二)湖南ニ於ケル北軍ハ四月二十三日衡州ヲ二十五日宝慶ヲ
占領シ江西方面ノ北軍ト協力シテ廣東省境ヲ脅カシ又浙
江、福建聯合軍ハ四月下旬廈門ヨリ廣東方面ニ向テ進発
シタルカ廣東側ニテハ日下之レカ防備ニ腐心シ居ル模様
ナリ

各大使ニ転電アリタシ

九九〇 五月二十一日 在漢口瀕川總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

揚子江流域ノ三督軍ハ南北ノ平和的妥協ヲ切
望セル旨並湖南省ノ討伐ハ困難ナル旨王督軍

ノ意見報告ノ件

第二〇二二号 (五月二十二日接受)

近來南北平和論頻リニ伝説セラルヲ以テ本官ハ五月二十
一日王督軍ヲ訪問シ時局ニ閑シ意見ヲ聞キシニ督軍ノ内話
セル要領左ノ通

自分等揚子江ノ三督軍ハ最初ヨリ平和主義ヲ維持シ常ニ南
北側ト連絡ヲ執リ居中調停ニ尽力シ居タル所岳州ノ陥落後
南方側トノ連絡全ク断絶シ現在ニテハ三督軍トモ南北問題
ニ閑シテハ全然傍観的態度ヲ以テ自ラ南方側有力者ト通信
スル様ノ事ナシト雖モ今後相当ノ時機到達セハ固ヨリ國家
ノ為メ居中調停ノ勞ヲ辞セサルナリ右ノ如キ次第ナルヲ以
テ自分ハ最近ニ於テ平和ニ閑シ何等意見ヲ吐露シタル事無
キモ湖南ノ張督軍ハ此程和議ノ意見ヲ政府ニ電陳シタル由
ナリ張督軍ガ今日ニ於テ殊ニ平和ヲ主張スル所以ノモノハ
蓋シ國家ノ大局上ヨリ打算シタルモノニ非ラスシテ自己ノ
地位ヲ安全ニ保タンカ為ニ出テタルモノナリ即チ湖南ニ於
ケル現在ノ戰闘地域南方ニ偏シ暑熱次第ニ加ハリテ兵員ノ
疲労困憊甚シキト湖南省ノ人民ハ戰争ノ為非常ニ苦シメラ
レ日日平和克復ヲ待チ居ルヲ以テ張督軍カ現在ノ地位ヲ失
ハサランツスルニハ勢和議ヲ主張セサル可ラサルヲ以テ遂

九九一 五月二十三日 在中国林公使ヨリ

後藤外務大臣宛 (電報)

徐樹錚ハ其再南下出發前來訪シテ南下ノ感想
ヲ尋ネタルニ付所見ヲ告ゲ置キタル件

(五月二十四日接受)

第五二五号
五月二十一日再南下ノ途ニ就キタル徐樹錚ハ其出發前本使
ヲ來訪シ本使今回南下ノ感想ニ就キ尋ヌルトコロアリタル
ニ付本使ハ僅一週間位ノ旅行ニテ且会見シタル人モ余り多
カラサレハ充分ノ觀察ハ出來サリシモ若シ強イテ其感想ヲ
述フレハ曹鋗張懷芝張敬堯等何レモ中央ニ対シテ忠実ナル
ハ申ス迄モナキコトナルカ彼等自身ハ何レモ戰線ニ在ラス
唯其配下力(不明)戰線ニ在ルノミ而シテ各方面ヨリノ情
報ヲ綜合スルニ近來軍司令官中此上ノ戰争ハ余リ氣乗セス
若シ適當ノ機會アラハ可成早ク平和的方法ニテ南北ノ統一
ヲ計ラムトノ底意ナルモノノ如ク觀取セラレ殊ニ一般人民
ニ至リテハ直接間接戰爭ノ余累ヲ受ケツツアル為ナラムモ
熱心ニ平和ヲ強望シ各地商務總会ノ如キモ同様ニテ事実ト
ハ反スルトコロアルモ平和攪乱ノ責ヲ全然中央政府ニ帰シ
居ルモノノ如シ、事情斯ノ如キ次第ナルヲ以テ今後漸次署
氣ニ向フト同時ニ軍隊ノ行動モ益々困難トナルヘク万一軍

註 右電報ノ統キハ五月二十二日林公使ト段総理トノ會見ニ閑

スルモノナリ省略ス

九九二 五月二十六日 在中国林公使ヨリ

後藤外務大臣宛 (電報)

極秘裡ニ進行中ノ南北妥協計畫ト西南派内部
ノ分裂情況ニ付梁士詒ノ談話報告ノ件

第七四〇号

(五月二十七日接受)

五月二十五日梁士詒來訪本使南遊ノ感想ヲ承知シ度キ旨懇
請シタルニ付本使ハ往電第七二五号徐樹錚及段総理ニ語リ
タル処ト同様ノ意味合ヲ繰返シタル処梁ハ中央政府カ自ラ

ニ此舉ニ出テタルモノト信ス然レドモ日下段総理ハ湖南省

内ヨリ南軍ヲ掃蕩シ且ツ廣東ノ韶州ヲ占領スルヲ待チ平和
ニ移ルノ時機トナシ居ルガ故ニ張督軍ノ和議説ハ蓋シ中央
ノ容ルル所トナラザル可シ又曹鋗張懷芝モ日下当地ニアリ
テ常ニ自分等ト意見ヲ交換シ居ルヲ以テ両總司令ノ意見ト
揚子江三督軍ノ意見トハ別ニ異ナル所ヲ見スト雖モ常ニ段
総理ノ傍ニアリテ段ノ意見ヲ左右シ居ルモノハ靳雲鵬、徐
樹錚、傅良佐等ナリ彼等ハ何レモ主戰派ノ錚々タルモノニ
シテ段モ右三人ノ為メ動カサレ今日ノ戰争ヲ繼続シ居ルモ
ノナリト依テ本官ハ王督軍ノ所謂和議ノ為尽力ス可キ相当
ノ時機トハ何レノ時ナルヤト尋ネタルニ督軍ハ全線ニ在ル
指揮官等ガ戰争ニ倦ミ又中央政府ニ於テ和議ヲ望ムノ時節
至ラハ自分等モ初メテ調停ノ勞ヲ執ル考ナリト尚今回段総
理ノ使命ヲ帶ヒ當地方ニ來リシ丁士源ノ事ニ閑シ督軍ノ語
ル所ニ依レハ丁ハ元來主戰派ノ人今回湖南ニ赴キ戰争繼續
ノ必要ヲ張督軍ニ勧説スル為メ来リタルモノナリト云フ以
上ノ談話ハ極秘ノ御取扱ヒアリ度シ北京ヘ転電セリ

進シテ南北調停ノ運動ニ着手スル能ハサル事情ナリトテ徐樹錚等ノ語ル處ニ依レバ若シ中央カ積極的ニ右ノ方針ヲ遂行セントスル態度ヲ示サンカ出先軍隊ノ士氣ニ非常ナル悪影響ヲ及ボシ遂ニ收拾ス可カラサル事態ヲ醸スヤモ計リ難キニ付已ムヲ得ス表面ハ南方ヨリ屈伏セサル限り飽迄武力解決ノ決意ヲ装ヒ居ルトノ事ナルカ右ハ至極尤モナルヤニモ考ヘラル然シ之ハ極内密ノ話ナルカ自分等モ可成速ニ内争ヲ熄ムル必要ヲ感シ先般來二三同志等ト談合シテ折角奔走中ナリ唯ダ（脱）困難ハ唐繼堯陸榮廷其他軍政府等幾多ノ党派アリテ統一スル處ナキ為話ヲ纏ムル事頗ル困難ナリ自分等ノ觀察スル處ニ依レハ西南各省ガ護法云々ヲ標榜シ居ルモ右ハ表面上ノ口実ニ過ギス其実各自ノ地位ヲ擁護セントスルニ外ナラス最近自分等ヨリ南方へ派遣シタル重要人物帰来シ（其姓名ヲ秘シテ語ラス）其報告スル處ニ依レバ兩広地方ニ於テ相當勢力ヲ有スル莫榮新、譚浩明、陳炯明、李烈鈞等ノ連中ハ必ラスシモ陸ニ盲従スルモノニアラズ、去レバ仮令陸ト話合ヲ就クルニシテモ同時ニ前記數人ニ対シ如何ナル地位ヲ与フルカ其辺ノ話合ヲ着クル必要アリ去リトテ是等全部人ニ対シ督軍省長等ノ地位ヲ与ヘント

スレハ兩広ニ地丈ケニテハ到底不足スルヲ免カレス之レ第一ノ難問題ナリ又仮ニ是等ノ人物ヲ各所ニ然ル可ク配置スルニシテモ外省人ナルトキハ地方人民トノ折合困難ニテ不遠再ヒ紛擾ヲ惹起スル虞アリ之レ第二ノ難問題ナリ是等ノ諸点ニ閑シ目下同志ト慎重研究中ナリ從テ今後調停運動ガ極メテ順潮ニ進捗シテモ七月上旬頃ニ至ラレハ目的ヲ達スル能ハサル可シト思料スル旨ヲ語リタルカ其前日周自齊モ船津ニ對シ本使南下ノ感想ニ付尋ネタル由ニテ其際船津ハ本使談話ノ大要ヲ告ケタル處周ハ自分等ハ目下梁士詒等同志ノ士ト南北調停ニ閑シ極メテ内密ニ奔走中ナリ過般朱啓鈴ヲシテ表面家事上ノ用向ニ托シテ上海ニ赴キ各方面ト窺ニ折衝ヲ重ネシタル結果西南ノ状勢モ稍々明瞭トナレリ愈々此目的ヲ達シ得ル迄ニハ幾多ノ迂余曲折ヲ経サル可カラサルモ今回ハ自分不日上海ニ赴キ視察旁々奔走尽力スル積リナリト内話シタル由ナルカ彼等ノ調停運動ハ無論段総理ト打合セノ上ナル可ク又其計画ハ先ツ廣東問題ヲ解決シタル上ニテ四川問題ニ移ラントノ意嚮ナルヤニ察セラル

九九三 五月二十九日 在上海有吉總領事ヨリ
孫文外遊ノ南方派ニ与フル影響ニ關シ報告ノ

件

第七八号

同方面ノ真相ハ吾人ノ捕促スルニ苦ミ居ルトコロニシテ

従テ一概ニ可否ヲ進言シ難キモ由來南北妥協ノ唱ヘラレテ

而モ実現ノ難キハ其責任或ハ南方ニ中心ノ認ムヘキモノナ

キニ基因スルカ如ク従テ若シ廣東ニ赴カルコトニ依リ内

部ノ一致ヲ見得ヘキ望アルニ於テハ時局ノ為最希望スルト

コロナルヘキ旨ヲ以テセルニ彼ハ之ヲ首肯シ從来ノ南方ノ

不統一ヲ孫文及其一派ニ帰シ若シ妥協ノ望アルニ於テハ廣

東ニ赴キ總裁ノ任ニ當ルヘキ決心ナリト言ヒ而モ北方ノ状

況ハ尚毫モ妥協融和ヲ望ムノ態度ト認ムルヲ得ストシ居リ

タリ彼ハ御承知ノ如ク袁帝政反対當時ヨリノ行懸ニテ孫文

トハ相互極メテ反感ヲ持シ居レルモノニ付今次孫文ノ外遊

ヲ大ニ歎迎シ居ルモノノ如ク認メラル尚孫洪伊ハ最近意氣

大ニ銷沈セルモノノ如ク其林出ニ語ルトコロニ依レハ孫文

ノ排斥ハ南方ノ一大失策ニシテ其氣勢ノ大頓挫ナリトシ若シ斯ノ如キ結果トナルヲ予想セバ予メ当地在住（脱）ノナ

ルモ遠カラス終ニ後悔スル時アルヘク南方ノ原動力タルヘキ孫文ヲ失フノ其致命傷タルヲ悟ル機会遠カラサルヘシト歎息（脱）シ居リタル趣ニテ孫文ノ外遊ハ孫洪伊等一派ノ失望ヲ招キ岑等ハ為ニ多少ノ得意ノ状ニ認メラル

北京汕頭ヘ電報セリ

九九四 六月三十日 在中國林公使ヨリ

後藤外務大臣宛（電報）

南北妥協及各督軍ノ動向等ニ關シ徐樹錚ノ意

見報告ノ件

第八八〇号

（七月二日接受）

徐樹錚ハ段祺瑞ノ部下トシテ政局ニ対シ最モ活動シ居ル人

物ナルヲ以テ六月二十九日船津ヲシテ徐ヲ往訪シ彼ノ所見

ヲ尋ネシメタル處徐ハ大要左ノ通り内話シタル趣ナリ

（）馮總統ノ隠謀客年十一月馮總統隠謀ノ結果南方三督軍

主和ノ通電トナリ内閣ハ更迭シ長沙岳州ハ遂ニ南軍ノ奪

フ所トナリ是カ為メ段総理ハ非常ナル苦キ経験ヲ嘗メタ

ルハ内外ノ等シク認ムル所ナリ其後段総理再ヒ内閣ヲ組織シ西南ニ対スル画策稍々成績ヲ挙ケ是ヨリ更ニ良好ナ

ヲ擁護センカ為メ甚タ面白カラサル隠謀ヲ企テタリ即チ

曹錕ニ食ハスニ副總統ノ地位ヲ以テシ其代リ馮ヲ再ヒ大統領ニ選挙スルコトニ閔シ曹ヲシテ奔走セシムル為メ私

カニ直隸省議會議長卞蔭昌ヲ漢口ニ遣ハシ曹ヲ説得セシ

メタル處曹ハ直ニ之ニ応シ更ニ進ンテ主和ノ通電ヲモ發

セントセリ自分ハ此事ヲ探知スルヤ是ハ由々敷キ一大事

ナリト考ヘ急遽漢口ニ赴キ此際輕舉冒動ノ曹自身ニ閔シ

テノミナラス大局上甚タ不得策ナルヲ極力説明シ主和ノ

通電文ケハ之ヲ食ヒ止メ更ニ吳佩孚張敬堯等ニ向ツテ曹

督軍カ從来ノ方針ヲ遂行シ南方討伐功ヲ奏シ南北統一ノ

実ヲ挙クルニ至ラハ輿望ハ自然曹ニ帰シ副總統ノ地位ノ

如キハ求メスシテ自カラ之ヲ得ヘキモ若シ此際主和ノ通

電ヲ發シ春秋ノ覆轍ニ陥ル如キコトアラハ中央政府ノ威

信全ク地ニ墮チ時局ハ終ニ收拾スヘカラサルニ至ラン其

時ニ至リ曹督軍仮令副總統ノ地位ヲ贏チ得タルニセヨ徒

ラニ虛名ヲ擁スルニ過キス結局失敗ニ終ランノミトテ大

局上ヨリ利害得失ヲ説示シタルニ吳ハ大ニ自分ノ説ニ服

シ今後曹督軍ヨリ如何ナル命令アルトモ輕々敷妄動セス

慎重ニ行動シ決シテ累々大局ニ及ホスカ如キコトナカル

ヘキヲ誓ヘリ、是レ今回曹力病ト称シテ（重キニアラサルモ事実病氣ナリ）天津ニ引揚ケタルモ其ノ軍隊ハ依然前線ニ駐マリ少シモ動搖セサリシ次第ナリ

（二）廣東ノ恢復ハ絶対必要 裏ニ曹錕、張懷芝等カ北軍ヲ率

ヒテ南下スルヤ岳州長沙ノ恢復ヲ以テ目的トスル旨ヲ内

外ニ声明シタリ今ヤ既ニ一目的ヲ達シタル為曹、張等ガ

北帰ヲ欲シ又軍隊一般力前進ニ氣乗リセサル如キ風アル

ハ無理ナラヌ次第ナリ、效ニ於テ過日來天津ニ於テ數次

ノ會議ヲ重ねタル結果今日ノ如ク南方側ニテ何等妥協的

態度ヲ示ササル限り終局ノ目的ヲ達スルニハ更ニ進ンテ

四川廣東ヲ克復スル外致方ナキコトヲ決議シ曹、張等モ

十分之ヲ納得セリ、且ツ廣東、四川ハ支那全國中最富饒

ノ地ニテ此ノ兩省無ケレハ中央政府ノ財政ハ到底独立ス

ル能ハス故ニ此ノ兩省ヲ中央政府ノ手ニ収ムルコトハ單

ニ國內ノ統一ヲ計ル為必要ナルノミナラス支那ノ國家ト

シテ存立上絶対必要ナリ然レトモ中央政府現今ノ実力ニ

テハ兩省ヲ一時ニ恢復スルコトハ到底不可能ナルヲ以テ

四川ニ対シテハ差当リ守勢ヲ採リ南軍ノ北進ヲ防クニ止

メ全力ヲ廣東ノ奪回ニ注ク計画ナリ廣東一度克復スレハ

四川ノ平定ハ容易ナリ今ヤ張懷芝ハ漢口ニ赴キ（脱）江

蘇、江西、湖北等各督軍ニモ中央政府意ノ在ル所ヲ篤ト

転達シ廳テ彼ハ其ノ總司令部ヲ大庾鎮迄前進セシムル

筈、曹錕モ病氣全快次第岳州迄前進スルコトニ詰合濟ナルモ之ハ都合次第ニテ变更スルコトアルヤモ計リ難シ

竜濟光ハ新兵ノ募集緒ニ就ケハ再ヒ廣東ニ引返ス筈、今

回募集ノ新兵ハ約四五干ニテ大部分元巡警ナルヲ以テ訓

練ニハ甚シキ手数ヲ要セサル見込ナリ何レニシテモ新兵

ハ後方勤務ニ当ラシムル筈ナレハ差シタル不便ナカルヘ

シ輸送ハ頗ル困難ナルモ上海迄（脱）鐵道同地ヨリハ嘗

テ浙江軍ヲ福建ニ輸送シタル方法ニ依リ全部民船ニテ適

当ナル地点迄輸送スル計画ナリ

（三）陸建章ノ銃殺ニ閔シテハ世間種々ノ批難アル如キモ自分

ハ決シテ私怨ノ為ニ斯ノ如キ拳ニ出テタルニアラス陸ガ

土匪ト結託シ或ハ軍隊ヲ煽動シテ徒ラニ内訌ヲ醸シタル

実跡歴然タルモノアリシノミナラス現ニ彼カ今回突然天

津ニ来リシハ某大官（暗ニ馮總統ヲ意味スル口吻ヲ洩ラ

セリ）ノ密旨ヲ受ケテ時局ヲ攪乱セシカ為ナリシコト疑

ナキヲ以テ自分ハ國家ノ爲已ムヲ得ス断然タル措置ニ出

テ完全ニ南方ヲ圧服ゼンコトハ中央政府カ此上充分ノ軍費ト軍器弾薬ノ補給ヲ得サル限り頗ル困難ナリト思料セラル

段總理モ此辺ニ想到ゼシニヤ過日來陸榮廷ト晤懇ナル將ノ意図ヲ叩キ出来得ヘクンハ妥協ヲ実現セシメント企画

軍府參軍林紹斐（陸軍中將）ヲ窺ニ広西ニ遣ハシ直接陸居ルモノノ如シ而シテ一面梁士詒モ（段ノ意図ヲ受ケ居ルモノト推測セラル）其信賴セル閻冕鈞（是亦陸ト懇意ナリ）ヲ陸ノ許ニ遣ハシ側面ヨリ妥協促進ヲ計画シ居模様ナルヲ以テ目下南方モ北方同様最早ヤ戰闘ニ倦ミ居ル状態ニ見受ケラルニ付或ハ何等カノ形式ニテ中央政府ト陸榮廷トノ間ニ一種ノ了解成立スル事アルヤモ計リ難シ現ニ六月二十八日本使カ梁士詒ニ会見シタル際同人ハ今回新国会成立ノ後尚南北妥協ノ端緒ヲ見ル能ハサルトキハ總統選挙ハ後廻シトシ先ツ憲法ノ討議ニ着手シ總統選挙問題ヲ一掃シテ南北妥協ヲ促進セシメ度キ希望ナル旨ノ意見ヲ述ヘタル事アリ察スルニ段總理ヲ始メトシ梁士詒ノ如キモ中央政府現今ノ状態ニテハ武力ノミヲ以テ終局ノ目的ヲ達スル事極メテ困難ナルヲ自覺シ居ル

九九五 七月五日

在廣東太田總領事（ヨリ）

日本ノ段祺瑞援助ヲ非難スル岑春煊ノ談話ニ

関シ報告ノ件

（七月七日接受）

岑春煊ハ冷邁、張厚生、金兆棟及襄ニ督軍国会及李根源ノ使トシテ岑ノ南下ヲ請フ為上海ニ赴ケル梁士模、馬謙、張群ト共ニ七月三日朝広東着一時督軍署ニ入レリ、岑ノ希望ニ依リ七月五日本官同人ニ面会シタル處大要左ノ通語レリ日本カ南北調停ヲ希望シツツアルハ諒トスル所ナアルモ較々時機ヲ失シ現在ノ状態ニテハ困難ナリ初メ南軍湖南ニ敗レサリシ際ナラハ調停ノ見込アリシモ其後日本ノ北方援助ニ依リ北方ハ勢ヲ得飽迄武力解決ヲ主張シ到底妥協ノ誠意ナク予ハ冀ニ南北調停ニ尽力シ馮大總統ニ対シテモ屢々北方ガ護法ニ依リサヘスレハ南方モ飽迄反抗スルモノニアラサルニ依リ非法ヲ改メンコトヲ勸告セシモ容レラレス近ク北方カ南方討伐ノ決心愈々堅ク到底調停ノ見込ナク是レト同時ニ南方ヨリ頻リニ来粵ヲ督促シ来リシヲ以テ今回南下ス

ルニ至リタリ然レトモ現在ニ於テモ調停ノ見込全然ナキニアラス即チ日本カ北方援助ヲ止メ南方ヲ援助スルニ至ラハ北方モ南方討伐ノ不能ヲ悟リ南方ノ主張ヲ容レ以テ妥協成立スルニ至ルヘシ若シ日本カ依然北方ヲ援助スルニ於テハ妥協ハ到底見込ナシ南方ハ仮令日本ノ援助ナクトモ地ノ利ト人ノ和トヲ得居レハ全力ヲ竭シテ抵抗スルニ於テ北方ハ南方ヲ討伐シ尽スコトヲ得ス何年モ混乱ノ状態ニテ統クヘシ日本カ支那ヲ代表スル中央政府トシテ北京政府ト種々交渉シ其ノ結果北方ノ援助トナルハ日本ニ取リテハ已ムヲ得サル次第ナルヘキハ予モ深ク諒トスル所ナルモ唯其ノ政府カ法ニ依ルモノナルヤ否ヤヲ見テレタク段祺瑞ハ民国ノ生命タル国会ヲ破壊シ法ヲ破り只管武力ヲ以テ天下ヲ統一セントス其ノ不法ナルハ南方人ノミナラス北方人モ之ヲ認メヲ援クルト斎シ是レ支那国民ノ人心ヲ得ル所以ニアラスト

思ハル南方ハ飽迄法ニ依ル故ニ人心一致モ難カラス今回各方面賛成ノ下ニ新ニ軍政府ヲ組織スルコトトナリ遠カラス成立スペク且国会モ昨日（ヨダイチヨウ）ノ談ニ依レハ現在法定數不足數僅カ三十余名ニ過キス併モ尚更ニ七十余名來粵ノ見込

九九六 七月十日

在上海有吉總領事（ヨリ）

孫文香港ニ來着セル梁士詒トノ会談ニ関シ林

出ニ語リタル件

（七月十二日接受）

梁士詒ハ一昨八日朝南京ヨリ來着昨九日「エムプレス、オフ、ジャパン」号ニテ香港ニ向ヘリ滯在中孫文、孫洪伊等国民系及商人側ト主トシテ会談セル様子ニテ昨日孫文カ林

出ニ語ル所ニ依レハ梁ノ南下ハ令嬢結婚ノ為メト称スルモ実ハ北京ニ於ケル彼レノ運動ノ結果思ハシカラス殊ニ馮、段ノ軋轢益甚シク遠カラス決裂ヲ見ルヘキ運命ニ在リ其間北京ニ於ケル梁ハ双方ノ板挟トナルヲ恐レ一時南方ニ避ケタルモノト見ルヘク同人ト会談ノ節自分ハ廣東ニ於ケル旧国会召集ハ開会シ得ル迄ニ法定数ニハ達スヘキモ憲法制定乃至總統選挙ニ必要トスル多數ニ達スヘシトハ考ヘラレス而カモ若シ之ヲ北京ニ召集サルルニ於テハ四分ノ三以上ノ議員ヲ集メ得ルノ容易ナル実情ヲ述ヘ此際段祺瑞ノ總理タル地位ヲ保障シテ旧国会ヲ北京ニ召集セシムルニ於テハ南方亦反対ノ効果ナカルヘク東亜ノ大局ニ照シ時局解決上最上ノ策ト考フル旨ヲ披陳セル所彼レ梁ハ右ノ良策タルニハ同意セルモ到底段ノ承諾ヲ得難カルヘシト為シ、元ト段ハ旧国会ニ対シ元來悪感ヲ有セルモノニアラサルモ当初谷鐘秀張耀曾等ヲ遇信シ之レニ壳ラレタル關係上昨今多少了解シ始メタルカ如キモ今尚之レニ不快ノ念ヲ有シ居レルハ事実ニ付容易ニハ首肯セサルヘシトハ考フルモ而カモ若シ日本ニシテ彼レニ必要ナル勧告ヲ与フルニ於テハ恐ラク右ニ同意スルニ至ルヘシト語レリト云ヒ旁時局ノ重要ナルニ鑑

機密公第四三号
(七月二十三日接受)

大正七年七月十八日 在奉天

外務大臣男爵 後藤新平殿

張督軍及楊參謀長ノ談話報告ノ件

本月十五日張督軍及楊參謀長ヨリ聽取シタルモノナリトテ当地菊池軍事顧問ヨリ別紙ノ通内報有之候處右ハ西比利亞出兵問題ニ対スル張ノ意向、大總統選挙ニ対スル周自齊等ノ活動事情等ヲ窺知スルニ足ルモノト被認候ニ付御参考迄別紙供貴覽候 敬具

(附屬書) 菊池軍事顧問内報

今十五日張督軍ト閑談シタルカ督軍ハ兩三日来下痢症ニ罹リ稍衰弱ノ体ニテ余リ時局問題ニハ触レサリシカ彼ハ只欧洲戰ニ就テ新報ナキヤトテ其ノ形勢ヲ知ランコトニ腐心シ又盛京時報カ馮玉璋独立セリトノ虚偽ノ号外迄發行シ南方

ミ段ニ適當ナル勧告ヲ試ミラルカ然ラサレハ絶対不干涉ノ態度ニ出テ借款等迄モ全ク(脫)又孫洪伊ハ梁ノ南下ハ北京ニ於ケル徐世昌ヲ總統ニ選挙セントスル彼レノ運動安福俱樂部等ニ押サレ拂々シカラサル為メ南方ニ地歩ヲ占メ妥協運動ト将来ノ立場ヲ獲得セントノ野心ニ外ナラサルコトハ第一次革命ノ唐紹儀、今次ノ岑春煊等ノ心事ト異ナルコトナシト推断シ居リシカ妥協乃至調停ニ下心ヲ有スルコトハ何レモ之ヲ認メ居レリ、尚孫文カ段ノ地位ヲ確保シ旧国会ノ召集ヲ為サシメテ以テ南北妥協セントノ意見ハ陸榮廷等ニ對スル反感ノ結果ト解サルヘキモ又彼レカ若干事實南北争闘ノ非ヲ悟リタルモノトモ認メ得ヘク彼レハ段ノ性格殊ニ胆力ヲ推賞シ日本政府カ段ヲ支持セラレタルモノ亦一隻眼アリトスヘク此上彼レニ勧告シ旧約法ヲ守ラシメラルルニ於テハ飽迄彼レニ後援シテ統一ヲ計ラルコト又彼我ノ利益ナリト為シ居タル趣ナリ

北京廣東香港ヘ電報セリ

九九七 七月十八日 在奉天赤塚外務大臣宛事ヨリ
大總統選挙其他時局ニ關スル張作霖楊宇霆ノ

派ノ走狗トナレリトテ憤慨シ西比利出兵ニ就テハ何カ緊急ノ必要アリヤトテ其ノ不同意ヲ暗示シタルノミナリキ又楊參謀長ト対談シタルニ楊ハ議員選挙ハ湖南湖北兩省ノミ未了ナルカ来ル十八日ニハ完了スル筈ニテ政府ハ八月上旬中ニ參衆両院議員ノ出京ヲ命令セリ余ノ觀察スル所ニ依レハ徐世昌ノ大總統當選ハ概ね成効スヘシ曹錕ノ副總統選挙ニ就テハ曹ハ其ノ任ニアラストテ他二人アルヘキヲ暗示シ且曰ク曹從来ノ態度ニテハ恐ラク多數ノ同情ヲ暗示能ハサルヘシト楊ハ尚語ヲ統ヶテ曰ク只最モ恐ル所ハ各省ノ督軍省長ナル者ハ由來學識定見ナク一利ヲ見レハ直ニ之ニ移ルノ徒ニシテ動モスレハ豹変スルノ憂アルコト之ナリ故ニ片時モ油断シ難シト周自齊ノ孟督軍訪問ニ付其ノ真相ヲ叩キタルニ楊ハ支那政界ノコトハ実ニ複雜ニシテ名状スヘカラサルモノアリ由來交通系中ニ新派旧派即チ曹派梁派ノ兩派アリ而シテ旧派ハ梁士詒ヲ中心トスルモノニシテ徐世昌ノ大總統タルコトニ就テハ依然軍閥ノ壟斷ヲ免レサルモノトナン内々反対ノ意向ヲ有シ又曹汝霖等ヲ中心トスル新派ハ徐世昌ト堅ク相提携セルモノニシテ周自齊ハ其ノ旧派ニ属ス今回ノ吉林行モ蓋シ大總統選挙ニ關シ深ク裏面

ノ消息アルモノト観測ス、昨夜陳文運吉林ニ赴ケリ陳ハ純然タル段派ナリトテ吉林カ此ノ際徐世昌ノ大總統選挙ニ関シ隠謀ヲ企テツツアルコト語レリ

徐樹錚來奉説ニ付キ糺シタルニ楊ハ昨夜徐ヨリ来電アリ或ハ四五日内ニ來奉スルヤモ計ラレスト答ヘタリ。

九九八 七月十九日

斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

西南討伐ノ挫折大總統選挙ヲ繞ル安福俱樂部

ト交通系ノ内訌ノ風説ニ関スル徐樹錚ノ説明

報告ノ件

支極秘第三八九号

本日徐樹錚來訪近時対南計画ノ挫折或ハ大總統選挙ニ関シ安福俱樂部ト交通系間ニ内訌アリ等種々ノ浮説流布サルニ依リ此際日本ノ誤解ヲ招カサランカ為貴國公使及貴官ニ對シテ実況ヲ説明セントス不明ノ点ハ忌憚無ク質問セラレタシト提言セリ本職カ公使ト共ニ彼ヨリ聽取リタル要旨左ノ如シ

一、対南計画ハ予定ノ方針ニ従ヒ進捗シツツアリ在湖南奉天軍ハ去ル十四日ヨリ運動ヲ起シ永興ニ向ヒ前進中ナリ

(七月二十日接受)

竜濟光ハ二旅ノ兵ヲ募集シ兵器ヲ得次第海南島ニ向ヒ出發ス但目下雷州及海南島ニ於テハ攻勢ヲ取ル余裕ナキモ守勢ハ常ニ勝利ヲ収メツツアリ
王占元、曹錕等モ目下主和ノ意見ヲ全ク放棄セリ、李純ハ監視ヲ要ス、陳光遠ハ常ニ李純ノ言ニ従フ此兩督軍共目下差当リ反抗ノ氣勢無シ

二、總統選挙ハ予期ノ通り安福俱樂部交通系優勢ヲ占メ総

統ニハ絶対ニ徐世昌ヲ推ス副總統ハ之ヲ決定セス若シ曹

錕カ經略使ノ任務ニ成功セハ彼ヲ推スニ咨ナラス

三、吳佩孚ハ媾和ヲ主張スルニアラズ軍ヲ招撫スル計画ヲ

立テ長江各督軍ニ通報シタルハ事実ナリ然ルニ自己ノ

(不明)為メ妥協論者ト誤ラルニ至レリ彼ノ正面ニハ

一両日前ヨリ南軍約一千人来襲シ目下之ニ応戦シツツアリ

九九九 八月一日

在中国公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

中央政府ノ対南方政策ト曹錕ノ態度ニ關シ曹

汝霖ノ船津ニ対スル内話報告ノ件

第一〇一八号

(八月二日接受)

七月三十一日船津ガ曹汝霖ニ面会シタル際同人ハ中央政府ノ対南方政策ハ南方ガ進ンデ妥協的態度ヲ示サバ限リ飽迄圧迫ヲ加フル決心ナルニ拘ハラズ軍事当局者ノ態度甚ダ煮切ラス曹錕ノ如キ中央当局ヨリモ再三南下ヲ要請セルニ今猶ホ言ヲ左右ニ托シテ動カズ之ガ為メ中央ノ対南政策ニ非常ナル悪影響ヲ及ボシ其間軍費ノ支出ハ停止スル訣ニハ行カサルノミナラス漸次増加シ財政ノ衝ニ当ル自分トシテハ実ニ焦慮ニ堪エサルモノナリ今回張作霖カ天津ニ来リシハ種々軍事上打合ノ必要アリシハ勿論ナルモ此際是非曹錕ヲシテ南下セシム様勧告ヲ試ムルハ其ノ最モ重ナル用向ナリト語リタル趣ナリ

本職ハ彼ニ対シ種々質問ヲ試ミタルカ其答弁概不領ヲ得

タリ從テ其ノ述フル所ハ概不実況ニ近キモノナリト認ム

江西方面ニ於テハ安武軍既ニ大庾嶺附近ニ到着シアリ奉天軍ノ前進進捗ニ伴ヒ一齊ニ韶州ニ向ヒ前進スル筈但シ計画実行ノ遲緩ハ左ノ原因ニ因ル

イ、袁世凱帝政實行ニ當リ軍隊反抗ヲ恐レ師、旅団長ノ権力ヲ殺キ統一的關係ヲ破壊セリ之カ為其弊害ノ矯正困難ナルコト

乙、曹錕張懷芝帰京ノ為メ大打擊ヲ受ケタルコト

ハ、湖南方面ノ軍隊連繫ヲ規正スル為過般來會議ヲ開キ

福州ニ帰リ童保暄代シテ指揮ヲ取ル第九師ノ増援兵到着ヲ待チ前進スル筈

竜濟光ハ二旅ノ兵ヲ募集シ兵器ヲ得次第海南島ニ向ヒ出發ス但目下雷州及海南島ニ於テハ攻勢ヲ取ル余裕ナキモ

守勢ハ常ニ勝利ヲ収メツツアリ

王占元、曹錕等モ目下主和ノ意見ヲ全ク放棄セリ、李純ハ監視ヲ要ス、陳光遠ハ常ニ李純ノ言ニ従フ此兩督軍共

目下差当リ反抗ノ氣勢無シ

總統選舉ニ対スル策動ニ付具申ノ件

第一一四二号

(八月二十九日接受)

左ノ通り内話セリ
段總理ハ今尚ホ南方ニ対シ武力圧服ノ方針ヲ遂行スル決心
ナルモ自分ガ今回南方視察ノ結果推測スル所ニ拠レハ段ノ
政策ハ理想トシテ何等反対ノ余地ナキモ實際ニ於ケル南北
ノ実情ヨリ云ヘバ其成功覚束ナシ故ニ大總統選舉モ時日ナ
キニ付總統ノ改選ヲ機会トシテ中央政府ノ方針ヲ一変シ平
和的ニ南北ノ統一ヲ図リタラムニハ或ハ之ヲ実現シ得ヘキ
カト思量ス勿論西南各省ハ陸榮廷、唐繼堯及岑春煊、唐紹
儀等互ニ聯絡ヲ有スル如クニシテ其实未タ充分ノ一致ヲ見
ル能ハス從テ誰ヲ相手トシテ統一ニ関スル相談ヲ開始進行
セシムベキヤハ頗ル難問題ナルモ今後徐世昌愈々大總統ニ
當選スルコト、ナラバ同氏ニ於テ之ニ適応スル方法ヲ案出
スルナラント信ス目下ノ形勢ヨリ察スレバ次期ノ大總統ハ
徐世昌ノ当選殆ト疑ナク南方派モ徐ノ大總統タルコトニ對
シテハ格別異存ナキガ如シ自分ハ今回南方ヨリ帰京後或ル
宴会ノ席上徐世昌ニ会合シタルノミニテ未タ同人ト時局問

徐氏仮令南方トノ折合ヒヲ可クシ得ルトモ大局上ニ於テハ
支障ヲ生ズルコト有ルベシ、從ツテ徐世昌大總統就任後内
閣改造セラルルト雖モ段祺瑞ノ如キハ軍事方面ノ要務ヲ担
任セシメ地方督軍連ヲ操縱セシムルコト得策ナラント考ヘ
ラル此辺ニ対スル貴下ノ所見如何ト尋ネタルモ之ニ対スル
梁ノ返答ハ唯其辺ハ大ニ考慮スヘキモノナリトノミニテ何
等明確ナル返事ヲナササリシ所ヨリ察スレハ時局解決ノ方
法ニ関シテハ彼モ未タ何等ノ成竹ナキモノノ如クナリシ一
面諸方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ馮総統ハ表面次期ノ大統
統ハ徐世昌最モ適任ナリ自分ハ断シテ重任ヲ望マスト声明
シ居ルモ其実過般來極メテ陰密ナル手段ヲ以テ議員ヲ買収
シ大總統選舉ノ際出席議員法定數ニ達セサル様ニシテ選舉
ヲ遷延セシメ一面吳佩孚、張宗昌、馮玉祥等ヲシテ引続キ
主和ノ運動ヲナサシメ長江三督軍ヲシテ陰ニ陽ニ之ヲ援助
セシメ以テ其間ニ南北ノ形勢ヲ自分ニ有利ナル様ニ変化セ
シメント腐心シ居ルハ最早疑フヘカラサル事實トナリ從テ
此後ノ政局ニ対シテハ十分ノ注意ヲ払フ必要アリト存ス
右何等御参考迄ニ(二十八日)

題ニ関シ篤ト意見ヲ交換スル機會ナキモ自分ハ南方有力者
ト多少ノ聯絡モアリ從テ南方ニ対スル意見ヲ有シ居ルモ自
分カ今回參議院議長ニ當選シタルヲ幸ヒ先ツ充分ニ北方ニ
於ケル在野政治家ノ時局ニ対スル意見ヲ普ク徵シタル上ニ
テ南北統一ニ關スル具体的方案ヲ立テ然ル後徐ト會見協商
ヲ遂ゲタキ所存ナリ自分ハ徐ト多年ノ親交有ルノミナラズ
徐ハ自分ノ先輩ナルヲ以テ徐ニ対シ出来得ル丈ケノ援助ヲ
与フル覺悟ナリ唯ダ茲ニ一ノ困難ナル問題ハ副總統選舉ニ
際シ自分ハ之ヲ以テ南北統一問題ノ解決上有力ナル調節材
料トスル下心ナルモ候補者ヲ定ムルニ當リ陸榮廷、岑春煊
ノ内何レヲ選ブベキカニ関シ大ニ迷ヒ居レリ、岑ハ曾テ両
廣總督トシテ陸ノ上司タリシコトアリ其閱歷、声望ノ点ヨ
リスレバ遙ニ陸ノ上ニ在リ、然共現在ノ實力ヨリスレバ陸
ハ岑ヨリ勝ルコト云フ迄モナク從ツテ岑ノ下風ニ立ツコト
ヲ甘ンゼザル可ク、其他約法問題ノ如キモ之ヲ解決スルニ
ハ幾多ノ曲折ヲ要スベシ云々ト語リタルニ付本使ハ更ニ徐
世昌大總統當選後俄ニ從来ノ方針ヲ変更セントセバ段總理
トノ調和ヲ如何ニ保ツヤ若之ガタメ督軍其他軍界ニ相當ノ
勢力ヲ有スル段總理トノ關係面白カラザルコトトモナラバ
世昌大總統當選後俄ニ從来ノ方針ヲ變更セントセバ段總理
トノ調和ヲ如何ニ保ツヤ若之ガタメ督軍其他軍界ニ相當ノ
勢力ヲ有スル段總理トノ關係面白カラザルコトトモナラバ
ヲ甘ンゼザル可ク、其他約法問題ノ如キモ之ヲ解決スルニ
ハ幾多ノ曲折ヲ要スベシ云々ト語リタルニ付本使ハ更ニ徐
世昌大總統當選後俄ニ從来ノ方針ヲ變更セントセバ段總理
トノ調和ヲ如何ニ保ツヤ若之ガタメ督軍其他軍界ニ相當ノ
勢力ヲ有スル段總理トノ關係面白カラザルコトトモナラバ
現職ヲ退クコトアル場合ニハ從來軍界ニ最重キヲ為セル同

一三 中国内政関係雑件 一〇〇

一〇三一

氏ノコト故今後軍方面ノ要職ニ転シ引続キ國家ノ為尽瘁セラルコトセバ支那ノ為極メテ好都合ナルヘキコト等曾テ寺内總理ト話合タルコトアルガ自分ハ是迄段總理ノ武力解決ノ方針成功センコトヲ希望シ居タルモ前線ニ在ル將卒ハ一向段總理ノ苦衷ヲ諒察セサルモノ、如ク躊躇逡巡殊ニ曹鏡ノ如キ尚保定ニ止マリテ進マス縱令不日前進シタリトテ彼カ是迄ノ如キ態度ニテハ到底南方圧迫ノ目的ヲ達センコト覚束ナク今ヤ段總理当初ノ計画ハ或ハ全然失敗ニ終ルコトナキヤヲ懸念セラル如キ形勢トナレリ故ニ段總理ハ遠カラス自身馬ヲ進メテ既定ノ目的ヲ達スル迄勇往邁進スルカ或ハ潔ク責ヲ負フテ隱退スルノ二者其一ヲ選ハサルヘカラサル羽目ニ陥ルコトナキヤト懸念セラルニ付此際予メ今後ニ処スル適當ノ方法ヲ講シ置クコト肝要ナルヘシト存ス是迄段總理ト会談ノ際前述ノ如キ意味合ヲ洩シ其注意ヲ喚起シタルコトアルモ尚貴下ヨリモ改メテ伝達アリタシト述ヘタル所餘ハ至極同感ナリ段總理亦曹鏡張懷芝等カ到底段總理ノ趣旨ヲ遂行シ得ルノ器ニアラサルヲ知ルモ中央カ表面今日迄此二人ニ対シ公等出スンハ蒼生ヲ如何セント云ハヌ計リノ態度ヲ示シタルハ第一新國會議員選(脱)第

二大總統選挙ヲ終ル迄ハ縱令積極的ニ彼等ヲ利用スル能ハサル迄モ消極的ナリトモ之ヲ利用スルコト絶対必要ナルカ為メナリ如何トナレハ若シ段總理ニシテ曹張兩人ノ無能ナルカ為メ之ヲ用ヒサランカ彼等ハ直チニ段總理ノ反対側ニ立チ必スヤ長江三督軍ト氣脈ヲ通シテ馮總統ノ利用スル所トナリ其結果南方討伐成功セサルハ勿論新國會議員及ビ大總統ノ選挙共ニ失敗シ大局上由々シキ事態トナルノ虞アリシニ付キ今尚ホ引続キ隠忍以テ曹、張等ノ言フガ儘ニ従ヒ之ヲ操リ居ル次第ナリ、サレバ今後大總統ノ選挙ヲ終リ大局ノ見据付クニ至レバ直ニ吳佩孚等ニ對シテモ断然タル処分ヲ行フ決心ナリ将又新總統愈就任ノ暁ニハ南方ニ對スル中央政府ノ政策モ自然変化スルニ至ル可ク従テ段總理ハ現職ヲ退キ御説ノ通り今後專ラ軍事方面ノ事ヲ担任スル事トナル可シ、或ハ何等カノ名義ノ下ニ南京或ハ武昌ニ駐劄シ中原ノ重鎮トシテ各省軍界トノ連鎖トナリ以テ極力徐總統ヲ擁護援助スル事トナルヤモ計リ難シ今日迄ノ處段ト徐氏トノ關係ハ極メテ良好円満ナルモ兩者ノ性格等ヲ考慮スル時ハ今後果シテ永ク此關係ヲ持続スルヤ否ヤ疑問ナリ現ニ段總理ハ囊ニハ黎總統ト事ヲ共ニシテ其終ヲ能セズ後ニハ寺内總理並閣下ヨリ祝電ヲ寄セラル、様致タク無論御氣附トハ存スルモ為念申添フ

ニ馮總統ト事ヲ共ニシタルガ多年ノ旧友タルニ拘ラズ遂ニ今日ノ如ク水炭相容レザル間柄トナレリ若シ今後徐氏ト事ヲ共ニシテ三度失敗ニ終ランカ世人ハ必ズ其罪ヲ段總理ニ帰スルニ至ラン何レノ点ヨリ見テモ段總理ハ新總統選挙ト共ニ断然政治界ヨリ退キ専ラ軍事方面ニ在リテ奔走スル方自身ノ為又世ノ為得策ナリト信ズルニ付自分ハ段總理ニ向テ極力忠告スル積リナレバ必ス実現サルルニ至ラン云々ト語リタリ。

一〇〇一 九月三日 在中國公使ヨリ

後藤外務大臣宛(電報)

大總統選挙ニ徐世昌當選ノ場合首相及外相ヨ

リ祝電発送方ニ閔シ稟申ノ件

(九月五日接受)

第一一七六号

一〇〇二 九月三日 在中國公使ヨリ

後藤外務大臣宛(電報)

徐世昌大總統當選ニ付祝意表明方ノ件

第七三八号

徐世昌大總統ニ當選ニ際シ茲ニ不取敢祝意ヲ表ス右私電ト

シテ伝達方可然御取計アリタシ

一〇〇四 九月八日 在奉天赤塚總領事ヨリ

後藤外務大臣宛(電報)

張作霖ヲ東三省巡閱使ニ任命ノ件

第二三七号

一三 中国内政関係雑件 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四

一〇三一

在支公使發本官宛電報

第一〇〇号

張作霖ヲ東三省巡閱使ニ任スル旨九月七日付大總統令ヲ以

テ 公 布 セ ル

外務大臣、長春、哈爾賓、齊々哈爾、吉林へ転電アリタシ
三八五(一九三九年四月)

一〇〇五
九月十一日

同七子房、彌衡、支

大綱就任二件、南北妥協ノ形勢、段祺瑞ノ主戦論等ニ関スル岑春煊ノ談話報告並章士釗渡日ニ際シ便宜供与セラルベキヤ問合二付

第一三八号

九月十日本官岑春煊ヲ訪問シ北京新国会カ徐世昌ヲ大總統

ニ選挙シタルコトニ対シ南方ノ態度竝時局解決ニ関スル岑
ノ意見ヲ質シタル所岑ハ大要左ノ通語リタリ
徐世昌ノ大總統タルコトハ徐氏個人ニ対シテハ何等反対ス
ル限リニアラサルモ非法ノ機關タル新国会ノ選出ニ依リ大
總統タルコトハ我等南方ハ絶対ニ之ヲ承認セヌ单ニ南方ノ
ミナラス北方軍隊中ノ吳佩孚柳春進（江蘇軍師長）等前敵

方ニ於テハ段ノ去ルト共ニ武力解決主義ヲ捨テタル姿ニシテ南北妥協ノ最好時機ナル如ク思惟スルハ一応尤モノ次第ナルモ然シナカラ北方ハ尙中央政府ノ威ヲ以テ命令的ニ南分ノ考ニテハ対等ノ資格ヲ以テ双方ヨリ名望アル全權代表ヲ出シ相当ナル地點ニ於テ議和談判ヲ開キ南北紛争ニ関スル有ラユル問題ヲ解決スルヲ以テ最モ有力ニシテ且永久的ナル平和解決法ナリト思惟ス為之ニハ各國ノ軍政府承認ヲ

日本政府カ段祺瑞ヲ援助シテ以来南方ノ日本ニ対スル感情ハ良好ナラス尤モ日本カ誠意南北統一ヲ希望スル苦衷ハ諒トスルモ段ノ力ニ依リテ統一セントセシハ誤ナリ段ハ国内ニ於テハ左程ニ勢力アルモノニ非ラス自分モ初メ上海ニ於テ頻リニ南北妥協ニ尽シタルモ段ハ日本ヨリ軍器及借款ヲ得テ氣勢当ル可カラス且同時ニ南方ヨリ頻リニ來粵ヲ請ハルルヲ以テ已ムヲ得ス南下シタリ日本ハ段ノ壯言大語ニ誤ラレタルナリ段ハ二週間ニシテ南方ヲ討伐ス可シ遅クトモ二ヶ月ニシテ平定ス可シト放言シタルモ其二ヶ月ヲ経タル現状ハ如何今日江西方面ノ北軍ハ戰ハス福建ハ既ニ南方ニ

ガ南方軍政府ヲ承認セラレンコトヲ請フ、日本カ首先承認及
ヲ新ニシ誤解ヲ一掃シ両国ノ親善ヲ計ル為メニハ是非日本
援助ヲ希望スルハ決シテ飽迄北方ヲ討伐センカ為メナラス
却テ妥協ノ考ナリ云々ト語リ更ニ南北対等ノ資格ヲ以テ議
和スト云フコトハ最肝要ナル点ニシテ之カ為ニハ是非列国
ノ承認ヲ請フ旨再ヒ語ヲ強メテ語リタリ尚從来南方ニテハ
代表ノ資格ヲ以テ唐紹儀ヲ日本ニ派遣シツツアルモ唐ハ從
来ノ経歴及身分上十分各方面ニ奔走折衝スルニ不便アリ唐
ノ現在ノ立場ハ種々ノ点ヨリ鮮カラス苦シキ有様ナルヲ以
テ南方ニテハ更ニ章士釗ヲ日本ニ派遣シ南北調停問題、南
方承認問題及借款問題等ニ関シ日本ノ各方面ニ対シ隔意ナ
キ南方ノ希望ヲ述へ十分連絡ヲ図リタントノコトニテ日本
政府ニ於テハ右ノ如キ使命ヲ帶ヒタル章ノ渡日ニ対シ十分
ノ便宜ヲ与ヘラルヘキヤ否ヤ予メ本官ヨリ照会方希望シタ
ルガ如何回答スヘキヤ折返シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ
岑春煊ノ談竝当地各方面ノ状況ニ付現在時局解決ニ関スル
南方ノ意ノアル所ヲ見ルニ南方ハ現在竝将来トモ北方ニ討

段祺瑞カ内閣ヲ去ルトノ風説アルカ事実ナリヤ否ヤ知ラサ
ルモ最早段ハ到底内閣ヲ持シ難カルヘシ前線ニアル北軍中
吳佩孚馮玉祥柳春進等所謂直隸派軍隊ノ全部ハ南方ト聯絡
シ互ニ相侵ササルコトトシツツアルヲ以テ段ノ討伐命令ハ
到底行ハレス福建李厚基ハ段派ノ健将ナルカ南方ハ湖南江
西方面ニ於テ既ニ停戦シ力ヲ尽ス必要ナキヲ以テ全力ヲ挙
ケテ福建攻撃ヲ実行シツツアリ既ニ漳州ヲ占領シ廈門占領
モ遠ラサル可ク且福建ニアル海軍ヲ南方ニ帰順セシムヘク
既ニ人ヲ派シテ運動シツツアレハ遠ラス実現ヲ見ル可ク海
軍ニシテ一旦南方ニ帰順センカ李厚基ハ福建ヲ去ルノ外致
方ナカル可シ又瓊州ノ竜済光軍ノ与党モ幾許モナク既ニ勢
力尽キテ降伏ノ意アリ数日前當方ヨリ海軍ノ一部及討竜軍
ノ一部ヲ以テ攻撃シツツアレハ是亦遠ラス掃蕩シ得可ク斯
クノ如キ状態ナルヲ以テ北方ニハ決シテ討南ノ力ナク結局
段ハ内閣ヲ投出スヨリ外ナカル可シ

一三 中国内政関係雑件 一〇〇六

統ヨリ希望表明ノ件

一〇三六

南ノ力ナキコトハ之ヲ確信シツ、アリ又南方モ北方討伐ノ意思ヲ有セス結局到着スル所ハ南北妥協ナルガ右妥協ノ形式ニ関シ南方ハ南北対等議和談判ニ依リテ決スヘシトナシ

又今回章士釗ヲ日本ニ派遣セントスルハ主トシテ之カ為ナルヘシ愈々南北対等ノ資格ヲ以テ議和談判開始ノ曉ニハ其ノ条件等ニ對シテハ十分調停ノ余地アルコト思ハル、モ現在ノ状況ニテ直ニ南北ヲ調停ゼンコトハ到底不可能ノ事ト思ハル尚現在南方人ガ南北状況一変後ノ日本ノ態度ニ関シ極メテ注目シツ、アル際前述章ノ渡日ニ対スル日本政府ノ態度ハ極メテ重要ノコト、思ハルルヲ以テ是非章ノ渡日ヲ歓迎シ南方ノ希望ヲ聽キ南北調停ノ為斡旋ノ勞ヲ厭ハサルコトヲ南方人ヲシテ知ラシムル様然ルヘク御配慮相成度至急何分ノ御電訓ヲ請フ

一〇〇六 九月十二日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

南北妥協ノ実現並日本ノ援助方ニ關シ徐大總

第一二二〇号
（九月十三日接受）

九月十日船津ガ梁士詒ヲ往訪シタル際梁ハ日支両国ノ特別親シク述ヘラレンコトヲ希望スル旨ノ語氣ヲ洩シタル由ニ

テ梁ノ注意ハ相当ノ意味アリト認メタルニ付既ニ林公使ヨリ過日一応ノ祝意ヲ表セラレタルニ拘ハラス本官モ九月十二日特ニ徐世昌ヲ往訪シ鄭重ナル祝辞ヲ述ヘ日支親善關係ニ關シ種々意見ヲ交換シタル後偶々西南問題ニ言及シタル處徐ハ南北ノ紛争既ニ年余ニ及ヒ未タ解決スルニ至ラス人民塗炭ニ苦ミ通商關係ヲ有スル各国トモ其ノ累ヲ被ムルハ実ニ慨嘆ノ至ニ堪ヘス今ヤ内外人共ニ乱ニ厭キ一日モ早ク平和ノ恢復セラレントラ希望シ西南各省ニ於ケル首領人物亦其ノ感ヲ同ウスルコトハ自分カ是迄直接間接得タル所ノ情報ニ依リテ明ナルモ只政權ニ恋々タル二三野心家ノ為ニ掣肘セラレ今尚南北妥協ノ端緒ヲ看出ス能ハサル次第ナリ御承知ノ通西南各省モ種々複雜ナル事情アリテ之ヲ纏ムルコト頗ル困難ナランガ自分ハ先ツ國家及人民ヲ此ノ危難ノ中ヨリ救済スルコトヲ前提トシ法律問題ト事実問題トヲ

分離シテ解決シタキ所存ナリ過日林公使ニモ御話シタル通

自分ハ未タ老齡ト云フ程ニアラサルモ健康余リ思ハシカラス果シテ現下ノ難局ニ当リ予期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ覚

束ナキモ四困ノ状況ハ最早自分ノ依然野ニ在ルヲ容ルサムルニ至リタルヲ以テ此ノ際断然出盧ニ決シタル次第ナルガ

今後自分ガ此ノ重任ヲ果スニハ從来ヨリモ一層日本朝野ノ多大ナル同情ト援助ヲ希望シテ已マサル所ナリト述ヘタル

ニ付本官ハ早速之ニ対シ日本ハ出来得ル限ノ援助ヲナスヘシト答ヘ退出シタルガ總統府ヨリハ礼官長（式部長官）其ノ他出張シ居リテ宛然大總統ノ儀容ヲ備ヘ居タリ

一〇〇七 九月十三日 後藤外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛（電報）

徐世昌ノ大總統當選後ノ中國ノ内情ニ關シ通

報ノ件

第五一〇号

（一）徐世昌ノ大總統當選ハ既定ノ事實トシテ一般ニ甚シキ感動ヲ与ヘサルカ如ク南方側ニテハ一般ニ徐個人ニ對シテ

ハ反対ニ非サルモ只北方非法国会ノ選舉シタルモノナルニヨリ承認スル能ハスト為スモノ、如シ

一三 中国内政関係雑件 一〇〇七

（二）徐世昌ハ馮國璋ト聯絡ヲ保チ南北ノ妥協ヲ企図シ漢口ニ和平會議ヲ開催セントノ意アリト伝ヘラル、モ真偽明ナラス

（三）南方側モ亦妥協ノ意動ケルモ只中央政府カ命令的ニ妥協ヲ計ルヲ快トセス南北対等ノ資格ヲ以テ議和スルヲ最肝要ナリトシ之レカ為是非列國カ南方政府ヲ承認ゼンコトヲ要請シ居レリ

右承認運動ノ為近々王正廷ヲ米國ニ章士釗ヲ日本ニ派遣セントシツアリ

（四）九月五日ノ副總統選舉会ハ出席議員法定數ニ達セサリン為流会トナリ兩院協議ノ結果大總統就任前適當ノ時期迄延期スルコト、ナレリ

（五）九月十日在支英國公使ハ芳沢參事官ニ對シ支那ノ内争ハ支那人ノミニテハ到底解決困難ニ付結局日本ヲ主トセル列國ノ斡旋ニ俟タサルヘカラサルヘキ旨ヲ述ヘタリ

（六）張作霖ハ九月七日東三省巡閱使ニ任セラレタリ奉天督軍兼省長原ノ如シ

（七）福建方面ハ依然南北軍相對峙スルモ著シキ戰鬪ナシ右各大使ヘ転電アリタシ

一〇〇八 九月十八日 蒼藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

段祺瑞ノ武力ニ依ル南方平定ニ賛成ナル旨徐

世昌ノ言明ニ閱シ報告ノ件

九月二十日

電報 九月十九日 午後八時五十分着

支極秘第六百十五号

本日徐樹錚曰ク最近徐世昌ハ衆議院議長王揖唐ヲ召致シ南

方ハ新国会ヲ承諾セサルモ予ハ大總統ノ職ニ就ク以上克ク
新国会ヲ擁護スルノ義務アリ故ニ和平ハ最モ熱望スル所ナ
ルモ反抗者ニ対シテハ已ムヲ得ス武力ヲ以テ圧迫シ彼等ヲ
シテ中央ニ服従セシメ以テ平和ヲ圖ルヲ要ス予ノ意見ハ段
祺瑞ト毫モ異ナラス予ト段トハ一心二体ナリ此旨梁士詒及
徐樹錚等ニ伝ヘヨト告ケタリ梁ハ元來平和解決ヲ企図セシ
モ其方法ナキニ当惑シアリシカ之カ為時局平定ハ右ノ方針
ヲ措テ他ニ策ナキヲ了解スルニ至リシモノノ如ク該方針実
行ニ關シ本夜梁士詒、王揖唐、曹汝霖及朱啓鈴ハ徐樹錚ノ

邸ニ会合シ協議スル筈ナリ但シ徐世昌ハ從来段祺瑞ノ政策

ハ予メ協議ヲ受ケ同意ヲ与ヘ居リシモノナレハ以上ノ方針
ハ敢テ新規ナルモノニアラサルナリ

一〇〇九 九月十八日 石光天津軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

吳佩孚曹錕等ノ平和的態度、段派ノ主戰論ニ

対スル観測等報告ノ件

九月二十一日

電報 九月十九日 午後九時三十五分着

総長宛

天津軍司令官

天電第一一三号

最近ノ諸情報ヲ綜合スルニ吳佩孚カ過般露骨ナル南北講和
ノ意見ヲ發表シ去ル十五日又北京政府ニ向ヒ戰線ニ在ル各
軍隊ニ對シ休戰命令ノ發布ヲ要求シタルカ如キ極メテ大胆
ナル態度ニ出テツ、アルハ李純、陳光遠、王占元等カ暗ニ
彼ヲ庇護シ忌憚ナキ平和論ノ保障ヲナセルカ為ノミナラス
背後ニハ四省經略使曹錕カ糸ヲ操リツツアルコトモ看過ス
ヘカラス曹錕カ今尚保定ニ留マリ南北ノ形勢ヲ觀ツツ一面
政府ニ向ヒ巨額ノ軍費其他政府ノ容認シ難キ難題ヲ提出シ

既ニ出征費トシテ百万元ノ交付ヲ受ケタルモ未タ要求ノ全
額ニ達セサルヲ云為シ其親近者ノ語ル所ニ拠レハ条件ノ全
部カ出發前ニ實行セラレサル迄ハ南下セサル考ナリト云フ
更ニ去ル十四日曹錕ハ時局ニ閔スル通電ヲ發シテ内争ノ為
ニ外患ヲ忘ルルコトヲ痛恨シ暗ニ主戰派ノ政策ヲ攻撃シタ
ルカ如キ此間ノ消息ヲ語リテ余アリト謂フヘシ而シテ北洋
文治派交通系モ亦平和論ニ共鳴シ新大總統徐世昌ハ其就任
ニ先チ平和ノ意見ヲ公ニスヘシト伝ヘラレ又中支各省商
会、英米協會等モ平和促進ノ運動ニ努力シツアリ近來一
般ノ輿論ハ急轉直下南北平和ヲ高唱スルニ至リタルモ以テ
主戰論ハ最早大勢ニ逆行スルノ余地ナク段派ノ末路ハ既ニ
目前ニ迫レリト當地支那側ニテ觀測シツ、アリ

一〇一〇 九月二十九日 在長春蒼藤陸軍中佐ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

軍ノ内話報告ノ件

電報 九月二十九日 午前十一時
午後七時四十五分着

參謀總長宛

在長春 蒼藤（恒）中佐

吉第九号

一三三 中国内政関係雑件 一〇一〇

本日督軍ハイヅニ無ク小官ヲ彼ノ寝室ニ招キ「ボクラニチ
ナヤ」ニ日本軍ヲ派遣シ空列車ノ抑留ヲ為サントスルコト
ニ閔シテハ前回浜面參謀長ノ相談セザリシコトナル旨ヲ語
リシ故小官ハ臨時ノ出来事タリト述ヘタルニ彼ハ既ニ先方
司令部ニ電報シ便宜ヲ与フル様ニ申シ置タリト答ヘ尚且下
哈爾賓ニアル日本軍ヨリ派遣シ双方誤解無キヲ望メリ更ニ
督軍ハ何事ニアレ今後打開ケテ予メ交渉セラル、ナラバ出
来る丈ケ便宜ヲ与フヘシト繰返シ語レリ又本年各督軍カ北
京ニ集マレル際種々ノ意見アリ其際督軍中ニハ日本ト余リ
ニ親密ニナルコトハ結局支那ノ為宜シカラストノ説アリン
故予ハ諸君ノ意見ハ御尤モナカラ滿洲在留日本人既ニ十萬
ニ達セリ之ヲ諸君カ皆追出ス丈ケノ力ガアレハ兎モ角満洲
ノ開發ハ一二日本人ノ手ニ拠ラサルヘカラス予ハ断シテ諸
君ノ説ニ賛成シ難シト述ヘタリ爾來一回モ日本人ニ対シテ
衝突等ヲナシタルコト無シ云々ト語リ以テ哈爾賓ノ陶總司
令官ハ今尚小官等ノ言ヲ信セサルカ如シトノコトニ対シテ
ハ督軍ハ自ラ書面ヲ認メ爾後日本軍ニ閔スルコトハ一二蒼
藤中佐ノ言ニ従ヒ決シテ疑惑ヲ挾ム様ノコト無キ様ニナス
苦ナレバ日支ノ為充分意志疏通ヲ謀リ何事ニマレ遠慮無ク

一三 中国内政関係雑件 一〇一 一〇二

一〇四〇

意見ヲ申出ラレタシト語リ今回浦潮附近ノ日支衝突ノ件ナ
ドハ奉天督軍ノ不取締ニ帰スルモノナリト言ヘリ依テ小官
ハ督軍ノ厚意ハ日本当局ハ勿論各方面ニ伝達スヘシト答ヘ
置ケリ

參謀長ハ三八式歩兵銃八千、弾薬六百十万、機関銃十二、
弾薬百二十万、野砲六門、榴弾六百、榴霰弾一千二百発ヲ購
入スルコトニ略ホ在長春三井ト契約スル筈ナレハ尽力ヲ乞
フ

右ノ外吉林警察側ニテモ三八式歩兵銃六百、弾薬三十万ヲ
買ヒタシト聞合セ中ナリ以上二口共ニ成立スル様アリタシ

フ

北京、旅順、黒沢済

一〇一 十月八日

斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ

上原參謀總長宛(電報)

午前九時四十三分着

一〇二 十月二十三日

内田外務大臣宛(電報)

午前八時発

段祺瑞副總統立候補辭退ニ關スル徐樹錚ノ談

話二付報告ノ件

十月九日

午前九時四十三分着

第一四五九号

曹錕等ノ電請ニ基キ張勳ノ逮捕糾問ヲ免シ以テ寬大ヲ示ス

旨十月二十三日付大總統令ヲ以テ公布セラル

支極秘第六六五号

電報 十月九日

午前九時四十三分着

斎 藤 中 将

一〇一三 十月二十五日 斎藤在中国日本公使館附陸軍武官
上原參謀總長宛(電報)
段内閣ハ必ズシモ武斷政策ヲ採ラザル旨並日
本ニノミ依存スルモノニ非ザル旨米國公使ニ
説明セル趣徐樹錚談話ノ件

親展

電報 十月二十五日 午後九時十分着

參謀總長宛

斎 藤 中 将

支極秘第六九九号

去ル二十二日徐樹錚ハ本職ニ対シ梁士詒、周自齊等カ米國

公使ニ運動シ平和促進ノ論議ヲ以テ彼等個人ノ勢力ヲ恢復

セントシツアルニヨリ予(徐)ハ二十三日米國公使ニ面

会シ段政府ノ從來採リ来リタル政策ヲ告ケテ誤解ナカラシ

メンコトヲ図ル筈ナリト言ヘリ本日本職ハ徐ニ面会シ其ノ

結果ニ就キ聞キタルニ徐ハ昨日米國公使ニ段内閣ハ支那ノ

和平統一ヲ切望シ之ニ適応スル政策ヲ採リタルニ世上武力

討伐等人心ヲ刺戟シ易キ言辞ヲ以テ之ヲ迎フルモ元來政府

ノ命令ニ服従セサルモノヲ彈圧スルハ國家カ其ノ政府ニ附

与シタル權威ニシテ決シテ不当ノ行為ニアラサルコト及ヒ

一〇一四 十月二十九日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東三省巡閱使署ノ官制発表ニ關シ報告ノ件

(十一月四日接受)

大正七年十月二十九日

在奉天

総領事 赤 塚 正 助(印)

一三 中国内政関係雑件 一〇一四

外務大臣子爵 内田康哉殿

東三省巡閲使官制ハ民国七年十月十日政治公報第九百七十号及同月二十五日政治公報第九百八十六号ヲ以テ発表セルガ右ニ関シ当地支那官憲ノ機関新聞タル東三省公報ハ同月二十九日ノ紙上ニ於テ概要左ノ通り記載セリ

巡閲使署近聞

一、規則 巡閲使公署ノ組織ハ尚未タ正式ニ成立セザルモ現ニ聞ク処ニヨレバ該公署ノ内部組織ハ全ク当局ニ於テ両

広及長江巡閲使ノ前例ヲ參照シ並ニ当省ノ情形ヲ洞察シテ

規定セルモノニシテ已ニ政府ノ批准ヲ經タリト云フ

二、経費 巡閲使公署ノ経費ハ毎年三十六万元トシ之ヲ國家予算ニ編入シテ中央政府ヨリ支出ス但シ軍事上要スル處

ノ臨時経費ハ隨時請求シテ活動ニ資スベシ

三、権限 東三省ノ軍隊ハ悉ク巡閲使ノ指揮節制ニ帰シ參戰期間内ニ必要ノ場合法ヲ設ケテ之ヲ統轄指令シ以テ運用

ノ敏速ニ便スベシ

四、民事 巡閲使ハ原来前清東三省總督ノ官制ニ倣ヒテ民事ヲ兼轄スベキモノナルモ惟ダ現在軍事緊要ニシテ參戰關係尤モ重大ナルノ故ヲ以テ軍務ヲ主持スルヲ主体ト為セリ

理合呈請鑒核訓示施行謹呈

七年十月九日已奉 指令

右為御参考及報告候 敬具

本信写送附先 在支公使

一〇一五 十一月一日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

和平期成会及徐樹鋒渡日ニ関シ王芝祥ノ船津

二対スル内話報告ノ件

第一五〇八号

(十一月一日接受)

十月三十一日王芝祥船津ヲ來訪シ極メテ内密ノ話ナリトテ

最近成立シタル平和期成会ニハ自分モ名ヲ列シ居リ自分ハ

誠心誠意南北ノ平和的統一ヲ希望シテ此ノ会ノ創立ニ賛成

シ又從来此種ノ団体ハ往々野心アル一部ノ政治家ノ為ニ利

用セラレタル前例尠カラサルヲ以テ今回ハ右ノ如キ弊ヲ予

防スル見地ヨリ馮国璋、黎元洪、梁士詒等ヲ特ニ除外シタ

ル次第ナリ然ルニ同会成立以來著々其ノ計画ヲ進行セシメ

ント奔走シ居タル處矢張本会発起人中及本会以外ノ政治家

中追々自己ノ利益ノ為ニ本会ヲ利用セントスル向アリ從ツテ本会ハ今後果シテ当初ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ極メテ覺

因テ将来稍ヤ閑散トナリ民治ヲ振興スベキノ時ニ至レバ東

三省一切ノ民政ハ政府ヨリ之ヲ巡閲使ニ特別委任監督セシ

メテ以テ統一ニ資ス

五、施行 現在巡閲使ハ平和會議ニ参列シテ時局ヲ解決セザルベカラザルヲ以テ大局決定後開弁費ヲ受領シテ公署ノ開弁ヲ行フモノナリトス云々

尚政治公報ノ発表セル東三省巡閲使職權規定原文左ノ如シ

國務總理段祺瑞呈 大總統釐定東三省巡閲使職權祈鈞鑒文

為釐定東三省巡閲使職權恭呈仰祈鈞鑒事竊東三省巡閲使一職於本年九月七日奉令特派關於該使職權亟應早日釐定以資遵守查長江及兩廣先後設置巡閲使歷屆訂定使署章程均極詳明自可參照弁理惟奉吉黑三省地居要現當歐戰期內我國加入戰團為共同防禦計劃有事境外所有各該省省防軍事極關緊要必須提綱挈領統籌兼顧始足收聯絡策應之効擬請准東三省軍隊悉由該巡閲使節制調遣会同各該省督軍籌弁實於安邊固圉深有裨益俟邊務稍定再行体察情形隨時酌量弁理至巡閲使署經費應准每月開支三萬元由財政部撥給以資弁公是否有當

一三一 中国内政関係雑件 一〇一六 一〇一七

タル趣ナリ御参考迄ニ申進ス

南北妥協ニ対スル米国ノ態度ト親米派政客ニ

機密第四二四号 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

外務大臣子爵 内田康哉殿

在支那 臨時代理公使 芳沢謙吉(印)

大正七年十一月四日

(十一月九日接受)

外務大臣子爵 内田康哉殿

張巡閱使來訪ニ閔スル件

東三省巡閱使張作霖数日前入京本月二日本官ヲ來訪シ種々談話ヲ交換シタル際徐總統就任ニ対スル米国大統領ノ祝電ニ談及シ該祝電中其大半ハ支那南北ノ統一ヲ勧告スルモノニテ祝電トシテハ其体ヲ失シ自分(張)ノ甚タ感服スル能ハサル処ニテ當時早速右ノ如キ祝電ニ対シテハ軽々ニ答礼ノ必要ナキヲ注意セントシタルニ中央ニテハ時ヲ移サス直ニ答電ヲ発シタル趣ニ付其儘ニ打棄置キタル次第ナル処過日米国大統領ノ顧問ナリト称スル「グリーン」(非律賓駐

屯軍司令官 General Greene ヲ指スモノナラン) 奉天通過ノ際モ切リニ南北ノ平和的統一ヲ勧説シタルコト有之米國カ往々日本ヲ差置キ東洋問題ニ閔シ牛耳ヲ執ラントスル如キ態度ニ出ツルハ頗ル潛越ノ振舞ナラスヤト考ヘラル今回入京後各方面ノ消息ヲ綜合スルニ米国カ右ノ如キ態度ニ出ツルハ親米派ノ連中仮令ヘハ梁士詒、周自齊等カ米国留学生出身ノ青年官民ヲ使嗾シテ誘導挑発シタル結果ナル如シト述ヘ候モ右ハ或ハ張カ曹汝霖、徐樹錚等ノ談話ヲ輕信シ居ルカ或ハ故意ニ梁士詒一派ト日本トノ関係ヲ離間セントノ底意ニ出テタルニ非スヤトモ疑ハレタルニ付本官ハ單ニ米国留学出身ノモノニハ米国ニ心醉セルモノ有之隨往々感情ニ支配セラレ日支米間國交上ニ累ヲ及ホス如キ言動アルハ遺憾ナリト答ヘ宜イ加減ニ聞流シ置候右何等御参考迄及報告候也

本信写送付先 在奉天赤塚總領事

一〇一七 十一月四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚訪日ノ目的ニ閔スル件

(十一月五日接受)

徐樹錚ノ渡日ニ閔シ英字新聞中同人ハ何等力借款ニ閔スル

用向ヲモ帶ヒ居ルヤニ報ジ居ルモノ之有ル所財政部秘書周家彦右一行ニ加ハルコトトナリタルコトニモアリ一概ニ見当違ノ報道トモ言ヒ難キヤニ認メタルニ付十一月三日本官周二面会ノ節試ニ右報道ニ言及シタル所周ハ言下ニ是ヲ否認セリ、サリナガラ周ノ渡日ハ何等新ナル借款申出等ノ使命ヲ有セズトスルモ或ハ曹汝霖ノ内命ヲ受ケテ西原關係諸問題殊ニ金券問題等善後策ニ付親シク勝田前蔵相乃至帝国政府当局者等トモ懇談ヲ遂げ得可キカト言フ如キ考ニ基キ居ル事是無キヲ保シ難シト思料セラル

御参考迄ニ電報ス

一〇一八 十一月十日

徐樹錚渡日及南方派ノ動向ニ閔スル徐總統ノ
斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨ

電報 十一月十三日

談話ニ付報告ノ件

十一月十一日 午後七時
午後〇時七分着

參謀総長宛

一三一 中国内政関係雑件

一〇一八 一〇一九

斎藤 中 将

一〇四五

一〇一九 十一月十二日

斎藤在中国日本公使館附陸軍武官
上原參謀總長(ヨリ)宛(電報)

徐總統ヨリ南方派將領ニ示シタル和平条件及
政府ノ財政情況等ニ閔スル曹汝霖談話ニ付報

告ノ件

一〇四五

親展

十一月十三日

電報 十一月十二日 午後五時二十分著

参謀総長宛

支極秘第七二一号

本日曹汝霖ハ徐總統力目下採リツツアル和平解決ノ手段ニ就キ語リテ曰ク陸榮廷ノ許ニ差遣シタル使者ハ本月十日香港ヲ出發シ武鳴ニ向ヒタルカ多分本日頃同地ニ著スルナラノ唐繼堯ノ許ニ差遣スル使者ハ兩三日中ニ当地出發ノ筈右使者ノ齋シツアル總統ノ妥協条件ハ陸榮廷ニ対シテハ陸ヲ兩広巡閱使ニ任シ広西督軍ヲ兼ネシメ其部下ノ始末ニ就テハ陸ノ申出ニヨリ政府之レヲ任命ス唐繼堯ニ対シテハ唐ノ雲貴四川ノ巡閱使ニ任シ雲南督軍ヲ兼シメ熊克武ヲ四川督軍ニ任シ該地方ノ官吏ハ唐ノ申出ニ依リ政府之レヲ任命ス但シ四川省ノ官吏ニ対シテハ熊克武ヨリ唐ニ協議スト云フニ有リ

法律問題ニ就テハ先ツ表面上和平解決ヲ見タル後協議スルカ或ハ之レト同時ニ解決ヲ図ルカ又其手段トシテ新旧国会議員中ヨリ各省カ一定数ノ委員ヲ出スヘキカ等ニ就キ先ツ南方ノ意見ヲ問合サントス

隊力動乱ヲ起サマル為メ处置及ヒ南方首領ニ妥協ノ必要ヲ了解セシムルコトガ目下ノ急務ナル所以並ニ将来ニ於ケル

世界ノ大局上ヨリ日支親善ノ必要ヲ詳説シ日本ノ援助ヲ請ヒ之ヲ本職ヨリ我當局ニ伝ヘンコトヲ依頼セリ其詳細ハ帰朝ノ上報告セントス（終）

一一〇 十一月十三日 在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
國務會議ハ陸榮廷ヨリノ電報ニ基キ南北和平
會議開催ノコトニ決定ノ件

第一五六四号

十一月十二日國務會議ニ於テ陸榮廷ヨリノ電報一通（頗ル穏和ナル主張ノ由）提出セラレ愈平和會議ヲ開ク事丈ケハ決定シ其結果錢國務總理代理ヨリ李純、張謇及譚延闓ト平和ニ関スル諸事項ニ付協議アリタキ旨ノ電報ヲ發シタル趣ナルガ右ニ就テハ反対ノ確報有之節ハ勿論打電ス可キモ多分事實ト思考セラル

岑春煊ノ許ニ派遣シタル使者ハ既ニ帰来セシカ岑自身ハ平和解決ニ異存ナキカ如キモ目下彼ノ意見ハ全ク行ハレス如何ナル人トノ面会ニモ必ス激烈分子立会フカ為其意見ヲ発表スルコト能ハサル状況ニ在リテ岑ハ何トカシテ現位置ヲ脱センコトヲ焦慮シツツアル由又広東省ニ於ケル廣東、廣西、雲南ノ各軍隊ハ互ニ相反目シ各区域ヲ定メ賭博税ヲ徵収シ或区域ノモノカ納稅ヲ肯セスシテ他ノ区域ニ逃走スル時ハ之ヲ銃殺シ九龍廣東間ノ鉄道及ヒ沿線ヲ区分シ各々勢力範囲ニ従ヒ収入ヲ徵集シツツアリ混亂実ニ名状スヘカラサル情態ナルヲ以テ該方面ハ後廻シトナス筈ナリ要スルニ北方ニテ今尚主戰主義ヲ持シアルハ繩カニ段祺瑞ト張作霖ニシテ而モ是等ヲ纏ムルコトハ敢テ面倒ナラサルヲ以テ唯南方ガ前記ノ条件ヲ容ル、ニ於テハ妥協ハ直チニ成立スヘシト又曹ハ目下中央政府ノ財政状態ニ就キ政府ノ収入月額六〇〇万元支出最少ノ月ニテ一五〇〇万元内訳軍事費六〇〇万元、臨時軍事費四五〇万元、行政費二〇〇万元、外債償還費平均月三〇〇万元、清室優待費及八旗ニ要スル経費五〇万元ニシテ毎月九〇〇万元乃至一、〇〇〇万元日貨約二千万円ノ不足アリト述ヘ尚北方ヨリ派遣セル軍事費六〇〇万元、臨時軍事費四五〇万元、行政費二〇〇万元、外債償還費平均月三〇〇万元、清室優待費及八旗ニ要スル経費五〇万元ニシテ毎月九〇〇万元乃至一、〇〇〇万元元日貨約二千万円ノ不足アリト述ヘ尚北方ヨリ派遣セル軍

件

第九六号

（十一月十七日接受）

十一月十六日多賀大佐ハ參謀次長ヨリ錢國務總理代理ハ去八日林公使ニ對シ当國政府ハ已ニ李純ヲ全權代表トシテ陸榮廷ト妥協ノ交渉ヲナサンメタル次第ヲ内話シタル由ナルニ付其真否ヲ取調べ電報ス可キ旨ノ訓電ニ接シタル趣ヲ以テ小官ニ対シ李純ト面談ノ上右ノ事実ヲ確メラレタシト依頼シ（同大佐ハ病氣臥床中）來リタル折柄公使発閣下宛電報第一五六四号ノ転電ニ接シタルヲ以テ同日夕刻李純ヲ往訪シタル処李ノ語ル大要左ノ通り

余ハ徐大總統ノ依頼ニ依リ本月初メヨリ中央政府ト南方トノ意志疏通ノ任ニ当リ両者間ニ妥協ニ関スル意見ノ交換ヲ為サシメタル結果愈平和會議ヲ開クコトニ一致シ尚十五日北京ニ於ケル督軍會議ハ大總統ノ命ニハ必ズ服從スルコト並ニ平和解決ヲ希望スルコトヲ議決シタルガ如キ有様ニテ一人ノ異議ヲ唱フルモノモ非ザルガ故ニ今明中罷戰退兵大總統令ヲ發スル筈ナリ然レドモ中央ハ余ヲ、南方ハ譚延闓、張謇ヲ全權代表トス可シト云フガ如キハ外部者ノ揣摩ニ止マリ右會議ニ参列ス可キ人物ハ其開催ス可キ地点ト共

一〇一 十一月十六日

在南京清野領事館事務代理ヨリ

南北和平會議ニ閔スル李純ノ談話二付報告ノ

二三 中国内政関係雑件

一〇一〇 一〇一二

一〇四七

一三 中国内政関係雑件

一〇二二

一〇四八

ニ未ダ決定セラレタル次第ニハ非ザルモ今後廿日ヲ出デズシテ其一切ノ運ビニ至ル可シト信ゼラル（依テ小官ハ平和會議ヲ開ク可ク中央ト意見ノ一致ヲ見タリト云フ南方トハ何人ノコトナルヤト尋ネタルニ）南北ノ妥協ハ素ヨリ両広ニ於テ実力ヲ有スル陸榮廷及雲貴四川ニ於テ実力ヲ有スル唐繼堯ヲ除外シテハ成立ス可キニ非ザルニ付余ハ右一人ト充分ナル了解ヲ遂ゲタルハ勿論ナルモ岑春煊其他ノ主要人物トモ相計リタル次第ナルガ孫逸仙及其一派ハ全ク理想ノミヲ固持シ居ルガ故ニ彼等トハ今尚交渉シ居ラズ云々在支公使ヘ転電セリ

在上海總領事ヘ暗号ノ儘郵送セリ

註 「參謀次長」ニ閔シ欄外ニ左ノ書入アリ

『大正七年十一月廿五日本庄大佐來省「參謀次長」トアルハ誤ニテ「陸軍大臣」ノコトナルカ福田次長ヨリ右為急外相ヘ申上眞レトノ使ニ参レリトノ旨申出タリ（小村印）』

一〇二二 十一月二十四日
在上海磯谷陸軍大尉宛（電報）
孫文派ハ南北和平ニ反対シ民主主義ノ實現ヲ主張シツツアル件

所ハ法ノ恢復ノ外ナク世界ノ公理ニ合致セルヲ信ス米国ハ我民國ヲ承認シ又「ヴィルソン」閣下ハ正義ヲ主持スルノ人ナリト述ヘ此際抑圧ヲ受ケツツアル我民國人民ニ代ツテ北方武人ニ対シ「旧国会ハ「ヴィルソン」自ラ承認セル國会ニシテ是ヲ尊重センコトノ」警告ヲ致サレ度キ旨ヲ記セリ』

右ハ和平問題ノ進捗ノ一波瀾ト認メ参考迄
小官命ノ通リ二十三日南京ニ到リ明後帰滬ノ予定

一〇二三 十一月二十五日
曹汝霖財政總長辭任ノ件
(十一月二十六日接受)
内田外務大臣宛（電報）

第一六三六号
十一月二十五日曹汝霖ハ芳沢ニ対シ自分モ愈々財政總長ノ職ヲ退クコトトナリ其後任トシテ龔心湛（嘗テ財政次長タリシコトアリ）同總長ニ擬セラレ既ニ本人等モ之レヲ内諾シタル旨談話セル趣ナリ御参考迄

一〇二四 十一月二十六日
在上海磯谷陸軍大尉（電報）
上原參謀總長宛（電報）

南北和平會議ニ閔スル李純ノ見解報告ノ件
一三 中国内政関係雑件

電報 十一月二十四日 午前九時四十五分発
参謀總長宛 上海電第百〇五号

十一月二十四日 午後八時五十分発
在上海磯谷大尉

孫文孫洪伊ノ民黨過激派ハ昨今一般ニ唱ヘラレツツアル和平問題ニ反対シ孫洪伊ノ如キハ過般唐紹儀ヨリノ勸告ニ対シテモ全然之ヲ退ケ今和平ヲ求メンカ徐世昌等ハ之ヲ認メサルヘカラサルニ至ルヘク徐ハ元来復辟ノ意ヲ有スル者ニシテ民國ノ容ルルヘカラサル者ナリ今後尚暫ク堅忍シ戰闘ヲ続ケ飽ク迄從來ノ主張ヲ貫徹セサルヘカラス現ニ各方面南軍ニ有利ナルノ時ニ当リ和平ヲ唱フルカ如キハ絶対ニ不可ナリトシ却ツテ唐等ノ軟化ヲ慨シツツアル又孫文ハ昨日米国「ヴィルソン」ノ武力撲滅主義ヲ讚美シ『曩ニ吾人ノ參戰ニ反対セルハ是ニ依リテ我武人ノ横行センコトヲ恐レタルニヨルト弁シ張勲復辟以来段カ日本内閣ノ援助ニ依リ武力專断國法ヲ蹂躪セシコトヲ罵倒シ昨今又北方官僚ハ吾人カ和平ニ反対シ半歳後ノ今日尚ホ之ニ反対シツツアルカ如キ説ヲ為シアルモ吾人ハ飽ク迄民主主義ノ貫徹ニ努メアルノ外何等野心ナシ今又北方派カ外國ノ力ヲ借リテ南方民主主義ヲ圧迫セント計画シツツアルノ説アリ吾人等ノ望ム

本日南京李純ニ面会ス其語ル所ノ要旨左ノ如シ
和平會議ハ既ニ南北各要人ノ同意ヲ得近ク開催スルノ運ニ至レリ目下之ニ閔シ協定セシ所ハ委員數、期日及場所ニシテ委員數ハ南北共三十名又ハ十五名ノ同數ヲ派遣スヘク人選ハ北方ハ政府之ヲ任命シ南方ハ公選ニテ之ヲ決定スル筈今ヨリ約十日後之ヲ發表シ其後二十日以内ニ開催スル予定ナリ場所ハ一般ニ南京ヲ希望シアリ予ハ却テ責任ノ重キヲ顧慮シ他ニ移サレンコトヲ欲スルモ多分南京タルヘシ昨今尚多少ノ反対者アルヲ免レサルモ元來本會議ハ南北妥協ノ會議ニアラス要ハ國家救濟ノ目的ニ出テタルモノニシテ此性質ヲ理解セハ如何ナル者ト雖之ニ反対スルノ理由ナカルヘク殊ニ徐世昌ハ勿論北方ノ賛同ヲ得タルノミナラス南方各要人トノ意思モ全ク疏通シタレハ最早懸念ヲ要セサルモノト信ス要スルニ南北ヲ離レ全國ノ要人ヲ一地ニ集メ國家

一三 中国内政関係雑件 一〇一五 一〇一六

一〇五〇

救済ノ目的ヲ以テ万事ヲ協議決定セントスルニアリテ本会開催後約三箇月ニシテ愈々和平統一ノ時期ニ達スルモノト予想スト述ヘ頗ル樂觀シ且自己從来ノ予測斡旋ノ空シカラサルヲ喜悦シアルカ如ク見受ケラレタリ其語ル所ハ過般上海ニテ章行嚴ノ語リシ所ト略符合シ和平會議ノ性質並ニ其開催ニ關スル商議進捗ノ程度ヲ察スルヲ得タルモノト信ス小官本日回滬ス

一〇一五 十二月三日 石光天津軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)
南北双方ニ和平反対派ノ存在並和平運動二日
本輿論ノ声援方ニ關シ周自齊談話ノ件

(陸同文)

電報
十二月三日午後八時四十分発
十二月四日午後四時三十分著

天津軍司令官

參謀總長宛

天電第一五七号

周自齊カ昨二日本職ヲ訪問シ語レル時局観ノ要旨
予及梁士詒等ノ一派ハ世界ノ大勢ニ鑑ミ南北妥協支那統一ノ急務ナルヲ信シ徐大總統及錢國務總理モ同意見ナルヲ以

テ政府ト協力シ和平運動ヲナシツツアルモノ未タ其目的ヲ達シ得サルハ南北共ニ極端派アリ平和ノ進行ヲ阻礙セル為ナリ即チ南方派ニテハ孫文一派ノ旧国会議員カ一部ノ南方人ト結ヒテ妥協反対ヲ唱ヘ北方派ニテハ安福俱樂部ノ一派カ倪嗣冲張作霖等ノ主戰督軍ト結ヒ暗中妥協ノ進捗ヲ妨害シツツアリ政府カ最近南京ニ和平會議ヲ開カントセシハ公明ナル措置ナルニ係ハラス南方ハ此提案ニサヘ応セス北方ハ南方ノ応セサルヲ奇貨措クヘシトナシ以テ南方ニ妥協ノ誠意無シトテ政府ニ迫リ妥協反対ノ氣焰ヲ揚ケタル故多少行惱ノ姿トナレルハ國家ノ前途ノ為寒心ニ禁ヘス此際日本ノ輿論カ和平運動ニ声援ヲ与ヘラレンコトヲ切望スト

一〇一六 十二月四日 在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
段派ニ依ル和平運動妨害ノ事実存セザル旨回

報ノ件

第一六八九号

貴電第一一〇三号ニ閏シ
聯合國側ノ戰勝ニ連レ支那參戰ノ責任者タル段祺瑞ガ得意

南京ニ於テ開催セントスルニ對シ南方ハ善後ナル名稱ハ不穩當ナリトシテ之ヲ平和會議トナシ會議ノ安全ト公平ヲ保ツ為會議地ヲ上海租界トナシ南北對等ノ狀態ニ於テ之ニ臨マンコトヲ希望シ居レル趣ナリ

(一)五国公使ノ妥協勧告ハ其時機ヲ得タルモノナリトテ支那各方面共好感ヲ以テ之ヲ迎ヘ孫文孫洪伊ノ如キ極端派モ同様贊意ヲ表シ又北方側主戰派モ為ニ屏息シ目下和平會議開催ノ件進捗シツ、アリ尤モ北方ハ該會議ヲ善後會議ト称シ南京ニ於テ開催セントスルニ對シ南方ハ善後ナル名稱ハ不穩當ナリトシテ之ヲ平和會議トナシ會議ノ安全ト公平ヲ保ツ為會議地ヲ上海租界トナシ南北對等ノ狀態ニ於テ之ニ臨マンコトヲ希望シ居レル趣ナリ
(二)政府ハ愈々議和代表トシテ朱啓鈴(參議院副議長)劉恩格(衆議院副議長)吳鼎昌(財政次長)王克敏、李國珍其他合計十名ヲ選定シ國務員連名ノ委任状ヲ公表シ又南方側ニ対シ代表確定方ヲ督促シタリト謂フ
以上歐米各大使ニ転電アリ度シ
亦惹イテ大ニ得意ノ境ニ在リ從ツテ相當鼻息荒キコトハ事実ト認メザル可ラザルモ貴電御來示ノ如キ和平運動ニ反対妨害セントスルガ如キコトハ別段無之キモノト存ゼラル猶ホ汪大燮ガ青木中將ニ語リタル処ニ依レバ段祺瑞ハ最近各在京督軍ニ更メテ和平ノ必要ヲ説キ帰任ヲ懲憲シタリトノコトナリ

一〇一七 十二月十五日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)
五国公使ノ妥協勧告ハ好評ニ子平和會議開催
ノ議進捗シアル旨及北京政府ハ右會議代表者
ヲ選定シタル旨通報ノ件

第六八八号

一三 中国内政関係雑件 一〇一七 一〇一八

一〇一八 十二月二十六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
錢總理南北妥協ノ從来ノ成行ニ付詳述ノ上妥
協善後處理ニ關シ日本ノ援助ヲ仰ギ度キ旨ヲ

切言シタル件

(十二月二十七日接受)

一〇五一

十二月廿五日本官署任揆擇ノタメ錢總理ニ會見ノ節、本官
テ何等尽力ヲ致スノ必要有ラバ腹蔵ナク申出有リタキ旨ヲ
トスルヤヲ詳述シタル後此際並ニ将来帝國政府並本官ニ於
ノ成行ニ付キ縷々陳述スル所有リ其要旨ハ概シテ當館ヨリ
ノ既報セル所ト大差ナク最近ノ障礙タル福建、陝西ノ土匪討
伐事件ニ關シテハ南方ハ之ガ土匪ニ非ザルコトヲ主張ス
ルニ対シ北方ハ土匪ト認ムトシ過般來電報ニテ論議シ來レ
ルモ畢竟空言ニテ双方ノ主張一致シ難キヲ以テ實地ニ付キ
其正式軍隊ナルヤ士匪ナルヤヲ鑑別決定スルノ方法ヲ執リ
且ツ区域ヲ劃シ土匪ハ双方ニ於テ取締ルコトトシ以テ本件
ノ解決ヲ計ル所存ナルコトヲ述べ此問題ノタメニ妥協會議
実現ニ努力シ居ルコト並ニ北方主戰派モ世界ノ大勢及ビ支
那ノ現状ニ於テ其主戰策ハ最早ヤ到底實行望ナク旁妥協ノ
外ナキヲ自覺シ來タリ、又タ南方ノ陸榮廷、岑春煊及ビ唐
上海、廣東、南京、雲南へ電報セリ

第一二〇号

十二月三十日李純往訪ノ際聽取セル時局談要領左ノ通

一、會議ヲ南京ニ開クコトニ關シテハ唐紹儀獨リ反対シ居
ル次第ナルカ南方有力者ハ殆ント異議ナキニ付近ク軍政府
ノ政務會議ニ於テ其同意案ヲ議決シ更ニ協力国会ノ通過ヲ
計ル手筈ナルニ付南京ニ決定セラルヘシト信ス自分トシテ
表ハ來月二日當地ニ着スル予定ナルニ付仲裁者タル從来ノ
行懸モアルニ依リ當地ニ會議開会ノ準備ヲナサザルヘカラ
選等ハ何レニ決スルトモ素ヨリ異議ナキ所ナルモ北方ノ代
ス目下其手配中ナルカ諸般準備成リタル後他地方ニ变更セ

一〇二九 十二月三十一日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南京和平會議開催地ヲ繞り唐紹儀非難ノ李純
ノ談話報告ノ件

ノ南北妥協促進ニ関スル我政府ノ希望ノ存スル所ヲ体シ先
づ以テ世界ノ大勢、東亜ノ現状ガ如何ニ支那ノ統一ヲ必要
トスルヤヲ詳述シタル後此際並ニ将来帝國政府並本官ニ於
テ何等尽力ヲ致スノ必要有ラバ腹蔵ナク申出有リタキ旨ヲ
述ベタルニ總理ハ深ク其好意ヲ感謝シ妥協ニ関スル今日迄
ノ成行ニ付キ縷々陳述スル所有リ其要旨ハ概シテ當館ヨリ
ノ既報セル所ト大差ナク最近ノ障礙タル福建、陝西ノ土匪
討伐事件ニ關シテハ南方ハ之ガ土匪ニ非ザルコトヲ主張ス
ルニ対シ北方ハ土匪ト認ムトシ過般來電報ニテ論議シ来レ
ルモ畢竟空言ニテ双方ノ主張一致シ難キヲ以テ實地ニ付キ
其正式軍隊ナルヤ土匪ナルヤ鑑別決定スルノ方法ヲ執リ
且ツ区域ヲ劃シ土匪ハ双方ニ於テ取締ルコトトシ以テ本件
ノ解決ヲ計ル所存ナルコトヲ述べ此問題ノタメニ妥協會議
ノ遲延ヲ來タスハ時局解決上ニ悪影響ヲ生ズルガ故妥協會議
議ハ一日モ速カニ之ヲ開催スルコトヲ得策トシ目下專心其
実現ニ努力シ居ルコト並ニ北方主戰派モ世界ノ大勢及ビ支
那ノ現状ニ於テ其主戰策ハ最早ヤ到底実行望ナク旁妥協ノ
外ナキヲ自覺シ来タリ、又タ南方ノ陸榮廷、岑春煊及ビ唐

鉤、李根源等ノ南方主戦派並ニ旧国議員中ノ一部ニハ種々過激ナル主張ヲ為スガタメ南方側代表ハ総代表ノ唐紹儀ナルコトハ既ニ決定セルモ其他ハ未定ナルニ付目下南方ニ對シ督促中ナルコトヲ内話セリ（南方各代表ノ決定ト共ニ總代表唐紹儀以下正式ニ通知シ来ル筈ナリト云ヘリ）尚錢総理ノ談ニ依レハ北方代表ハ本月末ヨリ一月早々ニ掛ケ何レモ一先南京ニ赴キ南方側カ會議地点ニ付南京ヲ承諾セハ好都合ナルモ然ラサレハ上海ニ赴キ開会スル予定ナリ又最近朱啓鈴ノ帝政犯人タルヲ理由トシ北方總代表タルヲ認メストノ孫洪伊等ノ説ハ新聞ニテ見タルモ未タ南方ヨリ何等電報ナク要スルニ今日ハ過去ヲ云々スル場合ニアラサルヲ以テ縱令斯カル主張ヲ提起シ来ルトモ取合フ限りニアラストノコトニテ國務總理ハ最後ニ妥協會議ノ前途ニ言及シ其結果如何ハ予メ断言シ難キモ電報書面上ニテ双方ノ意見主張ヲ論争スルノミニテハ到底双方ノ一致融和ヲ見難キモ双方代表一堂ニ会シテ直接商議セハ必スヤ相當利益アル結果ヲ來スヘキコトヲ信ス万ニ妥協進行ニ障害アル事態發生ノ場合ハ御好意ニ從ヒ御助力ヲ依頼致スヘク殊ニ妥協善後処

分特ニ軍隊撤ニ要スル借款ニ付テハ特ニ日本ノ援助ヲ仰キ度旨ヲ切言セリ因ニ錢總理ハ妥協ニ關シテハ尠カラス樂觀ノ意向ヲ有シ居ルモノト見受ケタリ
上海、廣東、南京、雲南へ電報セリ

二九 十二月三十一日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報) 南京和平會議開催地ヲ繞り唐紹儀非難ノ李純
ノ談話報告ノ件

第一〇号

十一月三十日李純往訪ノ際聴取セル時局談要領左ノ通

一 会議ヲ南京ニ開クヨトニ関シテハ唐紹儀独リ反対

ル沙第ナルガ南方有力者ハ殆ント異議ナギニ付近ク軍政府

ノ政務會議ニ於テ其同意案ニ譲渡シ更ニ協力国会ノ通過ニ

語入三管六八ニ作甫東ニ添定ニテハシニ備文自分ニシテ

六賦中略正和二年十二月詔

方等大傳。法華經、涅槃經、觀無量壽經、成唯識論、中華書局影印。此五部書，是研究佛學的必讀書。

卷之三

六月六日正午二時，兩者發集，謂之「一」。後凡也用「空同」之

三、中國內政關係雜誌

場合南方ハ會議ニ応セサルコトトハ成ルマジ辞意アラハ勝手ニ辞シテ可ナリ彼レハ何等ノ地盤モ手腕モナキ一個口舌ノ所謂過激派ナリ各國政府ハ歐洲ノ過激派ヲ惡ミテ支那ノ過激派ヲ惡マサルハ余ノ解シ能ハサル所ニシテ又彼レハ日本ヲ利用セントシ日本ハ彼レヲ利用セントスルモノ、如キ

モ日本カ彼レヲ過信スルハ将来ニ禍ヲ貽ス所ニアラサルヤ
ヲ疑フト語リタル趣ナリ
北京へ電報、上海へ暗号ノ儘郵送セリ

日本外交文書 大正七年 第二冊 下巻 終

附錄 日本外交文書 大正七年第一冊（上下巻）日附索引